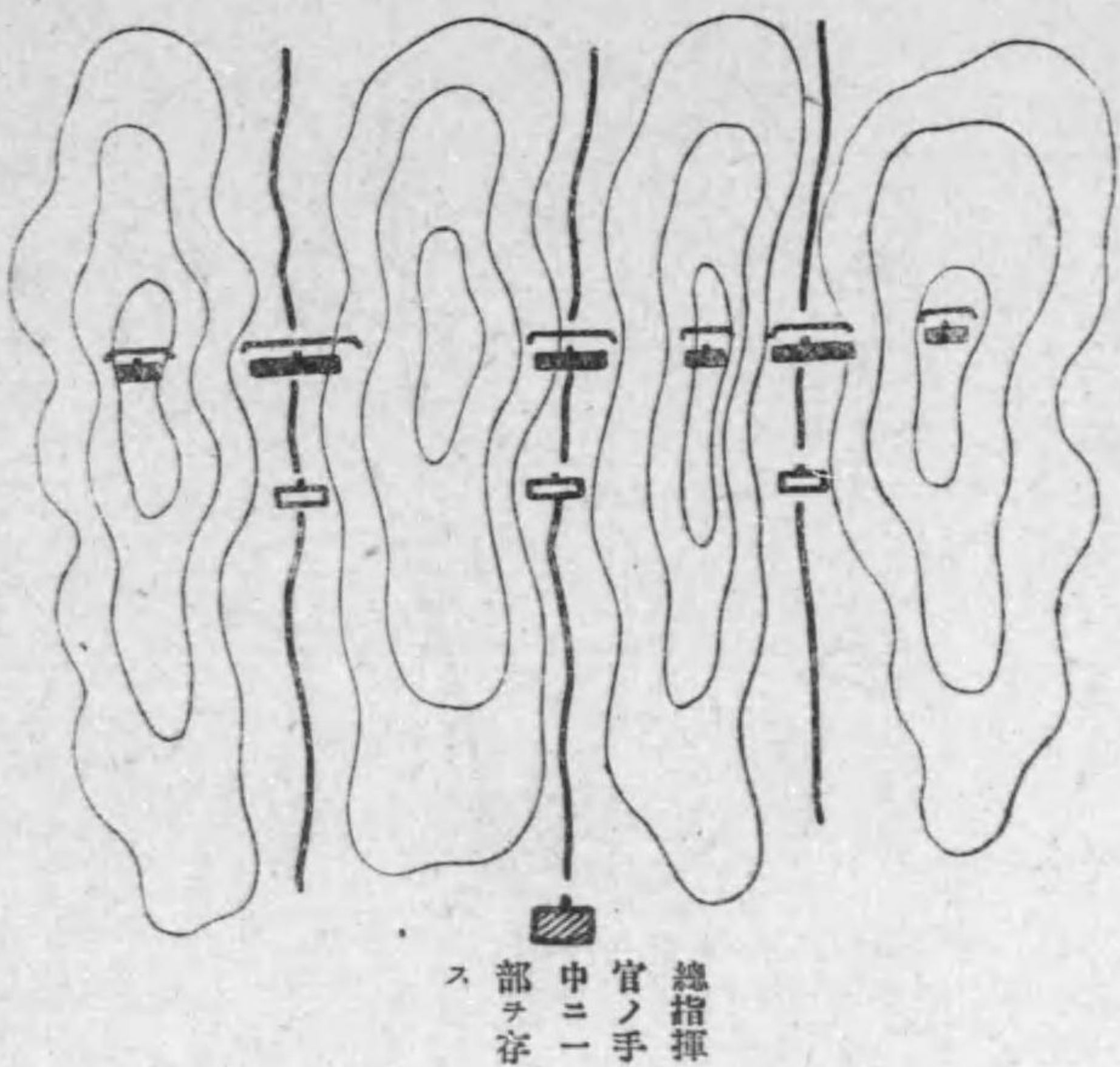


(3) 地區獨立防禦ノ一例



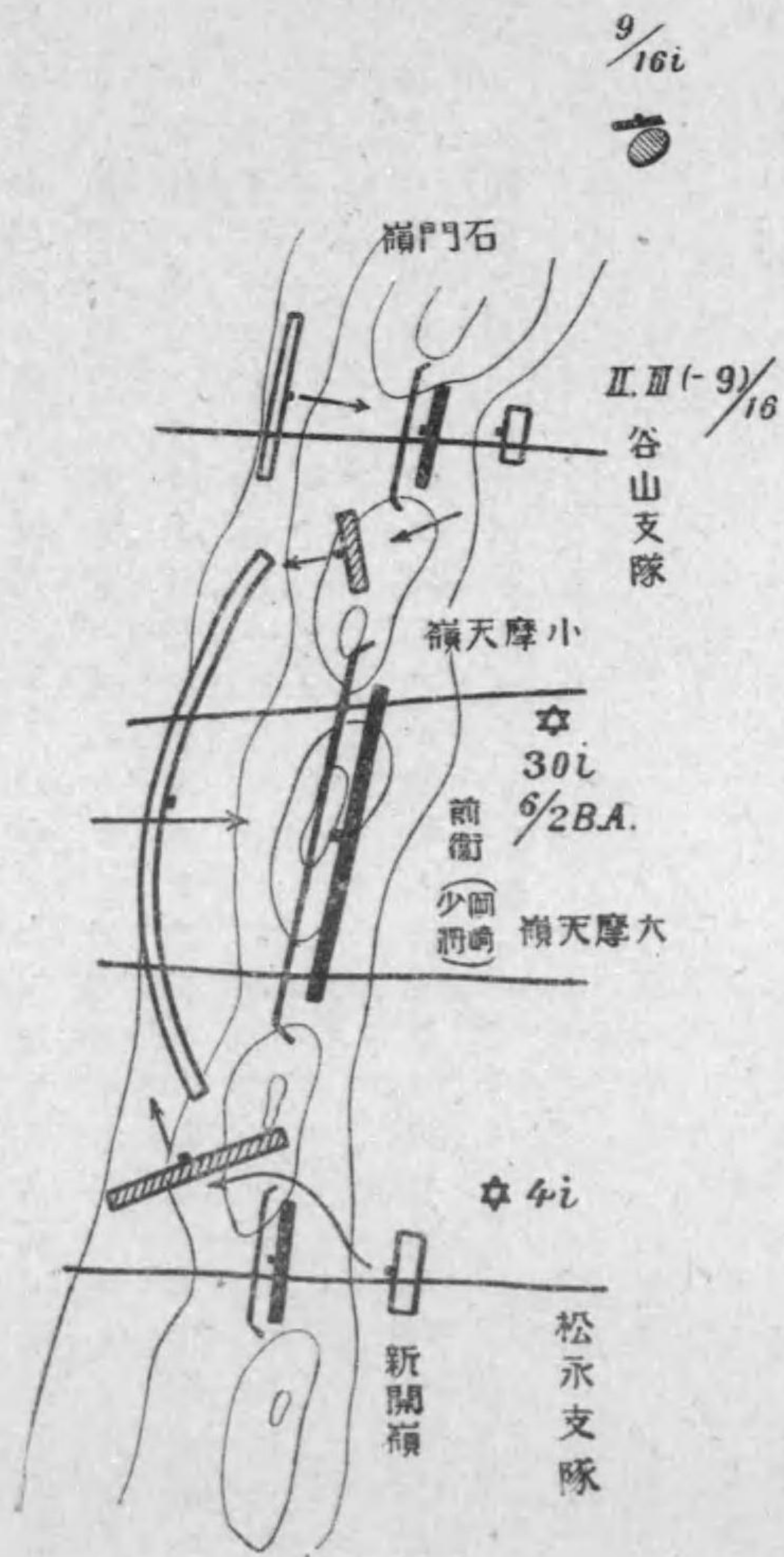
地區ノ獨立防禦ハ地形全ク總豫備ノ操縦ヲ許ササル場合ニ於テ軍隊指揮官ハ手裡ニ僅少ノ一部ヲ保有シ其他ノ地區ノ價值ニ從ヒ之ヲ分割シテ各地區獨立シテ其地區ニ於テ決戰ヲ企圖セシムル防禦法ナリ

此場合ニ於テ狀況之ヲ許セハ比隣部隊相互ニ協力スルハ特ニ緊要ナリトス

之ヲ要スルニ東亞ノ地形ニ於テハ中央陣地ノ占領困難ニシテ稀ニ山地ヲ進出スル敵ニ對スル山地後方地區ニ於テ中央陣ヲ占メ得ヘキモ寧ロ主トシテ分列陣ノ戰法ヲ採用スルヲ適當トスル地形多ク殊ニ本邦ノ地形ニ於テハ多クハ獨立防禦方式ニ適スルモノ多シ要ハ地形ノ價值ト特質ヲ適當ニ判斷シ適宜ノ方式ヲ彼我相應用ズルヲ要ス指導方法ノ狀態ノ細部ニ關シテ諸官ハ過去戰役中第一軍及鴨綠江軍ノ作戰ヲ研究セラレンコトヲ切望ス

若夫レ持久戰ノ目的ヲ以テスル山地ノ利用ノ方法ニ至リテハ後日説明スルノ機會アルヘキヲ以テ茲ニ之ヲ省略ス

戰例 七月十七日摩天岑附近第二師團ノ戰鬪(比隣部隊へ協力ノ一例)



森林及住民地戰

想定

所要地圖 二十萬分一名古屋、神戶、白子、川崎、龜山、磯濱、若松

一 伊賀國上野方向ヨリ上柘植ヲ經テ東進中ナル敵ニ對シ成
 ルヘク西方ニ地歩ヲ領有シテ其前進ヲ遲滯セシメ以テ後續
 團隊ノ來着ヲ待ツヘキ任務ヲ有スル藍軍先遣支隊ハ五月十
 二日一縱隊トナリ四日市ヲ經テ南進シ午前九時其前衛歩兵
 ノ先頭ヲ以テ追分三叉路附近ニ達ス

此時迄ニ支隊長ノ知り得タル諸情報ヲ綜合スレハ左ノ如シ
 (1) 歩兵五六千、野砲八門内外ヲ有スル敵ノ一縱隊ハ關ヲ
 通過シテ東進シ午前九時ニハ其先頭龜山東端附近ニ達

スルノ距離ニ在リ

(2) 我騎兵中隊ハ稍優勢ナル敵騎ノ壓迫ヲ受ケ國府方向ヨリ神戸方向ニ退却中ナリ

(3) 内部川ハ所々徒涉場アリ鈴鹿川ハ參宮道以東ニハ徒涉場ナキカ如キモ同街道ヨリ上流ハ所々徒涉場アルカ如シ

水田ハ諸兵ノ行動ニ支障ナシ

森林ハ疎林ニシテ概ネ百米内外ノ通視ヲ許ス又各兵種ノ運動ニ妨ケナシ

圖上片點線路ハ野砲ノ通過自在ナリ

方形ノ村落ニハ圍壁ヲ有スルモノ多シ

(4) 我後續團隊ハ(師團長ノ率ユル約半師團)本日午後四時

二 頃ニハ四日市附近ニ到着シ得ル豫定ナリ
當時ニ於ケル支隊ノ軍隊區分左ノ如シ

搜索騎兵

騎兵第一中隊(三分隊欠)

前衛

歩兵一大隊

同機關銃一小隊

騎兵半小隊

工兵第一中隊

本隊(同行軍序列)

騎兵一分隊

支隊本部(聯隊本部)

步兵第二大隊
 野砲兵第一中隊
 步兵第三大隊
 同機關銃一隊(一小隊欠)
 衛生隊半部

第一問題

午前九時ニ於ケル藍軍先遣支隊長ノ決心

第一問題答解上ノ著眼

一 支隊任務ノ解 任務ノ解ハ任務達成上攻守何レノ戰鬪方式ヲ選定スヘキヤ
 ヲ解決スルニ在リ
 支隊ノ任務ハ成ルヘク遠ク西方ニ於テ敵ヲ拒止スルニアルヲ以テ單ニ此點ヨ
 リ見ルトキハ敵ト遭遇戰ヲ企圖シテ前進スルヲ可トスルカ如シ然リ地形良好

ナリセハ倍數ノ敵ニ對シ遭遇戰ヲ交ユルトモ必スシモ不可ナシト雖之ヲ本狀
 況ニ就テ見ルニ敵若東海道ヲ一縱隊ノミヲ以テ前進スルナランニハ彼我ノ遭
 遇點ハ石藥師ト庄野トノ中間地區附近ニシテ縱令敵ノ兵力優勢ナリトスルモ
 敢テ勝算ナシト謂フヲ得ス然レトモ敵ハ此際少クモ有力ナル一部隊或ハ主力
 ヲ東海道以北ノ地區ニ使用シ逐次地歩ヲ占メツツ前進シ來ルコトヲ思ハサル
 ヘカラス此場合ニ於テハ支隊ハ敵ト決戰ヲ交ユルノ不利ナルハ勿論ナルヘシ
 敵若主力ヲ以テ鈴鹿川右岸地區ヨリ行動スルニ當リ我モ亦神戸西方約二吉米
 ニアル算所附近ニ主力ヲ使用スルコトハ地形劣勢軍ニ對シテ特殊ノ利益ヲ提
 供セサルヲ以テ勝算ノ見込少ナシ果シテ然ラハ支隊ハ此際敵カ過失ヲ犯シ東
 海道ヲ一縱隊ニテ前進スル場合ニ於テノミ遭遇戰ヲ交ヘテ勝算アルモノナリ
 而シテ敵ノ此過失ハ豫期シ難キモノナリ
 支隊元來ノ任務ハ後續團隊ノ來著迄敵ヲ拒止スルニ在リ而シテ遠ク西方ニ地
 步ヲ領有スル希望ハ今ヤ狀況上之ヲ達シ得サルカ故ニ支隊現在ノ位置ト豫期
 遭遇點間ニ適當ナル位置ヲ占メ之ニ據リテ敵ヲ拒止シ本夕到著スヘキ後續團

隊ヲ待ツヲ適當トス而シテ河原田西方高地ハ後續團隊爾後ノ行動ヲ容易ナラシムル爲此際支隊カ是非占領シ置カサルヘカラサル要地ナルヲ以テ此高地上ニ占位スルヲ緊要トス

二 敵情判斷

本敵情判斷ノ目的ハ敵主力ノ前進方向ヲ判定スルヲ主眼トス敵ハ東海道及龜山—神戸—追分道ノ二條ノ良好ナル道路ヲ利用スルコトヲ得
鈴鹿川右岸道路ハ彼我共ニ遭遇戰ヲ交ヘント欲セハ地形上兵力ノ運用ニ便ナルタケ之ニ據ルノ公算ナキニアラサルモ支隊ニシテ守勢ニ立チシコトヲ察知セハ敵ハ爾後ノ立脚地ヲ得ンカ爲速ニ我ヲ擊退シテ河原田村西側高地附近ヲ占領スルコトヲ努ムルナラン而シテ木田高岡間ノ高地ノ攀登容易ナラサルト參宮道以東鈴鹿川ニハ徒河點渺ナキ關係上參宮道方向ヨリ我ニ迫ルトキハ永ク其前進ヲ遲滯セラルル虞アルヲ以テナリ敵ハ東海道及其以北ノ地區ヨリ地步ヲ占メツツ前進シ速ニ河原田西方高地ノ主宰者タランコトヲ努ムヘシ約言スレハ敵ハ鈴鹿川左岸地區ヨリ前進スルモノト判定スルヲ適當ト認ム

三 地形ノ觀察

支隊ハ後續團隊ノ到著迄河原田西方高地上何レノ地附近ニ位置スヘキヤヲ考察スルニ石藥師附近迄進出スルヲ得ハ一時能ク敵ノ前進ヲ遲滯セシメ且後方ニ餘地ヲ保有スルノ利アリト雖該地點迄前進センカ殆ント遭遇戰トナリ支隊防禦ノ爲準備ノ餘裕ヲ得ル能ハス故ニ時間ノ許ス範圍ニ於テ比較的後方ニ餘地ヲ存スルヲ度トシ南小松南方臺上ニ占位スルヲ適當トス

第一問題原案

支隊ハ南小松南方臺上ニ陣地ヲ占領シ後續團隊ノ來著ヲ得タントス

狀況

午前九時三十分先遣支隊長ハ行進中敵ハ其主力ヲ以テ東海道

ヲ一部ヲ以テ同街道北方地區ヲ廣瀨方向へ前進中ナルコトヲ知ル

第二問題

南小松南方高地附近藍軍先遣支隊防禦配備要圖

第二問題答解ニ對スル總評

諸官ノ考案ハ防禦線ニヨリ種別スレハ左ノ二案アリ

第一案 下大久保東南方約千米獨立標高55.5ノ地點附近ヨリ木田附近ニ

亘ル谷地北岸ノ線ヲ占領スル案

第二案 南小松ヨリ同村南方森林ノ突出部附近及國分西方谷地北岸ヲ經テ木田附近ニ亘ル線ヲ占領スル案

更ニ之ヲ戰鬥目的ニヨリ區別スレハ決戰防禦持久防禦ノ二種アリ

左ニ諸案ニ就テ研究セシ

第一案ハ前面ニ若干有利ナル歩兵ノ射界ヲ有スト雖正面兵力ニ比シ著シク過廣ナルノミナラス水田ノ通過ハ困難ナラサルカ故ニ堅固ナリト稱スルヲ得ストニ敵ノ一部ハ深溝方向ヨリ下大久保ヲ經テ前進シ支隊ノ配兵セサル地點ヨリ下大久保東南方臺上ニ地歩ヲ占ムルニ至ルノ虞アリ

若此線ヲ占領シテ支隊ノ目的ヲ達成セントセハ第一線ハ谷地北岸ノ要點ヲ據點式ニ占領シ主力ヲ後方ニ控置シ砲兵ハ兩側方ヨリ谷地内ヲ縱射シ得ル如ク配備シ遊動防禦ヲナササルヘカラス而シテ其戰鬥手段ハ決戰ニ依ラサルヘカラス第二案ハ自己ノ兵力ヲ相當ニ使用シ而モ敵ヲシテ其兵力殊ニ砲兵ヲ有利ニ使用セシメサル考案ニ基クモノニシテ前者ニ比シ寧ろ有利ナリ然レトモ此考案者ニシテ單ニ防支ヲノミ主トスルモノアルハ適當ナラス之此地形ニ於ケル戰鬥ハ短時間ニ終了スヘキ特性ヲ有ス從テ此考案ヲ立ツルモノハ堅確ナル意志ヲ以テ假令倍數ノ敵ニ對シテモ斷然決戰ヲナスノ覺悟アルヲ要ス之カ爲ニハ森林及村落ヲ如何ニ利用スヘキヤヲ研究シ兵力使用法ヲ考察セサルヘカラス換言スレハ火戰

ト白兵戦トヲ如何ニ活用スヘキヤニ關シ考慮セサルヘカラス
之ヲ要スルニ以上ノ二案何レニヨルモ共ニ持久目的ヲ達成スル爲決戦方式ヲ用
フルノ必要ナルヲ考察シ之ニ應スルノ準備ヲナスヲ要ス
砲兵ノ使用法ニ就テ

攻勢防禦ニ於ケル砲兵使用法ノ一般原則ハ諸官ノ熟知スル所ニシテ敢テ茲ニ
説明スルヲ要セサルヘシ又斯ノ如キ蔭蔽錯雜地ニ於テモ砲兵ハ之ヲ有利ニ使
用スルノ方法ヲ講究スルヲ要ス砲兵陣地ナシトシテ之ヲ使用セサルカ如キハ
不可ナリ已ムヲ得サレハ戦闘初期ノミ或ハ決戦以外ノ地域ニテモ之ヲ使用ス
ルヲ要ス

射界ノ清掃ニ就テ

射界ノ清掃ノ必要ナルハ勿論ナルモ廣地域ニ亘ル森林ヲ伐採スルカ如キハ短
時日ニ於テ實施スルハ不可能ナリ

障碍物ノ設置ニ就テ

障碍物設置ノ爲充分ナル時間ノ餘裕ヲ有シ且敵ノ除去作業ヲ妨害シ得ルニ方

リテハ敵ノ據ルヘシト豫想セラルル森林出口等ニ設備スルハ固ヨリ可ナルモ
斯ノ如キ作業ハ常ニ實施シ得ルモノニアラス蓋シ陣地ノ設備ニ方リテハ他ニ
重要ナル設備ノ施スヘキモノアリテ之ニ着手スルコト不可能ナル場合多ケレ
ハナリ凡ソ作業ノ實施ニ方リテハ其必要ノ度ト其之ニ要スル時間トヲ顧慮シ
其着手ノ順序ヲ決定セサルヘカラス濫リニ枝葉ノ技巧ヲ施シ其順序ト輕重ヲ
誤リ本末ヲ轉倒セサルヲ要ス

前進陣地ニ就テ

防支ヲノミ主トスル考案者ニアリテハ格別ナルモ決戦ヲ企圖スル考案者ニア
リテハ大ナル前進部隊例ヘハ支隊ノ内ヨリ其六分ノ一タル二中隊ヲ出ス如キ
ハ不利ナリ宜敷ク目的ト狀態トヲ顧慮シテ決定スルヲ要ス

防禦配備ニ就テ

一連ノ防禦配備ハ初心者ノ犯シ易キ缺點ナリ能ク地形ノ價值ヲ研究シ常ニ集
團式即チ據點式防禦配備ヲ利用シテ兵力ヲ節約スルコトヲ努ムヘシ
後續兵團ノ行動方面ニ就テ

後續兵團ノ行動方面ニ着意ナキモノアルハ不可ナリ之後續兵團ハ支隊ノ作戰ヲナス所以ノ主體ナレハナリ本地形ニ於テ後續兵團ノ主力ヲ北方地區ヨリ行動セシムヘキモノト判断スルハ適當ナラス地形ト彼我ノ兵力トヲ對比セハ寧ロ神戸方面ニ行動セシムルヲ至當トス之支隊カ河原田西方高地ヲ確保シアルヲ必要トスル所以ナリ但シ先遣支隊ノ戰況ニヨリ一部ヲ此方面ニ出スコトアルハ固ヨリ絶無ニハアラサルヘシ

敵ノ攻撃方向ニ就テ

諸官ハ地形上ノ弱點ヲ研究シ敵兵之ニ對シテ攻撃スルモノトシテ地形上ノ弱點ニ堅固ニ防禦配備ヲナシアリ之固ヨリ可ナリ然レトモ更ニ考慮スヘキハ攻者ノ攻撃點ハ唯ニ地形上ノ弱點ノミナラス地形及配備上全般ノ弱點ニ對シ攻撃スルナルヘシ故ニ諸官ハ防禦ニ方リテハ配備ヲ爲シタル後ニ於ケル全般ノ弱點ニ就テ研究セサルヘカラス

第二問題答解上ノ著眼

一 防禦線ノ決定

南小松南方附近ニ於テ支隊ノ選定スヘキ防禦線ニアリ

(甲) 下大久保ヨリ木田ニ亘ル高地端ノ線

(乙) 南小松ヨリ國分ニ亘ル線

(甲)ハ前方ニ谷地ヲ控ヘ一時敵ノ前進ヲ遲滯セシメ得ルカ如シト雖延長約四吉米ニ亘リ到底支隊ノ兵力ヲ以テ倍數ノ敵ニ對シ後續團隊ノ來着マテ支持シ得ヘシト思ハレス殊ニ敵ノ一部下大保方面ノ臺上ニ地步ヲ占メツツ前進スルノ公算アルニ於テ殊ニ然リトス

(乙)ハ前方ニ射界狭ク且地形蔭蔽錯雜ニシテ火戰ヲ主トスル防禦線トシテハ有利ナラス然レトモ敵ニシテ其優勢ヲ利用シ得セシメサルヲ以テ地形ノ利用宜ヲ得ハ能ク戰勝ヲ博スルヲ得ヘシ若敵ニシテ過度ニ慎重ノ態度ヲ取り時日ヲ徒費セハ支隊ハ能ク持久ノ目的ヲ達スルヲ得ヘシ之ヲ要スルニ現下ノ狀況ニ於テハ(乙)ノ線ヲ選定スルヲ有利トス

二 支隊防禦ノ方針

支隊本然ノ作戰目的ハ時間ノ餘裕ヲ得ルニアルハ勿論ナリト雖南小松南方附近ノ地形ハ持久戰ヲナスニ適セス寧ロ敵兵力ノ使用ヲ制限シ得ルニ乘シ之ヲ擊破スルノ策ニ出ツルヲ適當トス而モ此高地ハ作戰上是非其本日中ハ保持セサルヘカラス茲ニ於テカ地形ヲ利用シ決戰ヲ交ユルノ覺悟アルヲ要ス故ニ支隊防禦ノ方針ハ決戰防禦ナルヲ要ス換言スレハ支隊ノ作戰目的ハ時間ノ餘裕ヲ得ントスルニアルモ之カ爲選フヘキ戰鬪方式ハ決戰意志ニ基ク防禦法ナルヲ適當トナス

三 地形細部ノ研究

本地形ノ研究ハ倍數ノ敵ニ對シ決戰ノ目的ヲ以テ南小松、木田附近ノ線ニ於ケル地區地物ヲ如何ニ利用スルヲ適當トスルヤヲ判定スルニアリ之カ爲支隊長ノ第一ノ着眼ハ本戰鬪ヲ指導スルニ方リ火力ヲ發揚スルニ便ナル地點ニ於テ眞面目ニ敵ト輸贏ヲ爭フコトヲ避クルニアリ支隊カ守勢ニ立ツ場合ニハ敵ハ道路ノ關係上其主力ヲ東海道ニ沿フ地區ヨリ前進セシムヘキカ故ニ同街道兩側ノ森林ハ彼我ノ決戰場トナルヘシ否此處ニ決戰ヲ導ク如ク部署スルヲ有利

トス蓋シ此地區ニ於ケル戰鬪ニハ敵ハ其砲兵ノミナラス其歩兵ト雖意ノ如ク使用スルコト不可能ナルヲ以テ寡兵ヲ以テ目的ヲ達セントスル支隊ノ當ニ利用スヘキ所ナリ

茲ニ於テ支隊長ハ敵ノ兵力ヲ成ルヘク此森林内ニ吸收スルコト及他方面ヨリ溢出シ來ル敵ヲシテ決戰間之ヲ拒止シ得ル如クセサルヘカラス叙上ノ着眼ヲ以テ配備要領ヲ決定スルコト左ノ如シ

南小松南方畑地及草地ハ之ヲ堅固ニ守備シ優勢ナル敵ニ對シテ之ヲ支持シ我砲兵ノ使用ヲ有利ニシ敵ノ砲兵ノ使用ヲ困難ナラシメ以テ兵方ノ不足ヲ醫スルノ處置ヲ取ラサルヘカラス

國分附近ハ之ヲ堅固ニ編成シ木田西北方ヨリ接近シ林縁ニ現出スル敵ニ對シ之ヲ固守セシム而シテ此方面ニ於テハ敵ハ其砲兵ヲ有利ニ使用シ得サルカ故ニ之ヲ拒支シ得ルノ見込大ナリ

高岡北方高地ハ騎兵ヲシテ之ヲ守備セシメ且必要ニ應シ歩兵一中隊機關銃一小隊ヲ同地ニ差遣スルノ準備ヲナシ置クヲ要ス

- (1) 下大久保木田間ノ谷地北岸ニハ所々ニ監視兵ヲ配置ス
- (2) 南小松南方畑地ニハ步兵二中隊、機關銃一小隊及野砲兵一中隊ヲ配置ス
- (3) 國分村落ハ步兵一中隊、機關銃一小隊ヲ以テ堅固ニ守備ス
- (4) 步兵二大隊ヲ國分北方東海道兩側ニ配置シ森林戰ヲ準備シアラシム
- (5) 步兵一中隊、機關銃一小隊、工兵一中隊ヲ總豫備隊トシ國分東北側森林内ニ位置セシム
- (6) 騎兵中隊ノ主力ヲシテ高岡北方高地ヲ守備セシム

森林及住民地(圍壁ヲ有ス)ノ利用ニ關スル

原則的説明

森林及住民地ハ其成立ノ狀態、位置、形狀、廣袤等ニ關シ戰術上ノ價值ヲ異ニスルモノニシテ之ニ關スル戰術一般ノ原則ハ步兵操典、士官學校戰術學教程其他諸書ニ詳ナルヲ以テ之カ説明ヲ省略シ茲ニ其利用法ニ關スル一二ノ注意事項ヲ述フル

ニ止メントス(本卷一〇七頁掩蔽物利用ノ戰闘ニ關スル原則的説明參照)

第一 戰闘點トシテノ利用法

成立ノ狀態、位置、形狀、及廣袤適當ニシテ一部ヲ以テ之ヲ堅固ニ占領シ得ル場合ニハ通常戰闘ノ焦點トナルモノニシテ攻者ハ之ヲ據點トシ守者ハ之ヲ側翼ノ依托點トナシ又中間支撐點トシテ利用シ掩蔽物外ニ於ケル主力ノ決戰ヲ有利ナラシム此場合ニ於テハ掩蔽物其物ノ價值ト戰闘線ニ對スル關係位置ニ基キ戰闘指導上利用ノ目的ヲ定メ之ニヨリ其一般の價值ヲ判斷シ之カ守兵並其編成法ヲ講セサルヘカラス特ニ諸官ニ注意ヲ促ス所以ノモノハ諸官ハ動モスレハ戰闘指導上ノ目的ニ基ク判斷ヲ忽ニシ築城的設備ニ關スル價值ノ判斷ヲ主トスルヤノ傾アルコト是ナリ

第二 戰闘主線トシテ周縁附近ノ利用

戰闘主線トシテ掩蔽物ヲ利用スル時機ハ掩蔽物ノ廣狹能ク兵力ニ適合スル場合若ハ廣袤大ナルモ狀況上其附近ニ主線ヲ選定セサルヘカラサル場合ニ起ルモノニシテ甲ノ場合ハ極メテ幸運ナルモ乙ノ場合ハ不幸ノ場合ト謂ハサルヲ

得ス甲ノ場合ニ於テハ守勢地帯トシテ掩蔽物ヲ利用シ機ニ乗シ豫備隊ヲ掩蔽物外ヨリ行動セシメ守勢地帯ト協力シテ決戦ヲ有利ナラシメントスルモノニシテ前項所説戰鬪點トシテ利用スル場合ト其要領相似タリ但シ第一ノ場合ニハ局部ニ於ケル依托點トシテ一小部隊ヲ以テ利用シ本項乙ノ場合ハ戰鬪主線トシテ大部隊ヲ以テ利用スルヲ異ナリトス而シテ此際火線ヲ村落ニアリテハ周縁ニ森林ニ在リテハ周縁上又ハ内部或ハ稍前方ノ何レニ設備セラルヘキヤハ専ラ森林ノ性質及周縁ノ形狀ニ關係ス

乙ノ場合ハ戰鬪目的ニヨリ其利用法ヲ異ニス若決戦ノ目的ヲ有スル場合ニハ掩蔽物ノ前方ニ火線ヲ選定シ砲兵ヲ四角内ニ配置シ總豫備隊ヲ掩蔽物ニヨリテ秘匿シ騎兵ヲシテ側方ヲ警戒セシムルヲ可トス而シテ特ニ第一線ト掩蔽物内部トノ間ニ於ケル交通設備ニ注意シ又不幸ニシテ第一線部隊ノ掩蔽物内ニ壓迫セラレタル際部隊ノ混亂ヲ輕減スル爲ノ諸設備ヲナシアルヲ要ス如斯スルトキハ一ハ歩砲兵ノ同線配備ノ害ヲ避ケ且攻勢移轉ノ動作ヲ容易ナラシムルコトヲ得ヘシ而シテ敵兵若我配備セサル側方ヨリ迂回ヲ企圖スル場合ニハ

斷然正面ヨリ攻勢ニ轉スルヲ要ス

持久ノ目的ヲ以テ之ヲ利用スル場合ニハ村落ニ在リテハ其外圍ノ壁ヲ利用シ森林ニ在リテハ射撃ヲ妨ケサルヲ度トシテ林縁ノ内方ニ戰鬪主線ヲ選定スルヲ可トス此場合ニ於テ敵兵我守備セサル側方ニ迂回スルトキハ退却ノ餘儀ナキニ至ルヘキヲ以テ掩蔽物ノ内部ニ退却ノ設備ヲナスコトニ著意スルヲ要ス攻者ノ動作トシテハ掩蔽物ニ依レル敵兵ヲ攻撃スル一般原則ヲ適用スレハ可ナリ而シテ乙ノ場合ニ於テ一側ニ迂回ヲ企圖スルハ通常掩蔽物内ノ交通容易且一般進路カ關係良好ナル場合ニ限ルモノトス

第三 主戰場トシテ内部ノ利用

主戰場トシテ内部ヲ利用シ得ルハ森林ノミナリ何トナレハ村落ハ小部隊ノ複廓戰ヲ生起スヘキモ通常内部ニ於テ主力ノ戰鬪ヲ見ルコトナケレハナリ森林内部ヲ主戰場トシテ利用スルニモ決戦ノ目的ヲ以テスルモノト持久ノ目的ヲ以テスルモノトニヨリテ差異アリ決戦持久何レノ場合ニ於テモ内部ヲ利用スルニ方リテハ運動、通視、指揮ノ三大困難アル特性ヲ巧ニ利用スルヲ要ス此

三大困難ハ狀況ノ不明ヨリ生スル不安ノ念他方面ニ對スル誘惑、連繫及協同動作ノ困難ヨリ生スル部隊ノ分離ノ因ヲナシ易キモノナリ故ニ大部隊ヲ使用スルヨリモ小部隊ヲ使用スルヲ有利トス

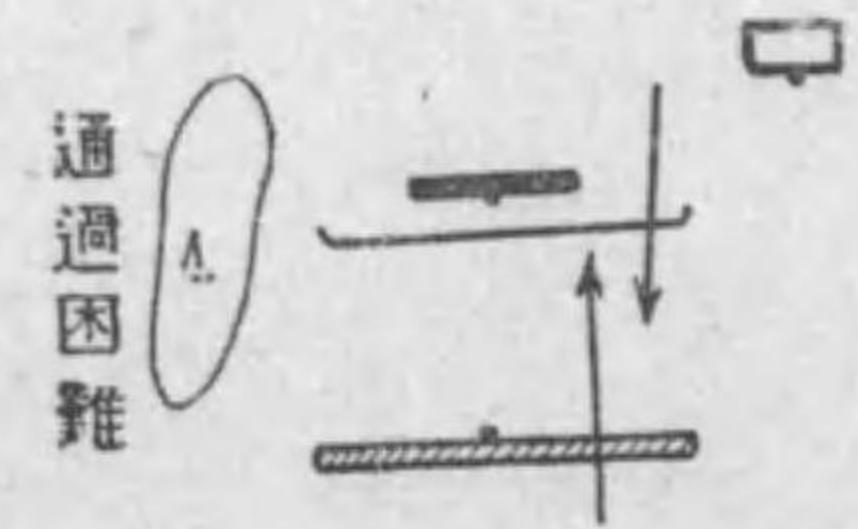
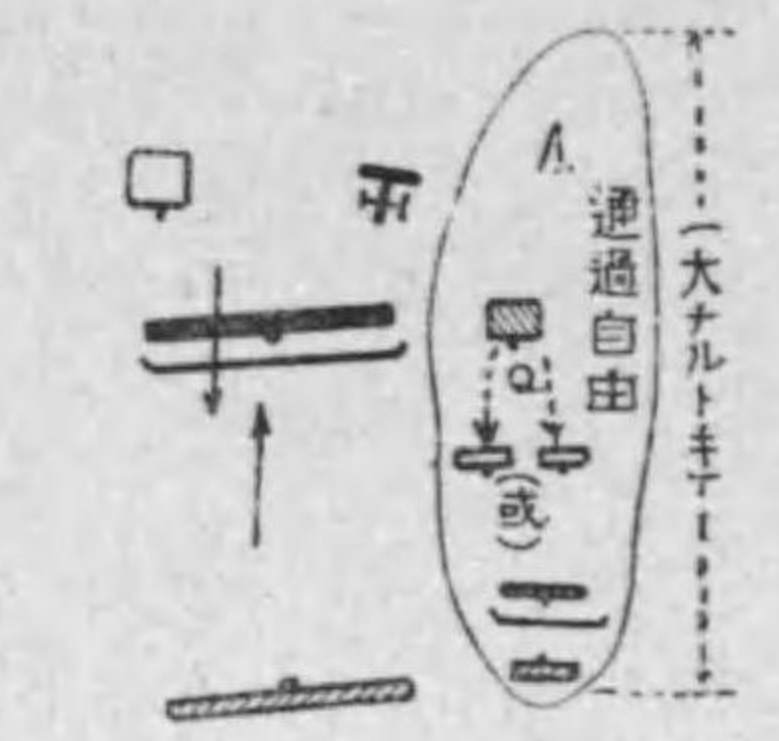
決戦ノ目的ヲ以テ森林内ニ於テ戦鬪ヲ交ヘント欲セハ右ノ特性ヲ利用スルト同時ニ森林内ノ戦鬪ハ白兵最前線ニ在ル散兵ハ一時猛烈ナル射撃ヲ加フルハ勿論ナルモ大體ニ於テ白兵戦ナリトスヲ以テスル遭遇戦ニシテ其勝敗ハ第一ノ衝突ニ於テ有利ナルトキハ必シモ全體兵力ノ優劣ニ關セサル特質ヲ利用セサルヘカラス換言スレハ兵力ノ優勢ナルモノモ開濶地ニ於ケルカ如ク十分其優勢ヲ發揮シ難キノミナラス寧ロ兵力大ナルハ大ナルニ從ヒ指揮其他森林内ニ於ケル戦鬪ノ特有ノ困難ヲ受クルコト大ナリ故ニ大部隊ニアリテハ森林内ニ兵力ヲ投入スルヲ避クヘク一方劣勢軍ハ其行動ノ輕捷ヲ利用シ優勢ナル敵ニ對シ有利ニ決戦ヲ交ヘンコトヲ企圖セサルヘカラス

之ヲ要スルニ森林ハ素質優秀ニシテ企圖心ニ富ム劣勢軍カ優勢ナル敵ニ對シ有利ニ決戦ヲナス爲利用スヘキ地形ノ一ナリトス之カ爲行フ方法手段ハ操典

ニ記載シアル原則ヲ應用スレハ可ナルヘク此際特ニ注意ヲ要スル所ハ敵ノ前進スル一般方向ノ判斷ニ基キ豫メ定メタル進行方向ヲ確守シ躊躇スルコトナク所信ヲ敢行スルコト之ナリ

持久ノ目的ヲ以テ利用セント欲セハ小部隊ヲ各方面ヨリ敵ノ周圍ニ向ヒ攻撃セシメ優勢ナル敵ノ壓迫ヲ受クレハ之ヲ他方面ニ牽制シ敵ノ兵力劣勢ナルニ方リテハ之ヲ擊退シテ敵主力ノ側背ヲ脅威セシメ敵ヲシテ煩累ニ堪ヘサラシムヘシ而シテ此等ノ部隊ハ適宜ノ時期ニ於テハ豫定ノ集合地ニ集合シ更ニ爾後ノ行動ヲ準備ス而シテ要スレハ集合ヲ容易ナラシムル爲集合ノ核心トナルヘキ一部隊ヲ某地點ニ配置シ置クヲ可トスルコトアリ如斯スルトキハ敵ハ各方面ニ相當ノ兵力ヲ分散スヘキカ故ニ之ヲ集結シ更ニ爾後ノ行動ニ移ル迄兵力大ナルハ大ナルニ從ヒ大ナル時間ヲ要スルモノナリ殊ニ戦鬪日没頃迄繼續シタルトキニ於テ然リ之ニ對スル攻者ノ指導法ハ他ナシ如斯戦況ヲ豫察シタルトキハ主力ノ周圍ニ小部隊ヲ配置シテ豫メ其掩護ニ任セシメ主力ハ當初計畫シタル進行方向ヲ保持シ敢然トシテ森林ノ前線ニ進出スルニ在リ而シテ該

小部隊ハ斥候幕ヲ配置シテ敵情ヲ搜索シ敵兵攻撃シ來レハ主力ノ前進掩護ヲ
 主トシ徒ラニ敵ニ追隨シテ其牽制スル所トナラサルヲ要ス
 如斯場合ニ於テハ砲兵及小行李ノ如キハ直後ニ於ケル用途ノ有無ヲ顧慮シ後
 方ニ跟隨セシムルカ若ハ掩護隊ヲ附シテ後方ニ殘置スヘキモノトス
 之ヲ要スルニ此種ノ森林ハ前述三大困難ノ利用法如何ニヨリ決戦ニモ持久戰
 ニモ利用シ得ルモノニシテ如何ニ之ヲ活用スヘキヤハ專ラ指揮官ノ手腕ニ待
 タサルヘカラス理論トシテハ斯ノ如キハ甚タ矛盾ノ感ナキ能ハサルモ戰場ノ
 波瀾ハ常軌ヲ以テ律スヘカラサルモノアルカ故ニ此ノ如キ權道モ亦能ク肯綮
 ニ中リ戰勝ヲ博スルコトアルハ戰史ノ證明スル所ナリ
 尙ホ森林ノ利用法ニ於ケル二三ノ例ヲ圖示スレハ左ノ如シ



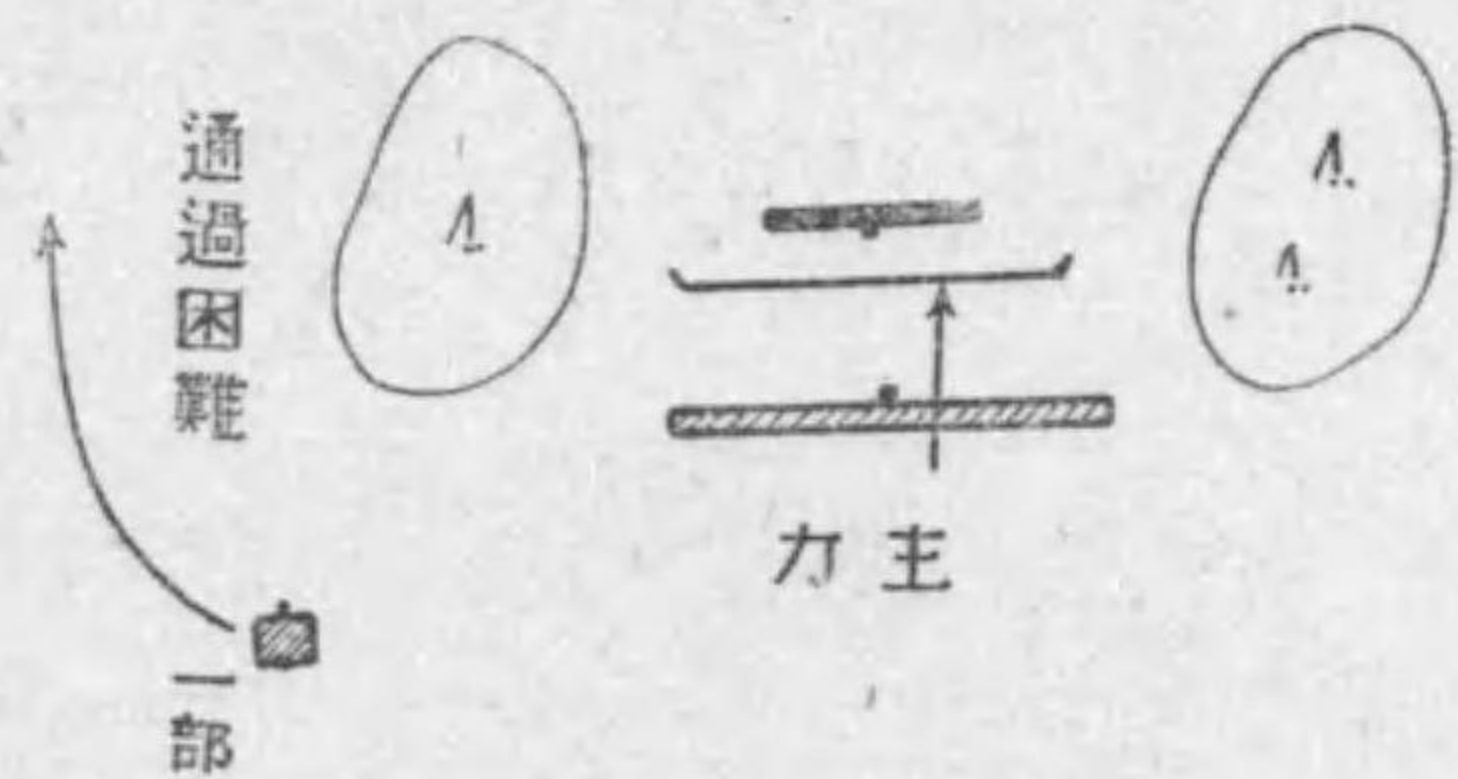
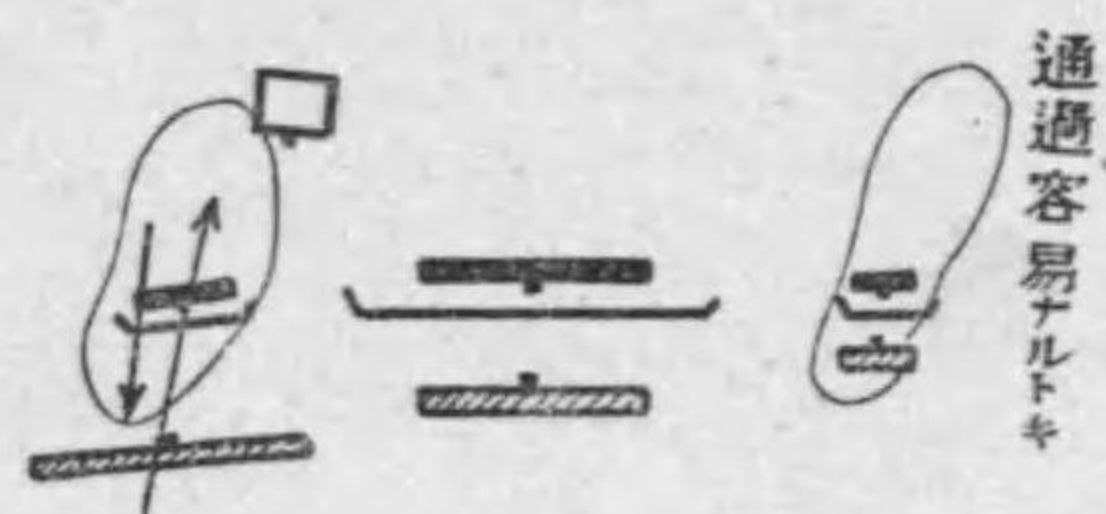
河川戰鬪

想定

所要地圖

二十萬分一豐橋、名古屋
 二萬分一上野、岡崎、知立、箕輪

- (イ) 名古屋方向ノ敵ヲ擊攘スヘキ任務ヲ以テ豐橋方向ヨリ前進シタル藍軍第一軍(三師團ヲ主幹トス)ハ藤川(岡崎東南方約二里)菱池(岡崎南方約二里半)上横須賀(西尾東南方約一里)附近ニ開進シ各一小部隊ヲ矢作川(舉母ヨリ下流ニハ全ク橋梁ヲ有セス)左岸ニ派遣シ以テ該河渡河ノ諸準備ヲナシツツア
- (ロ) 在藤川A少將ハ五月十九日正午左ノ要旨ノ軍訓令ヲ受領ス



第一軍訓令

五月十七日午前九時
於蒲郡

二二八

- 一 名古屋方向ヨリ矢作川右岸地區ニ前進シタル敵ノ兵力ハ約二師團ニシテ其歩騎兵ヨリ成ル監視部隊ハ渡合岡崎北方約二里ヨリ下流矢作川ノ各渡場ニ配布セラレアリ我騎兵第一聯隊ハ細川岡崎北方約一里半附近ニ在リテ敵情ヲ搜索中ナリ
- 二 軍ハ今夜十二時ヨリ西淺井岡崎西南方約二里半棚尾西尾西方約一里間ニ於テ矢作川ノ渡河ヲ開始シ先ツ主力ヲ以テ櫻井東端ノ線ヲ占領シ後敵ヲ求メテ之ヲ攻撃セントス
- 三 貴官ハ部下旅團騎兵第一聯隊野砲兵第一聯隊第一大隊

(ハ)
聯隊段列一小隊獨立工兵第一中隊第一師團衛生隊半部第一師團電話隊半部臨時架橋縱列約二百米ヲ架橋シ得ルモノトスヲ指揮シA支隊トナリ本夜岡崎以北ニ於テ矢作川ヲ渡河シ成ルヘク多クノ敵ヲ該方面ニ牽制シ以テ軍ノ渡河及前進ヲ容易ナラシムヘシ

四 予ハ正午以後上横須賀ニ在リ

(ハ)

此時迄ニ別ニA支隊長ノ知り得タル所左ノ如シ

- (1) 矢作川ノ景況ハ二萬分一地圖ト大差ナク兩岸堤防ハ高サ一米内外ニシテ諸兵種ノ行動ニ妨ナシ
- (2) 森林ハ小松ニシテ展望射擊及運動ヲ妨ケス
- (3) 村落ハ概ネ圍壁(土壁)ヲ有ス
- (4) 明治用水ハ目下唯其痕跡ヲ存スルノミ

- (5) 圖上片點線路ハ野砲ノ通過ヲ許ス
- (6) 水田ハ諸兵種ノ行動ニ妨ナシ
- (7) 矢作、北野、川端、今(渡合對岸)附近矢作川右岸ニハ二百名内外ノ敵歩兵アリ
- (8) 宮畝附近ノ徒涉場ハ歩兵ハ二列騎兵ハ一伍ニテ通過シ得ルモ野砲ハ通セサルカ如シ
- (9) A支隊ノ内騎兵聯隊ハ主力ヲ以テ細川、一部ヲ以テ岩津附近ニ歩兵第一聯隊第十二中隊ハ鴨田、同第二聯隊第十二中隊ハ岡崎西端附近ニ在リ其他ハ藤川附近ニ在リテ何時ニテモ出發シ得ル姿勢ニ在リ

第一問題

正午ニ於ケルA支隊長ノ決心

第一問題答解ニ對スル總評

本問題ニ對スル諸官ノ作業ヲ作戰指導ノ意志ニヨリ區別スレハ三種トナル即チ(甲)直ニ本夜ニ於ケル渡河ノ準備ヲナサントスルモノ(乙)本夜渡河ヲ實施セントスルモノ(丙)本夜渡河ヲ實施シ後矢作川對岸ニ立脚地ヲ確保セントスルモノ之ナリ三種共ニ皆支隊ノ作戰トシテ一度ハ之ヲ實施セサルヘカラサルモノナルモ抑支隊長ハ支隊ノ作戰ヲ指導センニハ夫レ夫レ實施上ノ順序アリ本問題ノ答解ヲ求ムルニ方リテハ支隊長ハ正午ニハ何事ヲ諸隊ニ命スヘキヤニ著眼スレハ可ナリ即チ支隊命令第二項ノ決心ハ即チ答解ニシテ處置ハ即チ各隊ノ分擔任務ノ基礎トナルヘキモノナリ

(注意) 作戰方針 稍將來ニ亘ル狀況判斷若ハ某行動ニ對スル腹案等ト決心トノ間ニ差異アルコトニ注意スルヲ要ス但シ計畫部(例ヘハ軍)ヨリ下ス命令ノ如キハ稍將來ニ亘リ行動ノ準繩ヲ與フルコト屢ナルモ之兵團ノ大

ナルカ爲ニ生スル必然ノ結果ナリト雖時々刻々適時ニ命令ヲ與ヘ得ル
カ如キ小部隊ニ在リテハ實行セントスル直後ノ意志ヲ以テ決心ノ主體
トナササルヘカラス

本問題ヲ以テ矢作川渡河ノ實施ヲ主要ナル研究事項トナシタルハ暫ク之ヲ恕ス
ヘシト雖本問題ヲ以テ單ニ渡河點ノ選定ノ如ク解シ彼此比較シタルニ止マル答
解ハ研究ノ疎漏ト評セサルヲ得ス何トナレハ支隊長ハ軍訓令受領直後ニ於テ必
ス支隊ノ作戰ノ爲指導上ノ大方針ヲ確定シ如何ナル方針若ハ主旨ニ基キテ渡河
點ヲ選定スヘキヤヲ決定シ猶ホ進ンテ局部ニ於ケル戰術上及技術上ノ研究ヲ爲
スヲ要スレハナリ

渡河開始ニ關スル腹案ニ於テ漫然單ニ支隊ノ渡河ハ陽渡河ナルカ故ニ軍主力ノ
渡河ニ先ツカ若ハ同時ナルヲ要ストナスハ不可ナリ宜シク此主旨ニ基キ更ニ研
究ヲ進メ軍ノ渡河行程ヲ豫想シ且我架橋完成ニ要スル時間又ハ宮畝附近ノ徒涉
ノ行程ヲ具體的ニ算定シ確實ナル基礎ノ下ニ時刻ヲ選定スルヲ可トス但シ此時
刻ハ固ヨリ豫定ニシテ對岸ニアル敵ノ監視部隊ノ行動ノ如何ニヨリテ差異ヲ生

スルハ勿論ナリト雖如斯豫定ヲ立テ之ヲ準繩トセサレハ終ニ適從スル所ナカル
ヘシ即チ支隊ノ諸準備ハ之ヲ基礎トセサルヘカラス
主力ノ渡河點ニヨリ諸官ノ考案ヲ區別スレハ左ノ四案アリ

- 第一 八帖附近
- 第二 大門附近
- 第三 岩津附近
- 第四 宮畝附近

第一案ハ主作戰路附近ニシテ且河川ノ景況上技術的價值ハ大ナリト雖架橋及渡
河ノ爲適當ナル掩護陣地ニ乏シク且主道路ノ近傍ナル丈敵ノ監視モ亦比較的嚴
ナルノ公算アルト此方面ハ敵カ夜間ノ行動ヲ以テ我動作ヲ妨害スルニ方リテハ
東海道ニヨリテ其準繩ヲ得ヘク其動作容易ナルハ支隊トシテ當ニ顧慮セサルヘ
カラサル所ナリトス

第二案ハ作戰路ノ近傍ナル點ハ前者ニ類似スルモ渡河準備ノ爲晝間ノ作業困難
ナルト河川ノ對岸ニ小丘阜アリテ敵ノ守備及我渡河ニ對スル妨害ヲ容易ナラシ

ムルノミナラス、矢作川西岸二條ノ小流ハ架橋ノ行動ヲ複雑且困難ナラシム
 第三案ハ作戰路ニ近ク動作スル點ニ於テハ前二者ニ亞キ架橋點トシテハ河川ノ
 景況我岸ノ高地又對岸諸村落ヲ架橋又ハ渡河掩護ニ利用シ得ルノ利益アリ
 第四案ハ確實ニ渡河ヲ終リタル後ニ於テハ西南面シテ作戰シ得ル爲有利ナル點
 ナキニアラサルモ作戰路ニ遠カルコト大ナルト渡河動作ニ不便ナルノ害アルノ
 ミナラス晝間砲兵ヲ渡河點ニ近ク準備位置ニ就カシメ得サルノ害アリ但シ敵ノ
 監視ハ位置ノ關係上多少薄カルヘシト雖而カモ之カ驅逐ハ他方面ヨリモ困難ナ
 ルヘシ

以上ノ利害アルヲ以テ諸官ノ大部ハ彼此相利用シテ支隊ノ渡河ヲ容易ナラシメ
 ントセンカ此點ニ就テハ予モ亦同意ヲ表ス然レトモ更ニ進ンテ何レノ地點ヲ如
 何ニ利用スヘキヤヲ研究セサルヘカラス茲ニ注意スヘキハ諸官ノ一部ニ所謂我
 田引水ノ說ヲ爲スモノナキニ非ラス公平無私ニ能ク事物ヲ觀察セサルノ致ス所
 ナリ換言スレハ諸官カ自ラ狀況中ノ人トナリテ事物ノ輕重要否ノ判別ヲ爲ササ
 ルニ基因スルモノナリ斯ノ如キハ戰術研究ノ進歩ヲ妨クルコト大ナリ深ク戒メ

サルヘカラス

數個アル渡河點ヲ支隊ノ目的ニ應シ利用スルニ方リテハ能ク當時ノ狀況ヲ考察
 シ併セテ之ヲ操典ノ原則ニ照合スルヲ要ス之カ爲ニハ步兵操典第二部第九十九
 工兵操典第二部第九十一ヲ參酌研究スルコト緊要ナリ詳言スレハ本渡河ハ何地
 ニ於テ行フヘキヤ及之ト同時ニ副渡河又ハ陽動ハ何地ニ於テ實施スヘキヤ又叙
 上渡河點ノ數ヲ如何ニ決定スヘキヤヲ研究セサルヘカラス
 渡河ニ關スル大體ノ考案成立セハ次テ之ニ著手スルノ順序方法ヲ考察セサルヘ
 カラス支隊主力ノ現在地ハ渡河點トハ遠キハ三里近クハ二里ヲ隔テアリ而カモ
 支隊ハ任務上本夜中ニハ渡河ヲ決行セサルヘカラス而カモ支隊長ノ腹案ハ主ト
 シテ圖上ノ研究ニヨルモノナルヲ以テ更ニ實地偵察ノ結果ヲ待テ決定セサルヘ
 カラサルモノ多シ此偵察ノ結果ニ依リ更ニ當初ノ考察ニ多少ノ修正ヲ加ヘサル
 ヘカラサルコトアルヘク從テ更ニ兵力ノ移動ヲモ行ハサルヘカラサルコトアル
 ヘシ叙上ノ如ク考察セハ支隊ノ渡河準備ハ即刻ヨリ著手セサルヘカラサルヲ知
 ルヘク此際過度ニ慎重ノ處置ヲ取ルハ遂ニ機ヲ失スルニ至ルノ虞アリ

第一問題答解上ノ著眼

一 狀況一般ノ考察

本判斷起案ノ第一著眼ハ軍訓令ニ基キ軍ノ矢作川渡河ニ關スル行動ヲ考察シ更ニ支隊ノ渡河ノ主旨ノ依テ來ル所以ヲ明ニシ以テ支隊ノ渡河計畫ノ基礎ヲ確立スルニアリ

矢作川右岸ニ在ル敵主力ノ位置及其企圖ニ關シテハ固ヨリ確實ニ判定スルコト不可能ナルモ河岸ニ少數ノ歩兵又ハ騎兵ノ監視部隊ヲ配置シアルト其兵力約二師團ナルコトヨリ考フレハ恐ラクハ某地ニ主力ヲ集結シ軍ノ渡河ニ乘シ之ヲ攻撃スルノ企圖ヲ有スルコトハ推測スルニ難カラス果シテ此ノ如クンハ敵ノ主力ハ岡崎西尾兩方面ノ何レニモ行動シ得ル如ク知立若ハ其南方地區ニ位置シアルヲ察知シ得ヘシ

敵情判斷右ノ如シトセハ軍司令官ノ意圖ハ本十九日夜半ヨリ秘密ニ西淺井ヨリ下流ニ於テ矢作川ノ渡河ヲ開始シ明拂曉迄ニ對岸櫻井ヨリ東端附近ニ亘ル

線ニ堅固ナル立脚地ヲ占メ後敵ノ主力ヲ求メテ之ヲ攻撃センコトヲ企圖スルナラン而シテ軍主力ノ渡河効程ハ之ヲ算定シ得サルモ明拂曉迄ニ渡河ヲ終ルヤ否ヤ疑ナキ能ハス縱令第一線部隊ノ渡河ヲ終ルモ部隊ノ整頓及敵情搜索等ノ爲時間ヲ要シ拂曉後直ニ前進動作ヲ開始スルコトハ不可能ナルヘク狀況ニヨリ拂曉時ニ於テ櫻井東端ノ線ニ於テ敵ノ攻撃ヲ受クルニ至ルコトナキヲ保セス

二 支隊ノ任務

支隊ノ任務ハ三個ノ要求ヲ含有シアリ其第一ハ軍主力ノ渡河ヲ容易ナラシムルコト第二ハ渡河後ノ立脚地ノ占領ヲ容易ナラシムルコト第三ハ軍ノ攻撃前進ヲ容易ナラシムルコト之ナリ換言スレハ第一ハ支隊ノ渡河法ヲ律スヘキ條件第二第三ハ渡河後ニ於ケル行動ノ準繩タルヘキモノナリトス而シテ之カ實行ノ順序トシテ上記第一ノ要件ヨリ逐次解決スルヲ要ス換言スレハ支隊ノ任務達成上軍主力ノ渡河ヲ容易ナラシムル爲支隊自身ノ渡河ヲ如何ニスヘキヤヲ講究セサルヘカラス

三 渡河點

支隊ノ渡河ノ目的以上ノ如クナルヲ以テ其渡河點ハ次ノ要旨ニ基キテ選定セサルヘカラス(一)支隊ハ軍主力ノ爲陽動ヲナスモノナリ故ニ大兵團ノ渡河シ得ル地附近ナルヲ要ス(二)支隊ノ渡河ハ迅速確實ニ實施スルノ必要上渡河動作ノ安全ナル地點ナルヲ要ス(三)渡河後優勢ナル敵ニ對スル場合ヲ顧慮シ對岸ヲ堅固ニ占領シ得ルヲ要ス今此主旨ニヨリ岡崎以北矢作川ヲ觀察スルニ支隊ノ爲採用シ得ヘキ渡河點ハ八帖附近岩津附近宮畝附近ノ三アリ左ニ更ニ之等渡河點ノ特質ニ就テ研究セン

イ 八帖附近

主要ナル作戰路ノ近傍ニシテ且河川ノ景況技術上ニ於テハ便ナルモ主要ナル道路ノ近傍ナル丈ケ敵ノ注意嚴ナルヘク又我岸ニ砲兵ヲ以テ掩護シ得ル地點ナキニアラサルモ敵岸ニハ架橋及渡河掩護陣地ノ良好ナルモノ乏シク且爾後ノ爲志貴村附近ノ高地ニ立脚地ヲ占ムルコト困難ナリ故ニ此地點ハ本渡河副渡河(材料乏シキ爲)ノ何レニモ適セサルモ敵ノ注意ヲ牽ク爲對岸ヨ

リ陽動ヲ行フニハ適當ナリ

ロ 岩津附近

岩津附近ハ主要ナル作戰路ノ近傍ニシテ且渡河點其モノノ景況ハ戰術上又技術上共ニ稍良好ナリ故ニ支隊主力ノ渡河點タルニ適ス然レトモ敵兵上野柵塚附近ヲ占領スルニ方リテハ該地附近ノ臺上ハ立脚地ヲ占ムルコト困難ナリ故ニ此困難ヲ醫スルノ手段ヲ講セサルヘカラス

ハ 宮畝附近

作戰路ニ遠ク且河川ノ景況不良ナルノミナラス晝間架橋ノ爲行フヘキ準備ハ對岸ノ敵兵ニ察知セラルルノ虞アリ故ニ架橋點トシテハ適當ナラス又徒涉點ハ人工ヲ要セスシテ渡河シ得ルノ利益アルモ支隊全部ヲ渡河センニハ架橋ヲ行フヨリ遙ニ長時間ヲ要ス故ニ支隊ノ本渡河點タルニ適セス然レトモ渡河後壽惠野村附近ノ臺上ヨリ支隊主力渡河後ノ立脚地占領ヲ有利ナラシムルニ便ナリ故ニ一部ノ歩兵ヲ以テ副渡河ヲ行フニ適ス

之ヲ要スルニ八帖ハ陽動ニ岩津ハ本渡河ニ宮畝ハ副渡河ニ適ス故ニ此三者ヲ

併用スルヲ要ス宮畝以北ハ作戰上及地形上目下ノ狀況ニ適セサルハ茲ニ説明ヲ要セサルヘシ

四 渡河開始ノ時機

支隊ハ全般ヨリ觀察セハ大體ニ於テ陽動ヲ行フモノナルヲ以テ原則トシテ其渡河ノ開始ハ軍ノ渡河ニ先ツカ遅クモ之ト同時ナルヲ要ス此要求ヲ充タサンカ爲架橋ノ速度ヲ顧慮シ之カ著手ノ時機ヲ適當ニ定メサルヘカラス實驗ニ依ルニ一橋即(四米)ヲ架設スルニハ晝間ニ於テ平均七分ヲ夜間ハ其一倍半即チ約十分ヲ要ス(夜間約二倍ト算スルヲ原則トスルモ實際約一倍半ニテ可ナルカ如シ故ニ之ヲ基礎トシテ岩津村附近ノ架橋ニ要スル時間ヲ概算セハ兩岸ヨリ架橋シ約四時間ヲ要スヘシ故ニ正子十二時ヨリ渡河ヲ開始セントセハ遅クモ午後八時ニハ架橋ニ著手セサルヘカラス而シテ作業間多少ノ故障及死節時アルモノトシ日没後直ニ作業ニ著手スルヲ要ス

五 渡河準備

軍全般ヨリ觀察セハ敵ノ近傍ニ於ケル秘密渡河ナルモ支隊ノ渡河ハ之ト異ナ

リ敵ノ監視部隊ヲ驅逐シテ行フ強行渡河ナリ故ニ不意ニ欺騙或ハ制壓ノ各種方法ヲ彼此應用シテ渡河ヲ實施スルヲ要スヘク且狀況上遲延ヲ許ササルヲ以テ爲シ得ル限り晝間ヨリ準備スルヲ要ス而シテ現下位置セル藤川附近ニ於テハ何事ヲモ爲シ得サルカ故ニ支隊ハ即刻ヨリ敵ニ祕シテ兵力ヲ移動シ尙詳密ナル偵察ヲナシ且本夜ニ於ケル渡河準備ニ著手セサルヘカラス

第一問題原案

決心

支隊ハ本夜ニ於ケル渡河ヲ準備スル目的ヲ以テ即刻ヨリ兵力ヲ矢作川河畔ニ移動セントス

理由

軍主力ノ渡河ハ本夜正子ヨリ開始セラルルカ故ニ支隊ハ軍ノ渡河開始ニ先ンシ矢作川ノ渡河ヲ開始シ以テ敵ノ注意ヲ支隊方面ニ牽制スルヲ要ス之カ爲支隊ハ

本日没直後ヨリ矢作川渡河準備動作ヲ開始セサルヘカラス
 支隊ノ渡河點ハ一方主作戰路ノ近傍ニシテ敵ノ注意ヲ引クヲ得ヘキ地點ナルト
 同時ニ他方支隊ノ渡河ノ安全ヲ期シ得ル點ニ選定スルヲ要ス此見地ヨリセハ岩
 津附近ヲ可トス然レトモ八帖附近ハ敵ノ注意ヲ引ク爲ニ最モ適良ニシテ又渡河
 後ノ立脚地ノ占領ノ爲ニハ宮畝附近ヲ可トスルヲ以テ岩津附近ヲ本渡河點宮畝
 附近ヲ副渡河點トシ兼テ八帖附近ニ陽動ヲ行フヲ要ス
 支隊ノ渡河ノ爲架橋ハ日没後直ニ開始セサルヘカラサルヲ以テ敵ノ監視部隊ノ
 驅逐及偵察等ハ日没前ニ行フヲ要ス從テ諸隊ハ即刻ヨリ移動シテ晝間ヨリ渡河
 點附近ニ進出スルヲ要ス而シテ各部隊ノ至ルヘキ地點ハ副渡河部隊ハ宮畝附近
 ニ將來架橋掩護隊トナスヘキ部隊ハ岩津附近ニ陽動部隊ハ岡崎西端附近架橋隊
 ハ西阿知和主力ハ東阿知和附近ナルヲ要ス
 此際支隊ノ兵力移動ノ爲ノ進路ハ對岸ノ敵ニ對シ行動ヲ秘匿スル爲足助街道ヲ
 避ケ其東方山地内ノ道路ニヨルヲ要ス

處置

- 一 騎兵第一聯隊、步兵第一聯隊第十二中隊、同第二聯隊第十二中隊ハ現任務ヲ繼
 續シ且支隊ノ轉進ヲ掩護セシム
 - 二 工兵隊長ヲシテ所要ノ偵察ヲナサシム
 - 三 步兵第一聯隊第一大隊、騎兵一分隊、工兵第一中隊ヲ前衛トシテ午後零時三十
 分藤川附近出發、岡崎、東阿知和ヲ經テ岩津東側ニ向ヒ前進セシム
 - 四 步兵第二聯隊第一大隊、機關銃一小隊、工兵第二中隊ノ半小隊ヲ右側衛トシ瀧
 惠田、奥山田ヲ經テ宮畝ニ向ヒ前進セシム
 - 五 殘餘ノ諸隊ハ左ノ序列ヲ以テ前衛ノ進路ヲ西阿知和ニ向ヒ前進セシム
- 騎兵一分隊
 旅團司令部
 工兵大隊ノ主力
 架橋縱列
 步兵第一聯隊第一大隊、第十二中隊及機關銃一小隊欠
 步兵第二聯隊第一大隊、第十二中隊及機關銃一小隊欠

野砲兵第一大隊

同聯隊段列一小隊

衛生隊半部

- 六、電話隊ヲシテ河岸ニ進出セル諸隊ト支隊主力間ニ通信網ヲ建設セシム
- 七、大行李ハ岡崎東端ニ向ヒ前進セシム
- 八、決心及處置ノ大要ヲ軍司令官ニ報告ス

狀況

支隊諸隊ハ豫定ノ如ク所定ノ位置ニ就キ細部ノ諸偵察ヲナス
 午後六時迄ニ支隊長ノ知り得タル狀況左ノ如シ
 宮畝對岸附近ニハ約三十ノ敵騎アリ又川端附近ニハ約百、北
 野附近ニ約六十、矢作附近ニ約二百名ノ敵歩兵アリ
 同時迄ニ師團電話隊ハ河岸部隊ト主力所在地間ニ電話通信網
 ヲ建設シ終レリ

第二問題

午後六時ニ於ケルA支隊長ノ決心(理由、處置ヲ要セス)

第二問題原案

支隊ハ日没ト同時ニ行動ヲ開始シ敵ノ監視部隊ヲ驅逐シ渡河ヲ實施セントス

第三問題

五月十九日夜ニ於ケルA支隊矢作川渡河計畫

第三問題答解上ノ着眼

渡河計畫中渡河ノ目的、渡河點、準備位置ノ概要ハ前問題ニ於テ既ニ研究シ終リタ
 ルヲ以テ本問題ニ於テハ各渡河點ニ於ケル渡河ノ實施及渡河後ニ於ケル行動ヲ
 計畫セサルヘカラス以下斯ノ件ニ關シ研究スル所アラントス

(甲) 渡河準備

此際渡河準備中晝間ヨリ行ヒ得ルモノハ晝間ニ於テスヘキハ勿論實施スルヲ

要シ猶之ヲ要スレハ工兵以外ノ兵種ヲ以テ之ヲ補助セシムルヲ可トス

本渡河方面

(1) 架橋點及架橋法ノ決定

支隊長ハ先ニ渡河點トシテ岩津附近ヲ選定セシモ工兵隊長ヲシテ更ニ此附近ニ於テ架橋點ヲ選定セサルヘカラス之カ爲ニハ爾後ノ交通ノ便否準備作業ノ多少架橋ノ難易ヲ顧慮スルヲ要ス本狀況ニ於テ天神橋附近ハ交通ニ便ナランモ材料ノ整備運搬等困難ニシテ晝間ニ於テ準備ヲ整フルコト困難ナリ又對岸ニハ河川ニ近ク運動ノ障碍タルヘキ細流アルニ於テ殊ニ然リトス此際架橋點トシテ適當ナルハ天神橋ノ下流五百米附近川端東南側水溜ト矢作川トノ合流點附近ヲ可トス蓋シ此地點附近ナレハ藏前南方小流ノ利用ニモ便ニシテ而カモ一般交通ニモ大ナル不便ナケレハナリ同地點附近ハ北野附近ノ敵砲兵ノ妨害ヲ受クルノ患アルカ如シト雖其害ハ之ヲ天神橋附近ニ設クルト大ナル差異ナカルヘシ

此際架橋法ハ其完成ヲ迅速ナラシムル爲兩岸ヨリ實施スルヲ可トス

(2) 補助渡河點ノ決定

補助渡河點ハ藏前南方小流ト矢作川トノ合流點ノ上流附近ヲ可トス之準備間敵眼ヲ避ケ得テ且架橋動作ヲ妨ケサル範圍ニ於テ架橋點ニ近接シテ諸種ノ事項ニ關シ便ナレハナリ

(3) 材料ノ區分及整頓

架橋點及補助渡河點決定セハ之ニ基キ材料ヲ卸下シ之ヲ整頓シ置カサルヘカラス之カ爲ニハ鐵舟泛水場左右兩岸架橋材料ノ區分整理及運送ノ準備ヲナスニ在リ鐵舟ノ組立及泛水ノ爲ニハ西阿知和ノ南北兩側ニ在ル小流ヲ利用スルヲ可トス該水流ヲ利用セハ矢作本流ニ出シテ後少シク上流ニ廻航セサルヘカラサルノ不利アリト雖之ヲ利用セサルニ比セハ其便至大ナリ

右岸架設用ノ材料ハ鐵舟泛水地ニ整理シ置キ掩護隊ノ渡河ニ引續キ對岸ニ運搬セサルヘカラス

左岸架設用材料ハ晝間敵ニ秘シ藏前東側凹地ニ準備スルヲ可トス(此際成シ得レハ獨立標高59.9南方約二百米附近ニ車輛ヲ通シ得ル徒涉場アルカ又ハ應

用材料ニヨリ架橋シ得レハ最モ妙ナリ而シテ此材料ハ更ニ日没頃ヨリ架設點ノ稍上流水田中ニ臂力ヲ以テ運搬シ再ヒ整理ヲナスヲ要ス又通路ノ標識ヲナスヲ可トス此際必要ニ應シ步兵ヲ以テ是等ノ動作ヲ援助セシムルヲ可トス

(4) 其他ノ準備

敵ノ監視隊ヲ驅逐スル爲ノ腹案、架橋掩護隊ノ豫定及其渡舟、主力ノ宿營ニ關スル諸件及爾後ノ集合ノ爲使用スヘキ道路、橋軸ノ決定、保持ニ關スル腹案又ハ橋礎用補助材料ニ關スル準備等ヲ整備シ置カサルヘカラス

副渡河方面

副渡河方面ハ徒涉場ヲ利用スルニアルヲ以テ對岸ノ監視兵ノ驅逐ト徒涉場ノ利用法及萬一ノ場合ニ於ケル修理等ニ對スル腹案ヲ確定シ置ケハ可ナリ

陽動方面

八帖方面及大門方面ト雖當面ノ敵ヲ驅逐シテ對岸ニ進出スルコトハ最モ希望スル所ナリト雖軍隊携行ノ渡河材料ハ本渡河方面ニ全部ヲ要スルヲ以テ之ヲ

配當シ得サルカ故ニ地方材料ヲ徵收シ之ヲ實施スルコトニ努メシム若本渡河方面ノ關係上絕對ニ材料ヲ得ル能ハサル場合ニ於テハ我岸ニアリテ動作スルニ終ルノ已ムナキニ至ルヘシ其行動ノ要領ハ晝間ヨリ故意ニ河岸ニ偵察將校ヲ徘徊セシメ又日没後大行李車輛又ハ架橋縱列ノ空車輛ヲ行動セシメ若ハ對岸ニ架設作等ニ類似シタル音響ヲ發セシムル等ノ方法ヲ採ルニアリ

(乙)

敵ノ監視部隊ノ驅逐及架橋掩護隊及右岸架橋作業隊ノ渡河

本渡河方面

敵ノ監視部隊ノ驅逐及此部隊ノ行動制壓ノ爲先キニ前衛トシテ派遣シアル歩兵第一聯隊第一大隊及機關銃一小隊ヲ使用シ其步兵一中隊ヲ天神橋ノ對岸ニ又一中隊ヲ宗定ニ出シテ當面ノ敵ヲ驅逐セシメ殘餘ハ先ツ藏前合流點附近ニ位置セシム

架橋掩護隊ニハ步兵第一聯隊第二大隊、機關銃一小隊ヲ以テ之ニ充テ第一回渡舟部隊タル第五、第六中隊ヲ西阿知和附近ニ於テ乗船シテ小流ヲ下リ豫定補助渡河點ヨリ渡河セシム第七、第八中隊ハ先ニ第一大隊ノ半隊ノ集合セル地點附

近ニ至リ第二次ノ渡舟ヲナス而シテ渡舟ノ順序ハ第二大隊ノ殘餘、機關銃小隊、小行李、第二大隊ノ殘餘、機關銃一小隊、小行李等ノ如ク緊要ノ度ニ應シ適宜定ムヘキモノトス馬匹ハ總テ最後ニ渡河セシムヘク爲シ得レハ軍橋完成後軍橋ヲ經テ對岸ニ至ラシム、諸隊ノ渡河ヲ開始スル迄ニハ聯隊長ノ率ユル歩兵二大隊、機關銃隊(一小隊欠)ヲ渡河セシメ渡河掩護隊トナス

對岸作業隊ハ工兵第二中隊、架橋縱列一半ヲ以テシ第一次掩護隊ノ渡舟後渡舟セシム而シテ工兵第二中隊ハ架橋ニ必要ナル全部ノ鐵舟ヲ使用シ逐次掩護隊ノ渡舟ヲ繼續セシム

副渡河方面

敵ノ監視部隊ノ驅逐ハ全ク短隘路ニ於ケル夜襲的ナルヘシ之渡河點概シテ限定セラレアルヲ以テナリ其要領ハ全ク敵ノ不意ニ乘スルノ外ナシ故ニ其時刻ハ日没後成ルヘク速カナルヲ要スルモ而カモ豫定シ難シ而シテ敵兵ヲ驅逐シタル後ニ於ケル渡河速度ニ關シテハ歩兵騎兵共ニ其行軍長徑ヲ二倍大トナシ其行進速度ヲ約四分ノ一ト見做シ計算セハ大差ナカラシ

(丙)

架橋掩護陣地及其配備

本渡河方面ニ於ケル架橋掩護陣地ハ中嶋東北方無名部落ヨリ阿彌陀堂中切西端ヲ經テ宗定西南端附近ニ亘ル線ヲ適當トス之前面ニ比較的射界ヲ有シ又後方ニ餘地アリ且我岸ヨリ砲兵ノ協力ヲ適當ニナシ得ルヲ以テ萬一架橋作業遲延シ明拂曉トナリタルトキト雖架橋點ヲ確實ニ掩護シ得ルヲ以テナリ

此際砲兵ノ主力ハ井ノ口附近ニ陣地ヲ占領シ掩護射擊ヲナスノ準備ニアルヲ要ス此砲兵陣地ノ選定ニハ掩護陣地ノ前面ヲ火制シ得ルト同時ニ北野附近ニ現出スヘキ敵砲兵ノ火力ヲ架橋點以外ニ牽制スル如クセサルヘカラス

此時機ニ於ケル副渡河部隊ハ壽惠野村鴛鴨附近ヲ占領シ架橋掩護隊ト連絡スルヲ要ス

(丁)

軍橋ノ架設

架設ノ爲最後ニナスヘキ準備ハ材料ノ整頓ト橋礎ノ構築ナリ材料ノ整頓ニハ二時間ヲ要スヘク又橋礎ノ構築ニ要スル時間ハ狀況ニヨルカ故ニ之ヲ定メ難キモ從來ノ經驗ニヨルニ約二時間ヲ要スルモノト見ルヲ得ヘシ故ニ日没後直

ニ著手スルモノトセハ約二時間後ニハ架設ヲ開始シ得ヘシ即チ恰モ架橋掩護隊及副渡河部隊カ渡河ヲ終ルト同時頃ナリ故ニ若干ノ餘裕ヲ見積ルモ午後九時乃至十時頃ニハ架橋ヲ始メ得ヘシ故ニ若何等故障ナク豫定ノ如ク進捗セハ軍ノ渡河作業開始ニ先ツコト三乃至二時間ニ於テ支隊ハ架橋ヲ開始シ得ヘシ

(戊)

渡河掩護

渡河掩護陣地ハ架橋掩護陣地ト同位置ニ選定スヘキヤ或ハ更ニ進メテ有利ナル地點ヲ占領スヘキヤハ全ク當時ノ狀況ニ關スト雖翌拂曉時迄依然敵部村附近ニ位置スルノ不利ナルヤ茲ニ言フヲ待タス故ニ狀況之ヲ許サハ前方適當ナル位置ニ進出セシムル事ニ關シテハ豫メ考定シ置カサルヘカラサル所ナリトス

其陣地ハ永覺上野、柵塚ノ線ヲ適當トス

渡河掩護隊ハ步兵第一聯隊長ニ部下聯隊(第三大隊及機關銃一小隊欠)野砲兵第三中隊、傳騎若干ヲ附シタルモノ竝副渡河部隊ヲ以テ之ニ充ツルヲ可トス

(巳) 渡河

軍橋完成ニ先チ主力ヲ藏前西方畑地ニ集合シ前進ノ準備ニアラシム
渡河ノ順序左ノ如シ

野砲兵第三中隊

步兵第一聯隊第三大隊(第十二中隊欠)

同聯隊機關銃一小隊

野砲兵第一大隊(第三中隊欠)

步兵第二聯隊(第一大隊、第十二中隊竝機關銃一小隊欠)

野砲兵聯隊段列一小隊

衛生隊本部

野砲兵第三中隊ハ渡河後上野北端附近ニ至リ步兵第一聯隊長ノ指揮ヲ受ケシム其他ハ步兵ハ上野東側乾田ニ砲兵ハ上野東方十字路ヲ先頭トシテ途上ニ集合セル諸馬匹材料等ハ軍橋ニヨリテ渡河シ各原隊ニ復歸セシム
步兵第一聯隊第十二中隊ハ渡河掩護隊ノ一部柵塚東南端ニ進出セハ之ト連絡ヲ取リタル後軍橋ニヨリ原隊ニ復歸セシム

歩兵第二聯隊第十二中隊ハ矢作附近ニテ渡河シ得サレハ拂曉後軍橋ヲ經テ原隊ニ復歸セシム若渡河シ得タルトキハ東海道ニ沿フテ行動シ支隊主力ノ行動ヲ容易ナラシム

渡河開始ハ概ネ二時三十分トスルモ日出ハ四時四十分ナルカ故ニ拂曉迄ニハ約一時三十分間アリ此間成ルヘク速ニ所望ノ位置ニ就カシムルコトヲ努ムヘシト雖一部ノ動作ハ遂ニ拂曉後ニ亘ルコトアルヲ豫期セサルヘカラス

(庚) 渡河後ノ行動ニ關スル腹案

渡河掩護陣地トシテ選定シタル線上ニ兵力ヲ集結シ終ルハ拂曉ニ亘ルコトアルヘキヲ以テ此陣地ニ於テ敵ノ稍大ナル攻撃ヲ受クルコトヲ豫期セサルヘカラス從テ之ニ備フルノ準備アルヲ要ス

又渡河掩護陣地ニ於テ敵ノ攻撃ヲ擊退スルカ或ハ敵ノ攻撃ヲ受ケサルトキハ更ニ陣地ノ一部即チ右翼方面ヲ北部和會ノ高地上ニ進メ之ヲ堅固ニ占領スルヲ要ス

爾後ノ行動ハ敵ノ優勢ナルモノニ攻撃ヲ受クレハ此陣地ニ於テ拒止シ弱勢ナ

ルモノハ之ヲ擊破シテ敵ノ主力ノ側背ヲ脅威ス而シテ其何レノ地ニ進出スヘキヤハ專ラ軍主力方面ノ狀況ト我騎兵第一聯隊ノ搜索スル敵情トニ待タサルヘカラス

(注意) 以上ハ即チ支隊長ノ午後六時ニ於テ胸中ニ畫キタル渡河實行ノ爲ノ一腹案ナルヲ以テ之カ實行ニ方リテハ多少ノ變更アルハ勿論時トシテ全ク之ヲ變更スルノ餘儀ナキニ至ルコトアルヘシ例ヘハ敵ノ抵抗豫期以上大ナル爲架橋ノ遲延ヲ豫察シ砲兵ト一部ノ歩兵トヲ軍橋或ハ渡舟ニ依托シ歩兵ノ大部ハ之ヲ宮畝ヨリ渡河セシムル如クスルコト之ナリ要スルニ此種ノ作業ハ一ノ腹案トシテ支隊長ノ胸中ニ潜メ置クモノナルコトニ注意スヘシ

河川戰鬪ニ關スル原則的説明

(一) 河川附近戰鬪ノ一般ノ性質

河川附近ニ起ル戰鬪ハ概括的ニ之ヲ河川戰鬪ト稱スト雖詳細ニ之ヲ研究スル

トキハ此種ノ戦闘ハ決シテ單一ナル戦闘法ノ範圍ニ屬スヘキモノニアラスシテ作戰ノ範圍ニ屬ス故ニ此種行動ノ大部ハ主トシテ交戦法ヲ説ケル操典ノ範圍外ニアリ之諸官カ本戦闘ニ就テ疑問ノ多キ所以ナリ然レトモ此種作戰ヲ研究スルハ本學年研究ノ範圍外ニ屬スルヲ以テ其詳細ハ之ヲ他日ニ譲リ茲ニハ聊カ其端緒ヲ開クニ止メントス

河川附近ニ於ケル作戰ニ於テ發生スル各種戦闘ニ就テ畧味スルトキハ各部分ニ於ケル戦闘ハ短隘路ノ戦闘ナルコトヲ知ル詳言スレハ

- (1) 隘路口前ニ於ケル攻防
- (2) 隘路ヲ挾ミテ行フ攻防
- (3) 隘路口後方ニ於ケル攻防

之ナリ

河川附近ノ戦闘ハ短隘路ノ攻防ニ相違ナキモ茲ニ注意スヘキハ此單隘路ハ必スシモ其位置ノ固定シアラサルコト即チ兵力、材料ヲ以テ隘路ヲ作爲シ得ルコト之ナリ河川附近ノ戦闘ニ於テ困難ナルハ隘路戰ノ指導ノ困難ナルニ非ラス

シテ隘路ヲ何レノ地點ニ作爲シ若ハ敵ノ爲作爲セララルヘキヤヲ適時判知スルノ困難ナルコトニ在リ

(二)

河川ノ攻防ニ及ホス一般ノ關係

(イ) 攻者ニ及ホス關係

- (1) 河川ハ幅員、水深、水速、兩岸ノ景況等何レノ地點ニ於テモ適宜渡河ヲナシ得ルモノニアラス
- (2) 敵ノ妨害ヲ受クルトキハ渡河ハ頗ル困難ナリ
- (3) 河川ノ對岸地區内ニ於ケル敵情特ニ敵兵配置ノ状態ヲ知ルハ頗ル困難ナリ
- (4) 渡河ノ爲ニハ戰術上及技術上密接ナル調和ヲ要ス
- (5) 渡河後一條(稀ニ數條)ノ隘路ヲ後方ニシテ戰フノ不利アリ

(ロ) 防者ニ及ホス關係

- (1) 河川ノ障碍ハ對岸ニアル敵情ノ搜索ヲ困難ナラシムル外攻者ハ渡河準備ノ爲一時靜止ノ状態ニアルコト多キヲ以テ更ニ其困難ノ度ヲ加フ此敵

情偵察ノ困難ハ敵渡河ノ状態ニ基キ自己ノ行動ヲ律セントスル防者ノ爲至大ノ苦痛ナリ

- (2) 河川ハ設備ニヨリテ多クノ渡河點ヲ作爲シ得ヘキカ故ニ防者ハ適時攻者ノ渡河點ヲ判定シ得ルコト甚困難ナリ
- (3) 河川ノ全部ヲ守備センニハ兵力ノ分散ヲ來シ然ラサレハ敵兵我守備セサル地點ヨリ渡河スルニ至ルヲ以テ兵力配置法ハ極メテ困難ナリ
- (4) 防者カ敵ノ陽動ニ欺カレ易キハ獨リ此種戰闘ニ限ラサルモ河川ハ延長大ニシテ其障碍ハ對岸ニ於ケル敵ノ行動ヲ掣肘スルコトヲ困難ナラシムルヲ以テ敵ノ眞渡河ヲ發見スル迄ハ受働的姿勢ニアラサルヘカラス而カモ搜索ノ困難ハ益敵ニ欺騙セラルルノ公算多ク爲ニ敵ニ乘セララルコトアリ

之ヲ要スルニ元來渡河動作ハ理論上甚困難ナル作戰ノ一ニ屬スト雖戰史ニ徴スルニ河川渡河ノ全ク失敗ニ歸シタル例ハ甚少ナク僅ニ存スルモノモ多クハ技術的準備ノ不充分ナル結果ニ基因スルモノ多シ其然ル所以ノモノハ

蓋シ左ノ二點ニアラナランカ

- (a) 攻者先制ノ利ヲ充分ニ發揮シ得ルコト
- (b) 防者ハ攻者ノ陽動ニ欺カルルコト

(三) 河川ノ戰闘ニ關スル諸家ノ說

Clausewitz 大戰學理第六中之卷五八原書三九二頁

大河ハ山地ノ如ク比較的抵抗ヲ増加スルモ其特性ハ堅キ且脆キ性質ヨリナル器物ノ如クニシテ屈折スヘキ韌性ヲ缺クニアリ即チ大ナル打擊ニ際シテハ頑トシテ之ニ堪ヘ得ルカ否ヲサレハ折破シテ爾後ノ用ヲナササルニアリ換言スレハ河川甚大ニシテ且自他ノ條件有利ナルトキハ敵ノ渡河ハ絶對ニ不可能ナルコトアリ然レトモ河川防禦ニ於テ一點ニ破綻ヲ生センカ最早山地ニ於ケルカ故ク持久的抵抗ノ餘裕ヲ有セス縱令其河川カ山内ヲ通過スルモノニセヨ然レトモ防者ニシテ猶攻勢ノ意志ヲ確持シテ行動ヲ決行センニハ攻者ノ渡河後ト雖防者ハ自己ノ側面掩護ノ利ヲ受ケ攻者ハ隘路前ニ於ケル布陣ノ不利ヲ有スルモノトス

河川ノ戰鬪ニ及ホス他ノ關係ハ許多ノ場合ニ於テ甚良好ニシテ且概シテ山地ヨリモ便利ナル連絡ヲ有スルニアリ

河川及山地共有ノ害ハ危險ニシテ且誘惑多キ地物ナルカ故ニ屢不正ナル處置ニ出テ不利ヲ招クコト多キニアリ

同(第七卷第八章第四)

守者河川防禦ニ全幅ノ望ヲ屬スルハ大ナル謬想ナリスノ如キハ之最大ナル困難ニ遭遇シ又時ニ一敗塗膽ノ禍ニ罹ルノ危險ヲ冒スモノナリ元來敵ヲ破リテ渡河ノ道ヲ開クコトハ堂々タル本戰ニ勝ツヨリモ容易ナルハ爭フヘカラサル事實ナリ之ヲ以テ守者斯ク破レ易キ河川防禦ニ依頼スルハ是敵ニ戰勝ヲ容易ナラシムル所以ナリ

又曰ク

吾人ノ直接河川防禦ハ大兵團ニ在リテハ狀況有利ニシテ而モ防者消極的の結果ニ甘ンスルトキハ比較的良好ナルモノナリ

僅少ノ水量ヲ有スル河川ニ在リテハ河岸ヲ防禦スルヲ止メ單ニ之ヲ監視セ

シムルニ制限シ有利ナル陣地ニ主力ヲ集結シ次テ渡河中ナル敵ニ對シ統一的ニ之ヲ使用スルヲ適當トス(大戰學理第六卷第十八章)

間接的河川防禦ハ狀況有利ナル場合ニ於テ稀ニ採用スルヲ得ヘク敵ノ指揮官ニシテ慎重ニ過キ企圖力ニ富マス且既ニ兵力ノ若干ノ均勢ヲ生シタルトキハ成効ノ見込アリ然レトモ優勢ノ兵力及大膽ナル敵ニ對スル時ハ危險ナル途上ノ深淵ニ臨ムカ如シ此防禦法ハ甚輕妙且理論的ニシテ秀麗ニシテ白痴ナル美人ノ如シ

(大戰學理第六卷第十九章)

著大ナル河ヲ近ク其後方ニ有シ且此河ニ沿ヒ警戒シアル數多ノ渡河點ヲ有スル防禦軍ハ河ヲ有セサルモノニ比スレハ非常ニ堅固ナル狀況ニアルヤ疑ナシ是渡河點ニ關スル顧慮上多少行動ノ自由ヲ失フモ其後方連絡線戰略的背後ハ完全ナレハナリ

Napoleon I. (一八一三年三月五日附及同月十五日附養嗣子ニ與フル書簡)

自己ノ河岸ヲ占領シ以テ眞面目ニ河川ヲ防禦セント欲スルヨリ他ニ危險ナ

ルハナシ是若敵カ渡河ヲ終了シタル時ハ到ル所ニ於テ我軍カ廣ク守勢陣地ニ在ルヲ見且其集合ヲ妨クレハナリ
本月十日附ノ部署ニヨレハ貴官ハ其軍隊ヲ充分ニ配置シ哥薩克及輕騎兵ノ渡河ヲ妨害セントス貴官ハ其軍ヲ配置スルニ恰モ前衛又ハ後衛ノ如クナスヘシ(中略)

敵カ其欲スル時且欲スルノ地點ニ於テエルベ河ヲ渡河シ得ルモノトハ確實ナリト考フルコトヲ得河ハ軍(敵)ノ行進ヲ若干日以上遲延シ得ル如キ眞ノ障礙物トシテハ未タ決シテ認メラレタルコトナク他岸ニ於ケル軍隊ヲ橋頭堡中ニ準備シ渡河ヲ始ムルヤ否ヤ攻勢ヲ取リテ渡河ヲ防クヲ得然レトモ守勢ノミニ制限セント欲スルトキハ軍隊ヲ配置スルニ敵カ渡河ヲ終ルニ先チ兵團(主力)ヲ以テ襲撃シ得ル如クスルヲ要ス如斯行動ハ村落ニ由リ利用セラレ且諸般ノ部署ハ豫定シアルヲ要ス

Friedrick to Ereat' 兵事叢書二九八頁

渡河ヲ妨害センカ爲河流ノ後方ニ據ル毎ニ計畫ヲ看破セラルルヲ見ル是敵

(四)

ハ狡猾ニモ夥多ノ試圖ヲ行ヒテ我ヲ欺キ有利ノ機ニ乘シ急ニ渡河ヲ實行スレハナリ

巧妙ナル將帥ハ敵ノ渡河ヲ試ムルニ方リ敵ノ側背ニ前進セントスルトキハ河川ノ間接的防禦ヲ以テ輕易且安全ナル方法トナスナラン

河川ヲ利用スル守勢ノ方式

(イ) 間接的防禦

- (1) 主力ヲ以テ敵岸ニ配置
- (2) 主力ヲ以テ我岸ニ配置

攻勢

全力(小部隊ニテ地形有利ナルトキ)

一時持久後攻勢

進出掩護

專守

退却掩護

持久

鴨綠江會戰ノ露軍

持

清軍

決戰

同

決戰

地形有利

遼陽會戰ノ露軍

備スルモノ

敵ノ兵力分離

Austerlitz會戰ノ佛軍
(千八百五年十二月二日)

兩岸ニ跨リテ配備スルモノ

清軍

(ロ) 直接的防禦

- (1) 河川ヲ近ク後方ニシテ配備スルモノ
- (2) 河岸ニ接近シテ配備スルモノ
- (3) 兩岸ニ跨リテ配備スルモノ

局地戰ノ研究

菊池武光筑後川ニ於ケル合戦

Karl 對 Ney-are 川ノ防禦

(千七百九十九年八月十七日)

Massena 對 Karl-Danan 防禦

(千八百五年五月二十一日)

Macdonald 對 Blii eber-kots-bach 防禦

(千八百十四年八月二十六日)

(4) 後退シテ配備スルモノ 決戦

(五)

(イ)

河川利用ノ各種方式及之ニ對スル攻者行動ノ着眼
間接的利用法

堅確ナル攻勢的意志ヲ以テ主力ヲ最初ヨリ敵岸ニ於テ自己ノ掩護セント欲スル河川ニ對シ一種ノ側面陣ニ集結シ河川ヲ監視シ敵ノ渡河ヲ遅延セシメ或ハ何レカ一方ノ河岸ニ於テ決戦ヲ求ム而シテ橋頭堡ヲ設備シアル場合ニハ決戦ノ時機ニ至リ主力ヲ所要ノ岸ニ轉シ渡河中ナル敵ヲ攻撃ス此防禦ハ障礙ニヨリ敵ノ兵力分離ニ乘シ防者ハ統一のニ主力ヲ使用シ得ル如ク河岸ノ何レノ岸上ニモ行動シ得ル如クセントスルニアリ

千八百七十年獨軍ノバルツ洲ニ於ケル開進ハ間接ニ上來因州ヲモ掩護セ

リ

千八百三十一年ブラーガノ橋頭堡ヲ利用セントシタル波蘭軍

千八百四十九年「ラデッキ」ハバウ[#]アヨリチチ¹ノ河ヲ經テ攻勢ヲ取レリ

防者ハ橋頭堡ニヨリ渡河ヲ確實ニシ我岸上ニ準備シ必要ニ際シ敵ノ側背ヲ

衝クカ又ハ敵兵渡河ノ際分離シアルニ乘シ我岸ヨリ攻勢ヲ取ル

千八百〇七年バツサルヂ河

千八百〇九年エツチュ河

千八百十三年ポーベル河

主力ヲ敵岸上ニ集結シ小支隊ニヨリ橋梁及架橋點ヲ守備シ以テ敵ノ渡河企圖ヲ察知シ且敵ノ渡河ヲ遅延セシム敵兵強テ渡河シ河川ニヨリ兵力ヲ二分スルニ乘シ攻勢移轉ヲナス

如斯狀況ニ於テ會戰ノ生スルヤ否ヤハ全ク狀況ニ關ス

(1) 攻防兩者ノ兵力略均勢トナルニ方リ防者要塞ニ依托スル如キ場合ハ攻者ハ守者ノ準備セル場所ニ於テ會戰ヲ行フコトヲ避ケ之ヲ他方面ニ誘致

スヘシ此場合ニ於テモ守者ハ掩護ノ目的ヲ達シ得ヘシ

- (2) 攻者充分優勢ニシテ而モ作戰上他ニ特別ニ顧慮スヘキコトナキトキハ我岸(攻者ノ見地ヨリ)ニアル防者ヲ攻撃シ之ヲ河川ニ壓スヘシ防者此危険ニ對シ安全ナランニハ其陣地適當ニ河川ヨリ遠隔シ後方ニハ守備十分ナル渡河點ヲ設備シアルヲ要ス

- (3) 攻者ハ單ニ渡河後ニ於ケル連絡線ノ危険ヨリ一時攻勢ヲ中止スルコトアリ

之ヲ要スルニ間接的防禦ノ利益ハ寡兵ヲ以テ大ナル河川ヲ防禦シ敵ノ部署ニ關シテ良好ナル情報ヲ受ケ敵ヲシテ我選定セル戰鬪地ニ於テ會戰ヲ行フノ已ムヲ得サルニ至ラシムルニ存ス指揮官ハ直接的防禦ニ於テハ動作ノ障礙ヲ蒙ルモ間接的防禦ニアリテハ行動ニ大ナル自由ヲ有シ敵ヲシテ我意志ニ從ヒ行動セシム

此種防禦ニ關スル部署ノ要點左ノ如シ

- (一) 主力ヲ敵岸ニ準備シ迅速ナル攻勢(多ク一側展開)ヲ取り得ル如クス

- (二) 防禦工事ニ由リ掩護セラレタル數多ノ渡河點ヲ設備ス

- (三) 敵ノ渡河ヲ遲延セシメンカ爲監視部隊警戒部隊(守備部隊)ヲ出シ河川ヲ警戒ス

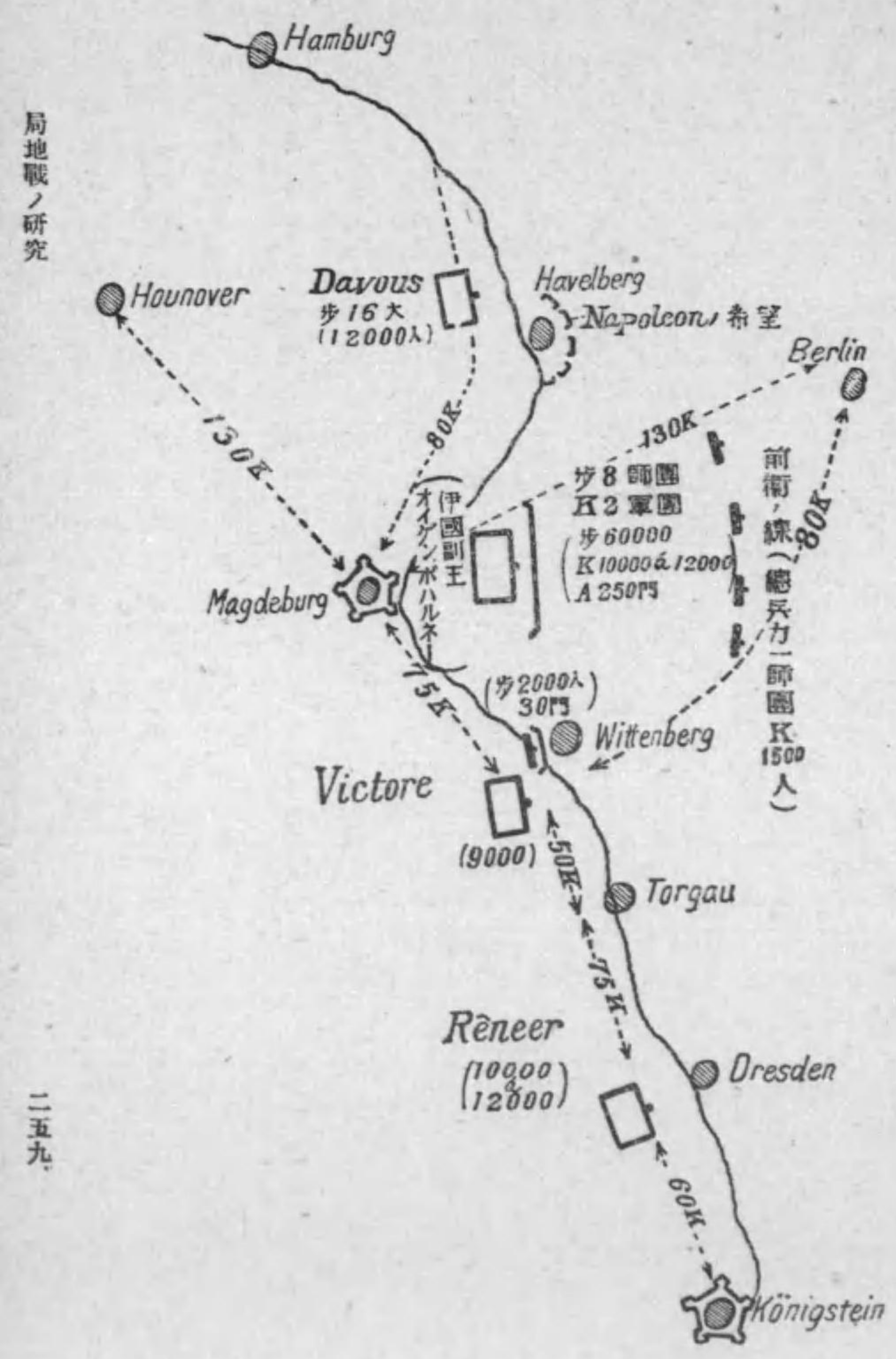
(ロ) 間接的防禦ヲナス敵ニ對スル攻者ノ動作

此種防禦法ヲ採用スル敵ニ對シテ攻者ノ採ルヘキ行動ハ大體ニ於テ二アリ(甲)力攻(乙)繞回之ナリ(甲)ハ即チ攻者ノ岸ニアル敵ヲ先ツ反對岸ニ驅逐シ河川ノ我岸ヲ攻者ノ掌有ニナサントスルモノナリ而シテ此動作ハ防者堅固ニ設備セル陣地又ハ要塞等ノ掩護ノ下ニアルトキハ甚シク時日ト損害トヲ受クルモノトス而シテ其攻撃ノ要領ハ隘路前ニ布陣スル敵ノ攻撃ノ要領ニ準スルモノナリ

力攻ノ困難ニ伴ヒ攻者ハ一部ヲ以テ我岸上ニアル敵ニ對セシメ主力ハ遠ク上流又ハ下流ヨリ防者ヲ繞回シテ渡河セントスルニ至ルコト恰モ千八百七十年ニ於ケル獨軍ノメッツ附近モーゼル河ノ渡河ノ如クナルヘシ此場合ノ攻者ノ行動ハ敵方ニ近キ内翼ヲ軸トシテ旋回運動ヲナシ敵ヲ求メテ決戰ヲ

行フニ至ルヘシ而シテ如斯動作ハ地形ノ夜間等ニ於テ特別ノ掩助ナケレハ
 小部隊ニテハ實行シ得ヘキモノニアラス換言スレハ此種作戰ハ大兵團ノ作
 戰ニ於テ見ルヘシ
 之ヲ要スルニ河川ヲ間接的ニ利用スル行動ハ大兵團ノ作戰ニ於テ始メテ見ル
 ヲ得ヘク小部隊ニ於テハ稀有ナル場合ナリトス蓋シ砲戰距離内ニ於テ如斯機
 動ハ之ヲ許ササルヲ以テナリ

千八百十三年三月那翁第一世ノ意圖ニ基クエルベ河防禦計畫圖

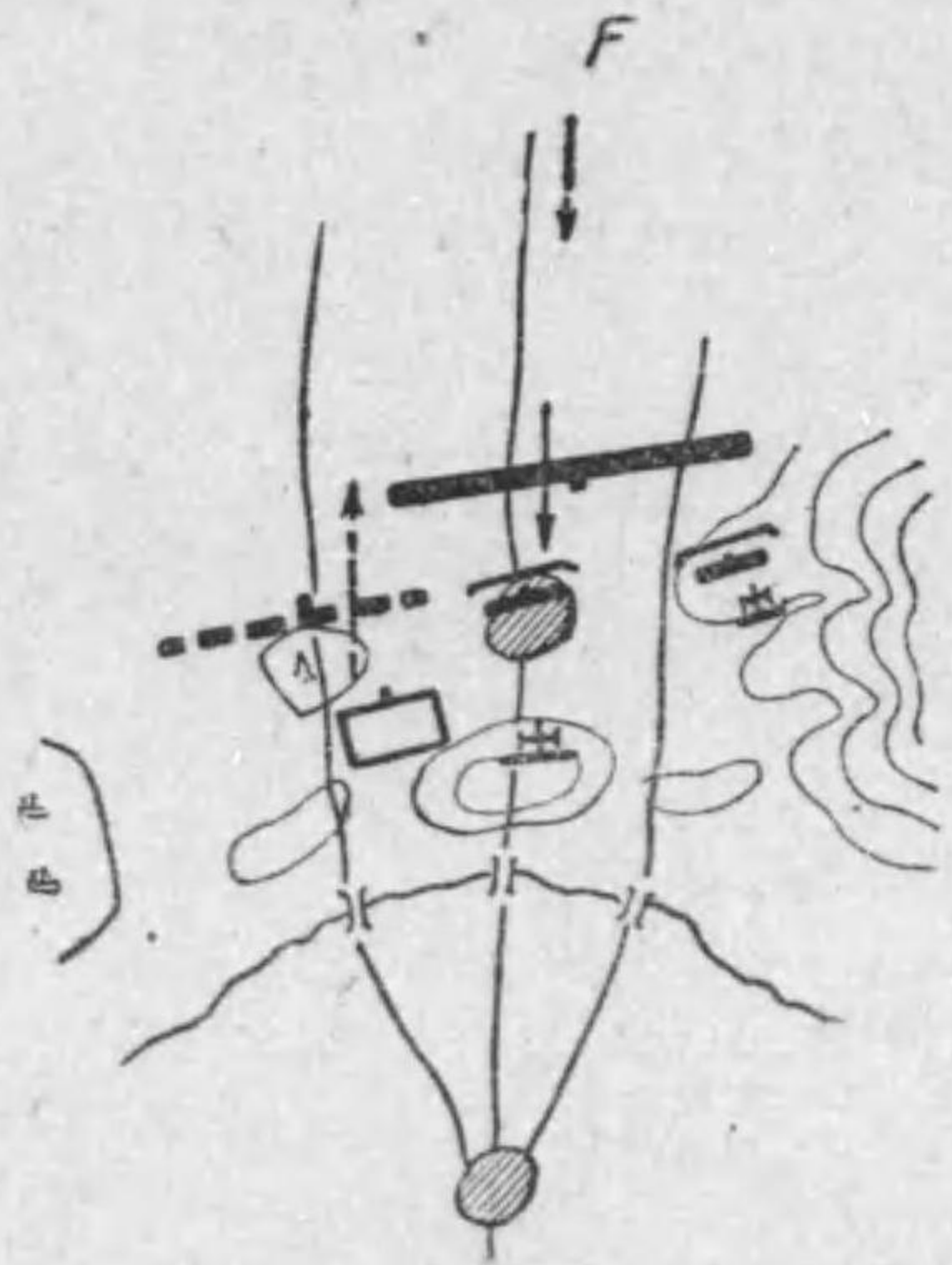


(ハ) 直接的利用法

(其一) 河川ヲ後ニシテ配備シタル防禦

(a) 全力ヲ以テスル防禦

小部隊ニシテ地形特ニ有利ナルトキ



(b) 本隊ノ進出掩護

此防禦ニアリテハ左ノ要領ニ從フ

- (1) 本隊ノ開進又ハ戦闘準備ノ爲該兵力ニ應シ適當ナル餘地ヲ存スルコト
- (2) 敵火ヲシテ渡河點ニ及ホサシメサルコト
- (3) 堅固ニシテ本隊ノ戦闘加入ヲ確實ナラシメンカ爲兩翼ヨリスル敵ノ進入ヲ防キ得ルコト

翼側依托ノ一例



(c) 退却掩護

此戦闘ハ最モ困難ナルモノニシテ後衛ハ多大ノ犠牲ヲ覺悟セサルヘカラス而シテ其陣地占領ニ至リテハ(b)ト大差ナク只專守ナルカ故ニ特ニ堅固

局地戦ノ研究

ナルヲ貴フ

戰史ニ徴スルニ橋頭堡ヲクンハ此種任務ノ達成頗ル困難ナリ

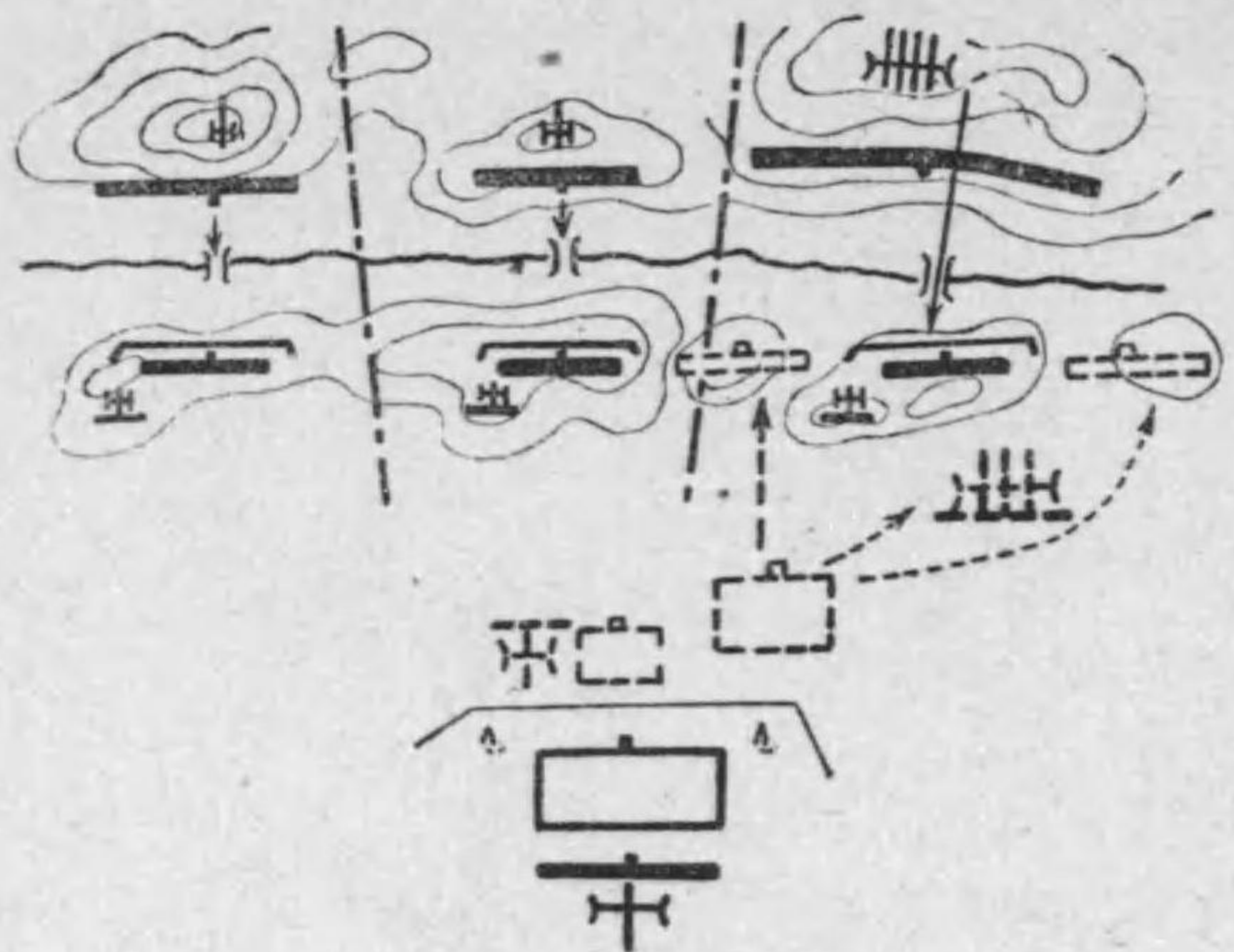
(d) 我岸上ニ防禦スル敵ノ攻撃

我岸上ニ於テ短隘路ヲ後方ニシテ防禦スル敵ノ攻撃法ニ二アリ(甲)何レカ一點ヲ突破シテ速ニ防者ヲ隘路ニ壓迫スル方法(乙)防者ヲ隘路外ニ壓迫スル方法はナリ何レノ方法ヲ適當トスルヤハ現時ノ狀況、地形及攻者ノ作戰目的ノ如何ニヨリ決セラルヘキモノトス何レノ場合ニ於テモ攻者ハ他岸ヨリスル防者ノ協力(主トシテ砲兵)ヲ顧慮スルト同時ニ我モ亦防者ノ後方隘路ニ火力ヲ及ホシ敵ヲシテ後顧ノ患ヲ大ナラシメ之ヲ威赫スルヲ要ス其要領ハ即チ短隘路前方ニ布陣シタル敵ノ攻撃ニ外ナラス

(其二) 我河岸ニ配備スル防禦

(a) 持久

一ニ河川ノ景況特ニ渡河點ノ狀態竝防禦スヘキ地區延長ノ大小ト兵力ニ關係ス要スルニ敵ノ主力ヲシテ渡河セシメサル如ク拒止スレハ可ナリ

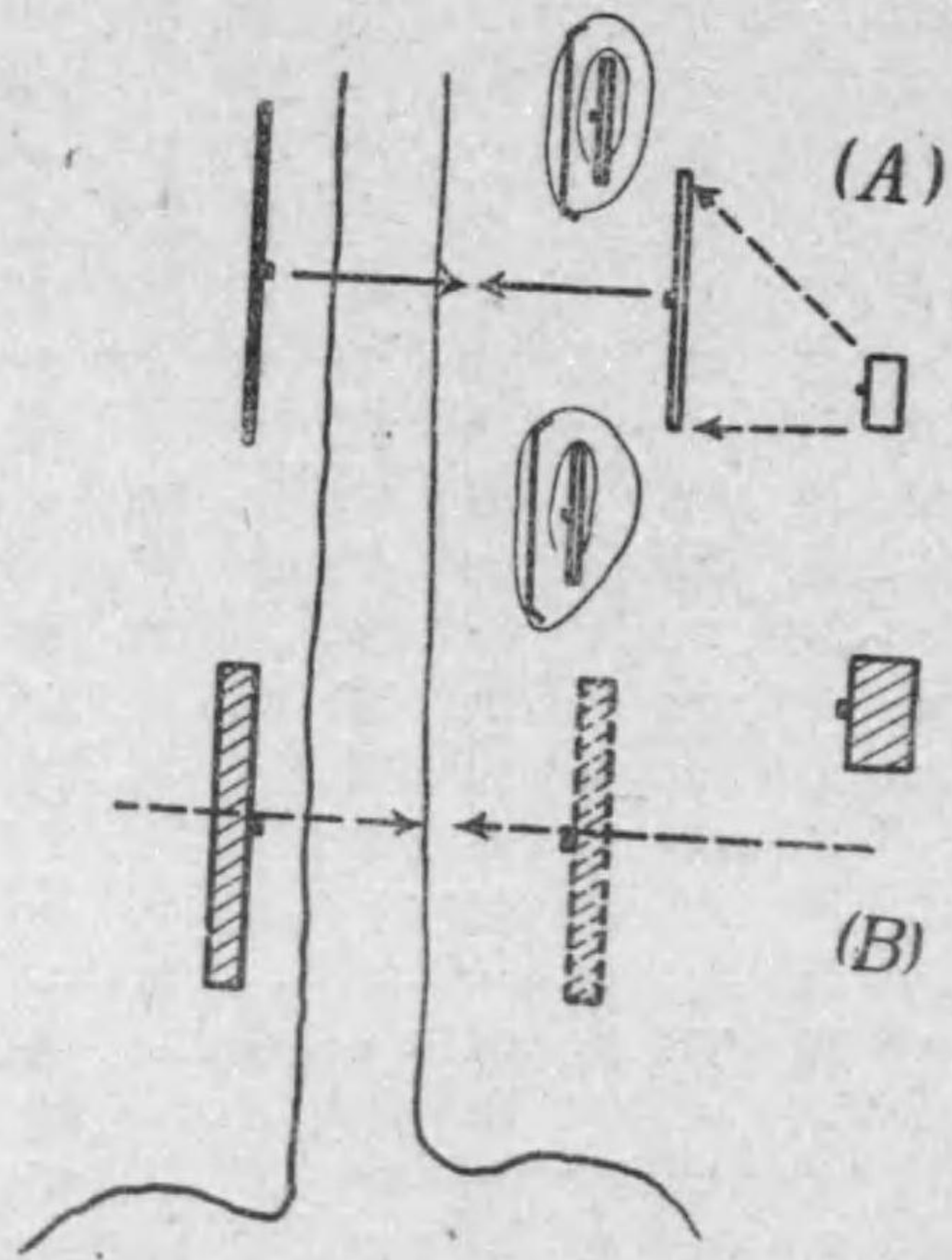


配備著眼

- (1) 敵ノ渡河ヲ探知スル方法
- (2) 渡河計畫ヲ妨クル方法
- (3) 眞渡河ヲ妨クル方法

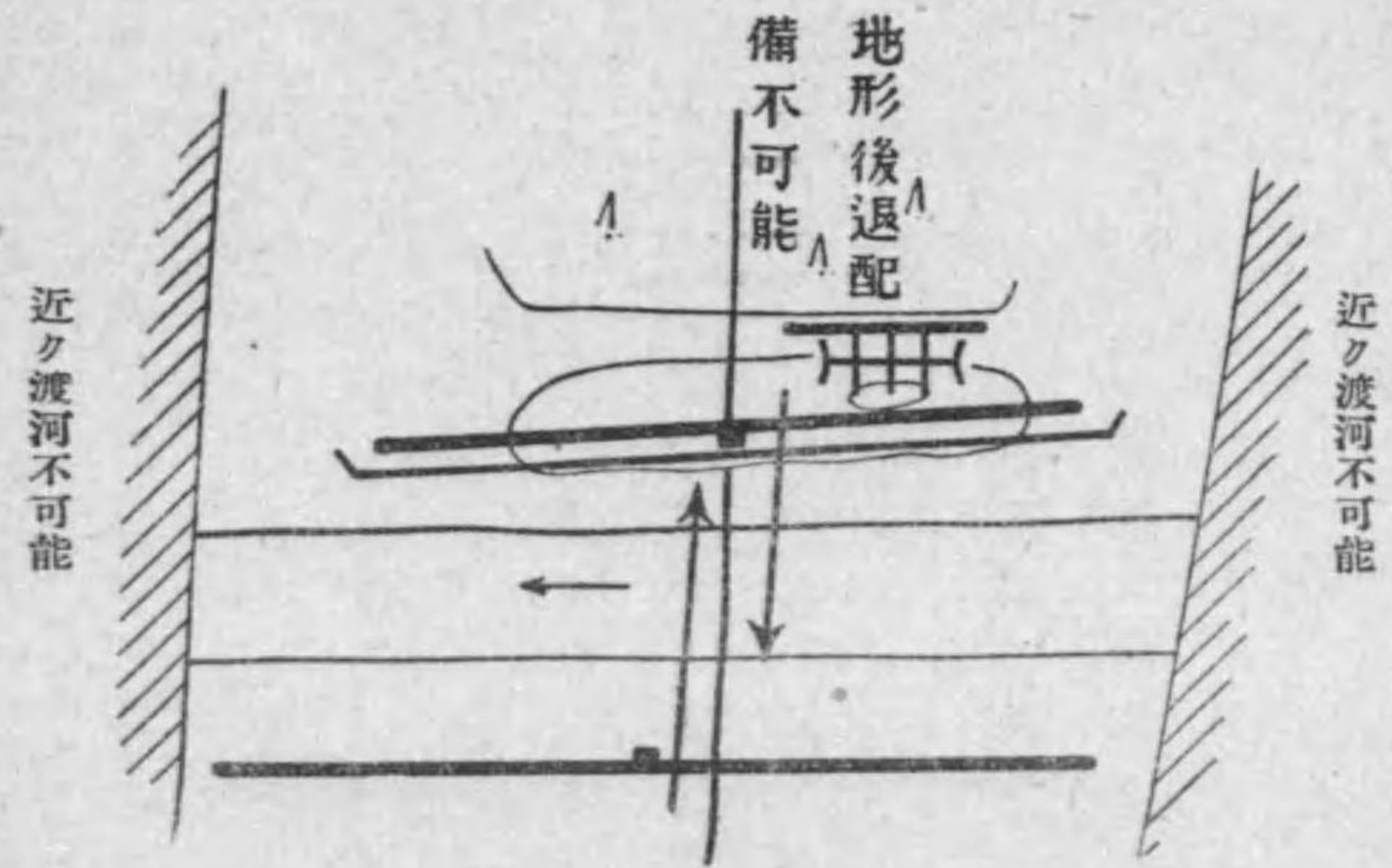
河岸配置部隊ハ此場合ニ於テハ所謂守備部隊ニシテ其兵力編組ハ主力ノ前進マテ地點ヲ守備シ得ル程度ニ比較的大ナルヲ一般トス
守備隊ノ動作ハ一般ノ防禦ニ於ケル地區守備隊ノ動作ト大差ナシ唯擔任正面ノ大ナルヲ異ナリトス

第二例



(A) 方面ニ決戦起ラハ一例ナリ
 (B) 方面ニ起ラハ中途半端ナリ

(b) 決戦
第一例



(c) 對岸ニ於テ防禦スル敵ノ攻撃

(イ) 敵兵河川ノ對岸ニ於テ攻撃ノ目的ヲ以テ配備スルハ兩側兵力ノ使用ヲ許ササル點ヨリ謂ヘハ狹隘戰ナルモ部隊其モノノ戰鬪動作ニ至リテハ中間ニ徒河ヲ許ス河川アリト云フ迄ニテ一般攻撃ニ於ケル純正面攻撃ノ要領ハ異ナルコトナシ

(ロ) 河川ニ於テ渡河點ヲ直接防禦セル敵ヲ攻撃スルハ最モ困難ナル動作ニシテ時トシテ之ヲ斷念シテ他方面ニ策動スルノ有利ナルコトアリ然レトモ強テ之ヲ攻撃セント欲セハ其方法ニ奇襲、強襲ノ二アリ(甲)ハ夜間、濃霧其他好機ヲ求メテ先ツ渡河點ノ對岸ヲ占領シ(乙)ハ火力ヲ以テ敵ヲ制壓シ之ニヨリテ突擊縱隊ヲ進メ渡河點ヲ占領スルニ在リ

渡河點占領ノ爲ノ我岸上ニ於ケル援助ノ爲ノ配備、渡河點占領後敵ノ恢復攻撃ニ對シテ之ヲ確保シ又其利益ヲ擴張シテ逐次我占領區域ヲ増大スル方法等ニ至リテハ兩者同一ナリ其動作ノ要領ハ隘路ノ奪取ニ外ナラス

(其三) 兩岸ニ跨リタル防禦(一部ハ敵岸上ニ主力ハ我岸上ニアル場合ヲ主トシテ講述セシ、其之ニ反スル場合ハ其一ノ(イ)ヲ以テ推究スルヲ得ヘシ)

戰術範圍内(大ナル作戰範圍ニ於ケルモノハ前已ニ之ヲ述ヘタリ)ニ於ケル此種防禦ハ敵ノ全力ヲ以テスル迂回ヲ防止シ又敵ノ兵力分離ニ乗シ之ヲ擊破セントスルモノニシテ理論上一見可ナルカ如キモ左ノ危険アリ

(1) 敵兵主力ヲ以テ我一部ヲ攻撃スルニ際シ之ヲ我岸上ニ退却セシムルコト困難ナルノミナラス敵ニ尾撃セララルルノ患アリ

(2) 主力ヲ以テ敵岸ニ進出セハ前進陣地前ニ於ケル意圖外ノ戰鬪トナリ敵ノ兵力ヲ分離セシムルノ主旨ニ反ス

以上ノ如クナルヲ以テ此方法ハ全般ノ狀況上敵兵ハ我一部ヲ監視シ他方面ニ策動スルヲ要スル爲強テ渡河ヲ決行スルカ如キ狀況ニシテ而モ前述ノ害ヲ受ケサル如キ稀有ノ場合ニ於テノミ採用ス

此場合ニ於ケル攻者ノ動作トシテハ敵ノ一部ヲ擊退シテ更ニ之ニ尾追シ本陣地ニ壓迫シ以テ前進陣地ノ害ヲ敵ニ及ホスモノトス其要領隘路前ニ於ケル敵ヲ驅逐シテ之ヲ尾撃スルト同一ナリトス

(其四) 後退配備ニ於ケル防禦

此種防禦ハ短隘路ヲ横綴シタル延長物ヲ利用スル攻撃防禦ニシテ局部ニ於テハ短隘路ノ防禦法ヲ應用ス而シテ此短隘路ノ警戒隊監視隊守備隊ヲ含ムハ極力敵ヲ拒止スヘキカ將又高地後退配備ニ於ケル線端監視部隊ノ如ク適時退却スヘキヤハ一ニ當時ノ狀況ニ關ス然レトモ此等ノ部隊トシテ常ニ服膺スヘキ要件ハ主力ノ攻撃前進ノ爲ニ有利ナル準備ヲナス爲ノ時間ト場所トヲ得セシムルコト之ナリ予ハ河岸部隊ハ敵ノ架橋及渡河ニ對シテハ極力妨害スヘキモノナリト信ス而シテ其之ヲ爲ス理由ハ敵ノ夜間架橋渡河ヲ妨害シ已ム得ス晝間ニ亘ラサルヲ得サラシメ容易ニ敵ノ真企圖ヲ覺知シテ主力ニ攻勢移轉ノ機會ヲ與ヘ且其動作ヲ容易ナラシメントスルニ在リ但シ此部隊ノ眞目的ハ絶對ニ(持久防禦ノ如ク)敵ノ渡河ヲ拒止スルノ主旨ニ非ルカ故ニ軍隊指揮官トシテハ其目的ニ適スル如ク其兵力編組ヲ定ムヘキモノトス然レトモ部隊其モノノ行動ニ於テハ極力敵ヲ拒止スルノ處置ニ出ツヘキモノトス論者往々斯ノ如クセハ敵兵渡河セサルヘキカ故ニ敵ヲ誘フ如クスヘシトナスモノアルモ斯ノ如キ巧妙ナル動

作ハ實施困難ニシテ確實ヲ期スヘカラス殊ニ夜間ニ於テ然リトス河川防禦ノ往々不成効ニ終ルハ蓋シ之等ノ誤解カ其因ヲナスニアラサルナキカ河岸部隊驅逐セラレタル後ハ主力ハ河岸部隊ノ報告ト一般戰術上ノ判斷ニ基キテ敵主力ノ渡河方面ヲ判斷シ其時機ノ晝夜如何ニ拘ラス攻撃ニ前進スヘキモノトス論者往々夜間行動ノ困難ヲ以テ此斷行ヲ非認セントスルモノアルモ予ハ夜間ニ於テ攻者カ渡河陣地ノ占領ヲ爲シ得ル以上ハ防者カ之ヲ妨害スル行動モ亦不可能ナル筈ナキヲ確信シ之ヲ斷行スルノ必要アリト信ス

若河岸部隊ノ守備嚴ニシテ敵カ渡河ヲ延引スルカ或ハ更ニ方面ヲ變更スルカ如キ場合ニ於テハ防者ハ能ク其目的ヲ達成シ得タルモノナリ蓋シ河川後退ノ決戰防禦ヲ爲スモノハ敵兵必ス其地域ヨリ渡河スル見込大ナルトキ若ハ敵カ渡河ヲ行ハレサル自己ノ作戰目的ヲ達成シ得サルカ如キ場合ニ於テナスヘキモノナルヲ以テナリ

敵ノ近傍ニ於ケル渡河

河川ノ對岸ニ於テ遠隔セサル地ニ敵ノ存在スルナラント判斷スル場合ニ於テ河川ヲ渡河センカ爲ニハ能ク歩兵操典第二部第九十九工兵操典第二部第九十一ヲ比較研究ヲ要スルコトハ既ニ諸官ニ注意ヲ促シタル所ナリ今兩操典ノ主旨ヲ參酌スレハ次ノ如クナルヘシ

(甲) 敵ノ意表ニ出ツル方法

(乙) 敵ヲ欺騙シテ行フ方法

(丙) 敵ノ妨害ヲ制壓シテ行フ方法

之ナリ

(甲)ハ上策ニシテ狀況之ヲ許サハ常ニ如スルヲ最モ有利トス然レトモ注意周到ナル敵ハ此ノ如キ機會ヲ我ニ與フルヤ否ヤ疑問ナルモ機會タニアラハ之ヲ實行スヘキモノナリ

(乙)ハ中策ニシテ注意周到ナル敵ハ(甲)ノ機會ヲ我ニ與ヘサルヘク又狀況急ニシテ

如斯機會ヲ發見スル餘裕ナキトキハ勢ヒ此方法ニ依ラサルヘカラス

(丙)ハ下策ニシテ狀況已ムヲ得ス他ノ方法ヲ採用シ得サル場合ニ於テ行フヘキモノトス

左ニ更ニ之ヲ細說セン

(甲) 敵ノ意表ニ出ツル方法

此方法ノ實施ニ方リテハ位置ト時機トノ選定ヲ緊要トス而シテ如斯機會ヲ捕捉シ得タルトキハ極メテ迅速ニ渡河ヲ行ヒ縱令敵兵後刻我行動ヲ察シテ我動作ヲ妨害セントスルモ此時已ニ我ハ敵ニ對抗シ得ル十分ノ兵力ヲ渡河シ終リ得ル如クナラシムルヲ要ス

此方法ヲ實行スルニ當リテモ場所ト時機トノ關係ニ於テ細別スレハ左ノ三種アルヘシ

(イ) 場所及時間共全然敵ノ意表ニ出テ得ル場合

如斯場合ハ敵ノ監視外ニ於ケル動作ナルカ故ニ極メテ幸運ナル場合ニシテ其動作ハ敵ニ對スルヨリモ寧ロ技術方面ニ重ヲ置キ確實ニ且迅速ニ渡

河シ爾後ノ作戰ヲ準備スヘキモノトス

(ロ) 場所ト時機トノ選擇宜シキヲ得ハ敵ノ不意ニ出テ得ル見込アル場合全體ニ於テハ敵ノ監視區域内ノ行動ニシテ全然敵ニ秘匿シ得サルヘキモ廣大ナル河川ヲ僅少ナル監視部隊ヲ以テ監視セラレアルカ如キ場合ハ其位置ヲ適當ニ選擇シ且夜間等ニ不意ニ動作スレハ當初ニ於ケル我行動ハ敵ノ意表ニ出ツルコトヲ得架橋掩護隊ヲ配置シ架橋ニ着手シ得ルコトアリ然レトモ此場合ハ全然不意ニ出ツルニ非サルヲ以テ架橋完成前若ハ渡河途中更ニ敵ノ大ナル妨害ヲ受クルモノト覺悟セサルヘカラス換言スレハ中途以下ハ敵ノ妨害ヲ制壓シテ渡河ヲ實施スル方法ヲ併用スルヲ要ス從テ其配備及要領ハ全然敵前渡河法ノ原則ヲ適用スヘキモノトス

(乙)

敵ヲ欺騙シテ渡河スル方法

敵ノ不意ニ出ツル見込ナキ場合ト雖河川ハ通常橫廣ノ區域ヲ有スルヲ以テ敵兵全線ヲ實力ヲ以テ守備スルコトハ困難ナルヲ以テ敵ヲ欺騙シテ其兵力ヲ他方面ニ移動セシメ以テ豫期本渡河點ノ抵抗ヲ輕減シ以テ渡河ヲ容易ナ

ラシメントスルニ在リ此方法ニモ種々アリ

(イ) 副渡河ヲ以テスルモノ

一部ヲ以テ他方面ヨリ副渡河ヲ行ハシメ敵ヲシテ何レカ本渡河ナルヤヲ惑ハシメ縱令敵兵副渡河ナルコトヲ察知シテ本渡河方面ニ對スル場合ニハ副渡河ニヨリ渡河シタル部隊ハ敵ノ側背ヨリ脅威ヲ行ヒ敵ヲシテ已ムヲ得ス優勢ナル兵力ヲ副渡河方面ノ部隊ニ對セサルヲ得サラシムルコト恰モ本攻(主攻撃)ニ對スル助攻(副攻撃)ノ關係ノ如クナラシムルニ在リ

(ロ) 偽渡河ヲ以テスルモノ

(注意) 陽渡河ナル兵語ハ本渡河ニ對スル其以外ノ渡河即チ副渡河偽渡河

ヲモ含有スルモノトシテ廣ク解スルヲ適當トス然レトモ余ハ諸官ノ戰術觀念ヲ明確ナラシムル爲特ニ副渡河法ト偽渡河トニ區別セリ

偽渡河ハ副渡河ヲ決行スルヲ要セサルカ或ハ之ヲ行ヒ得サルトキ(狀況、材料ノ關係、敵ヲ欺騙スル手段トシテ渡河ヲ裝ヒ敵ノ注意ヲ該方面ニ牽制シ真渡河ヲ容易ナラシムルモノナリ而シテ此方法ハ前ニ述ヘタル副渡河ニ

比シ効果少キモ後ニ述フル我岸陸上ニ於テ行フ陽動ニ比スレハ其効果大ナルヘシ

(ハ) 陽動ヲ以テスルモノ

(注意) 偽渡河ハ陽動ノ一種ナリト雖茲ニ予ノ述ヘントスルハ我岸陸上ニ於テ行フ欺騙的行動ヲ謂フナリ

陽動ハ讀ンテ字ノ如ク陽ニ渡河準備ヲ裝ヒ或ハ偵察材料ノ蒐集、河岸ノ加工若ハ軍隊ノ移動等ヲ行ヒ敵ヲ欺騙スルノ術ニシテ河川ヲ隔テアル爲陽動カ自ラ危険ヲ受クルノ虞少キモ其効果モ亦少ナルヲ常トス然レトモ敵モ亦河川ヲ隔テ敵情搜索ニ腐心シアリテ神經ノ興奮シアル時機ナルヲ以テ陽動ハ案外効果ヲ收メ得ルコトアリ然レトモ爾後之ヲ持續スルコトハ固ヨリ困難ナリ

(丙) 敵ノ妨害ヲ制壓シテ行フ方法

此方法ハ敵ノ監視部隊ヲ排除シテ我渡河ヲ實施セントスルモノニシテ敵前渡河ノ眞體ナリトス而シテ其實施ノ要領ハ一ニ豫期スル敵ノ抵抗ノ程度ニ

ヨリテ異ナルモノトス

(イ) 夜間奇襲ヲ以テ敵ノ監視部隊ヲ驅逐シテ行フモノ

狀況全ク敵ノ監視ヲ免レ能ハサルトキハ夜間奇襲ヲ以テ敵ノ監視兵ヲ驅逐シ一部隊ヲ以テ對岸ヲ堅固ニ占領シ此掩護ノ下ニ渡河ヲ實施スルモノ所謂敵前渡河ノ普通ノ場合ナリ此場合ニ於テハ一度ハ敵ノ監視部隊ヲ驅逐シ得タルトキト雖必ス再度ノ妨害ヲ豫期シ十分堅固ナル立脚地ヲ占領シ且逐次之ヲ堅固ニシ又之ヲ擴大シ以テ全隊ノ渡河ヲ完了スルコトヲ努メサルヘカラス此場合ニ於テ兵力大ナルニ從ヒ特ニ渡河ノ完了ハ拂曉ニ亘ルヘキカ故ニ此場合ヲ願慮シ我岸ニモ亦適當ナル準備ヲナシアルヲ要ス

(ロ) 晝間敵ノ監視部隊ヲ驅逐シ夜間渡河スルモノ

此方法ハ(イ)(ハ)ノ兩者ヲ折衷セル方法ニシテ敵ノ準備如何ニヨリテハ夜間ノ驅逐困難ニシテ寧ロ晝間火力ニヨルヲ適當トナシ敵兵ヲ驅逐シタル後夜間ノ暗黒ヲ利用シテ其附近ニ適宜ノ位置ニ架橋スルモノニシテ敵ノ配

備如何ヲ顧慮シ且渡河ノ實施ニ十分ナル時日ノ餘裕アル場合ニ實施シ得ルコトアリ

(ハ) 強行渡河ニヨルモノ

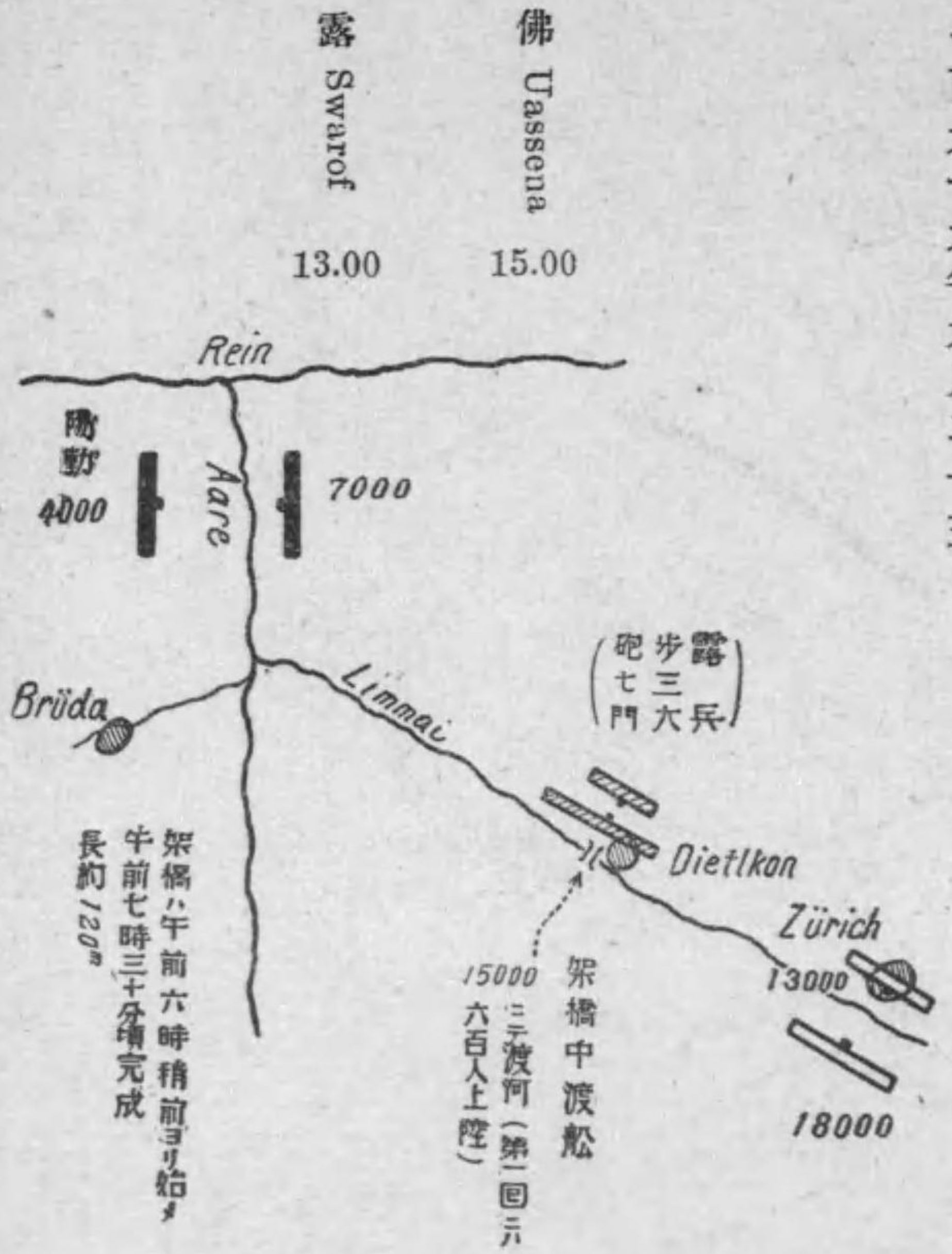
此方法ハ全然兵力ヲ以テ敵ノ守備兵ヲ制壓シ以テ渡河ヲ決行スルモノニシテ固有渡河點ヲ有シ且兵力素質等ニ懸隔アル敵ニ對シ晝間之ヲ行フヘキモノトス現時ノ火器ニ對シ此種方法ノ困難ナルハ茲ニ説明ヲ要セサルヘク其要領ハ所謂短隘路ノ攻防ナリトス此際舟筏ニヨリ敵岸ニ到著シ得ル如キハ已ニ極メテ稀有ナリトス又架橋ノ如キハ敵兵全ク退却シタル後ナラサルヘカラス

以上各種ノ手段ハ如何ニシテ敵岸ニ第一ノ立脚地ヲ占ムヘキヤニ在リ既ニ敵岸ニ立脚地ヲ占メ得タリトセハ渡河設備(架橋徒涉場修理等)ヲ掩護スル部隊ヲ配置シテ其設備ヲナスヲ要ス此際ニ於ケル掩護隊ノ動作ハ架橋ナルト徒涉ナルトニヨリ多少差異アルモ稍長キ時間ノ餘裕ヲ求メ後攻勢移轉ニ轉スル場合ニ於ケル短隘路前ノ防禦法ニ準スヘキモノナリ渡河設備ヲ終ラハ

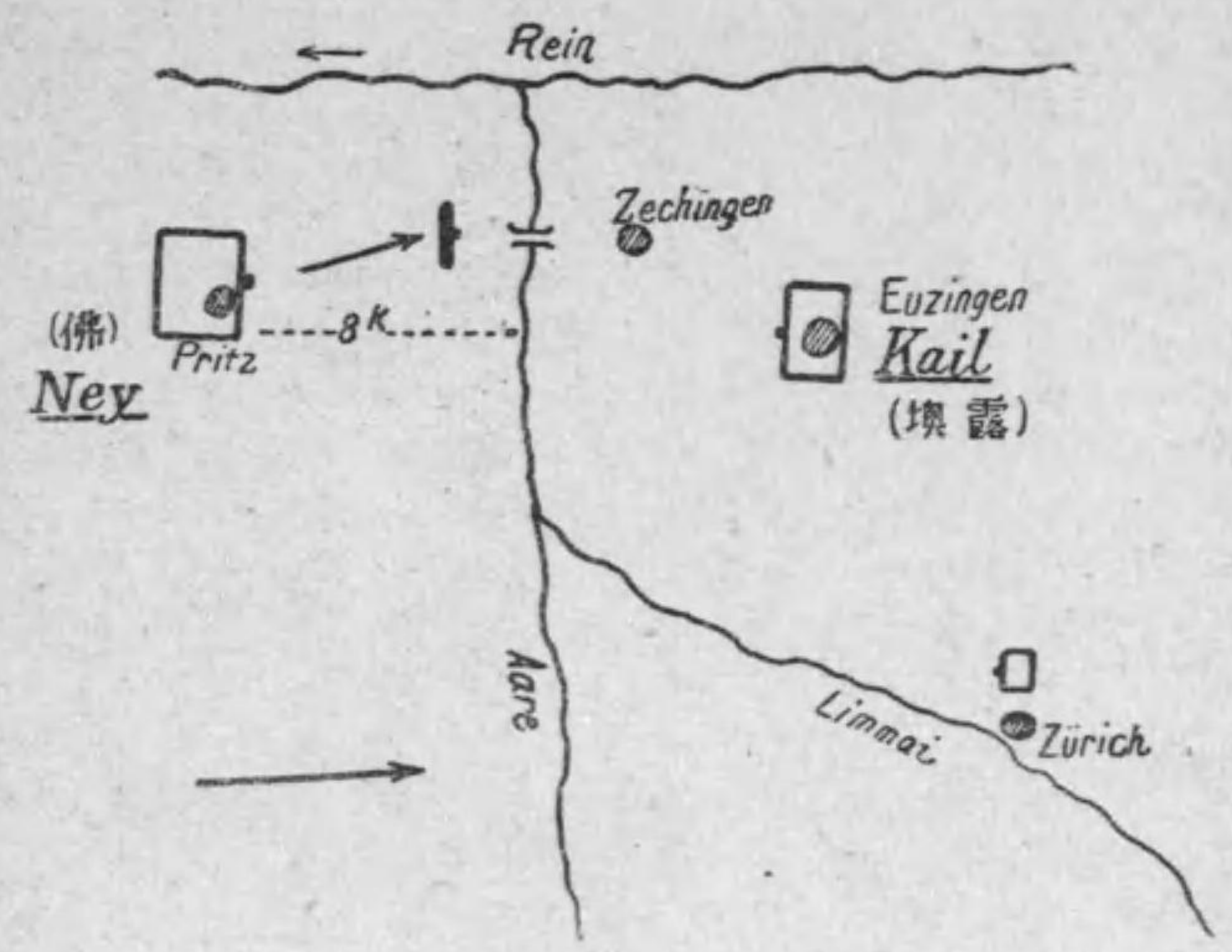
渡河ヲ決行ス此際ニ於テハ逐次兵力ノ増加ト共ニ直ニ前進スヘキモノナルカ故ニ大ナル餘地ヲ存スル必要上渡河掩護陣地ヲ適當ノ時機ニ擴張セラルルヲ一般トス(地形上兩者ヲ兼テ得ルトキハ最モ妙ナリ)其配備ハ前衛カ本隊ノ隘路進出ヲ掩護スル要領ニ準スレハ可ナリ元來渡河ニ於ケル行動ハ現時ノ狀況ニ於ケル一般作戰ノ範圍ニ屬ス只一條ノ隘路ヲ背ニスル點ニ於テ河川附近作戰ノ特徴ヲ有ス

結論

之ヲ要スルニ河川附近ノ攻防ハ全體ニ就テ云ヘハ延長セル障礙物ヲ利用シテ作戰スルモノニシテ攻者ハ天然人工ヲ以テ必要ナル短隘路ヲ求メントシ防者ハ之ヲ妨ケントスルモノニシテ局部ニ就テ云ヘハ短隘路前後ニ於ケル攻防ナリトス而シテ此種作戰ニ於ケル現今ノ趨勢ハ攻者ハ夜間ノ行動ヲ主トスルカ故ニ防者モ亦夜間行動ニ熟練シアルヲ要ス夜間ナルカ故ニ敵ノ渡河ニ乘スルコト不可能ナリトシテ斷念スルモノハ河川ニ於ケル攻勢防禦ヲ知ラサルモノナリ若夫レ敵主力ノ渡河方面ノ察知ニ至リテハ河川部隊ノ報告ト一般戰術上ノ判斷トニ基キ



戦例二
千七百九十九年九月二十五日

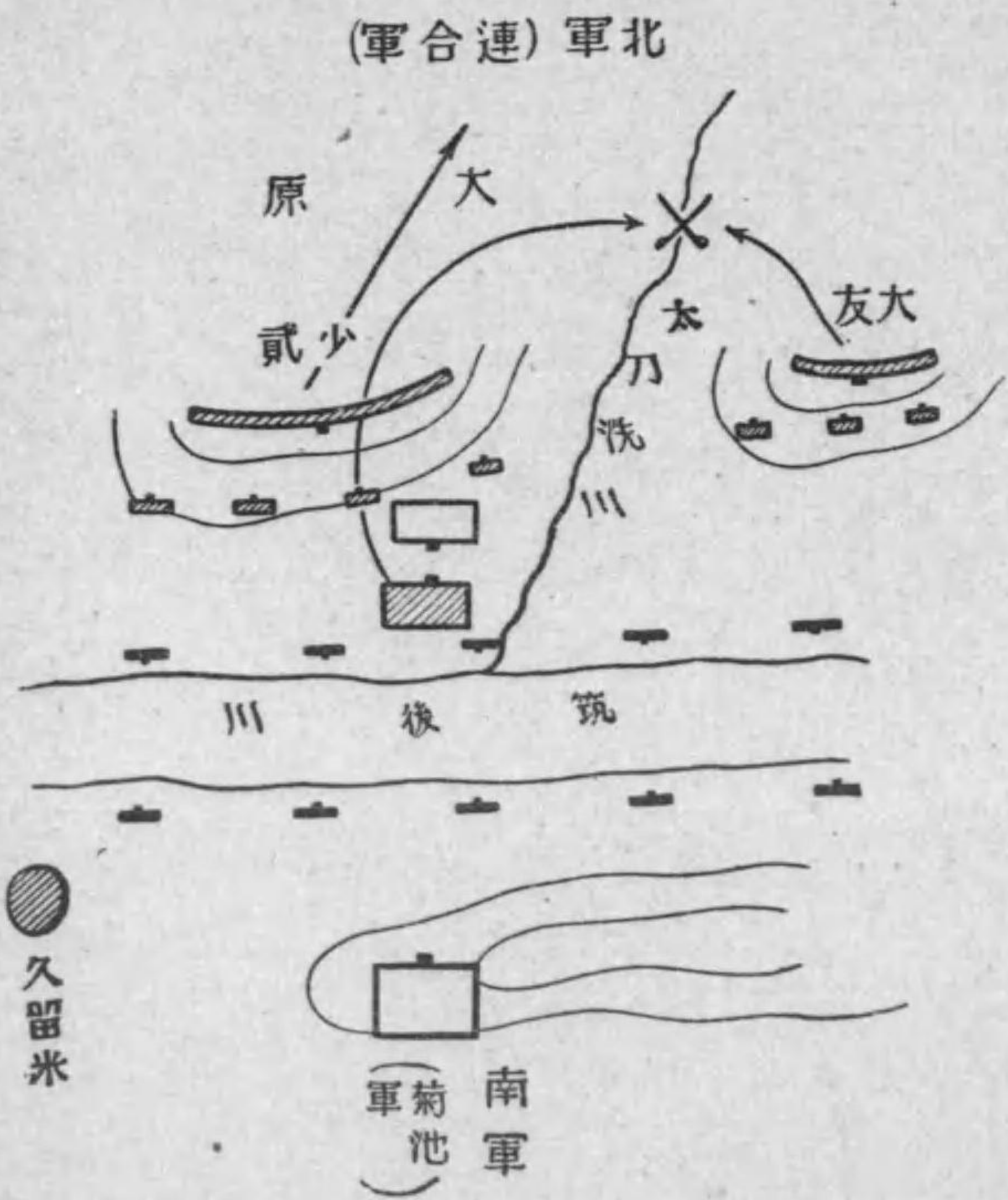


断行スルノ一法アルノミ不幸敵主力ノ
渡河方面ノ判断ヲ誤リ失敗ニ終ルコト
アルモ予ハ遲疑逡巡終ニ無能ニ終リ任
務ノ遂行ヲ忽ニスルニ優ルコト萬々ナ
ルヲ信スルモノナリ

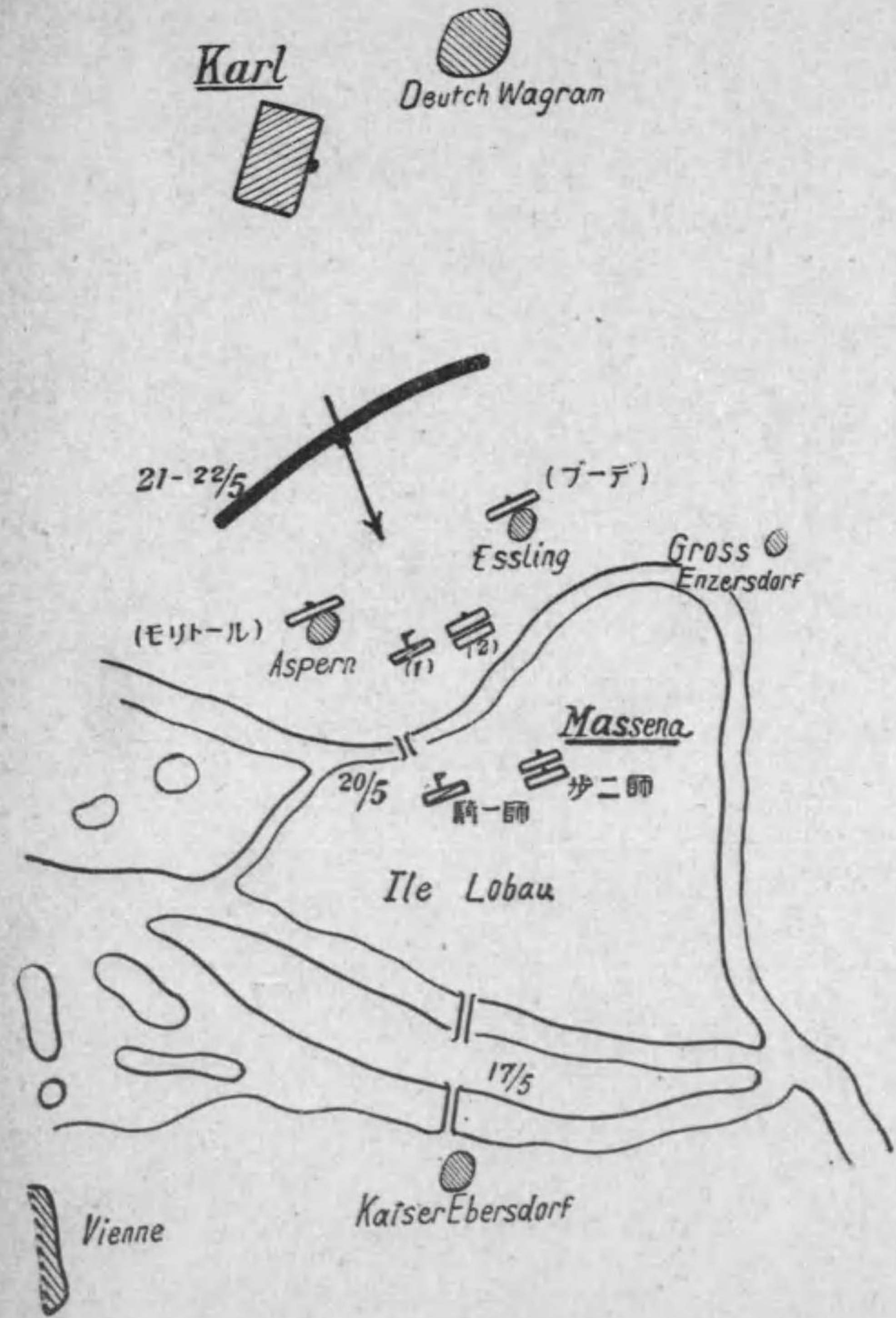
戦例一

千七百九十九年八月十七日

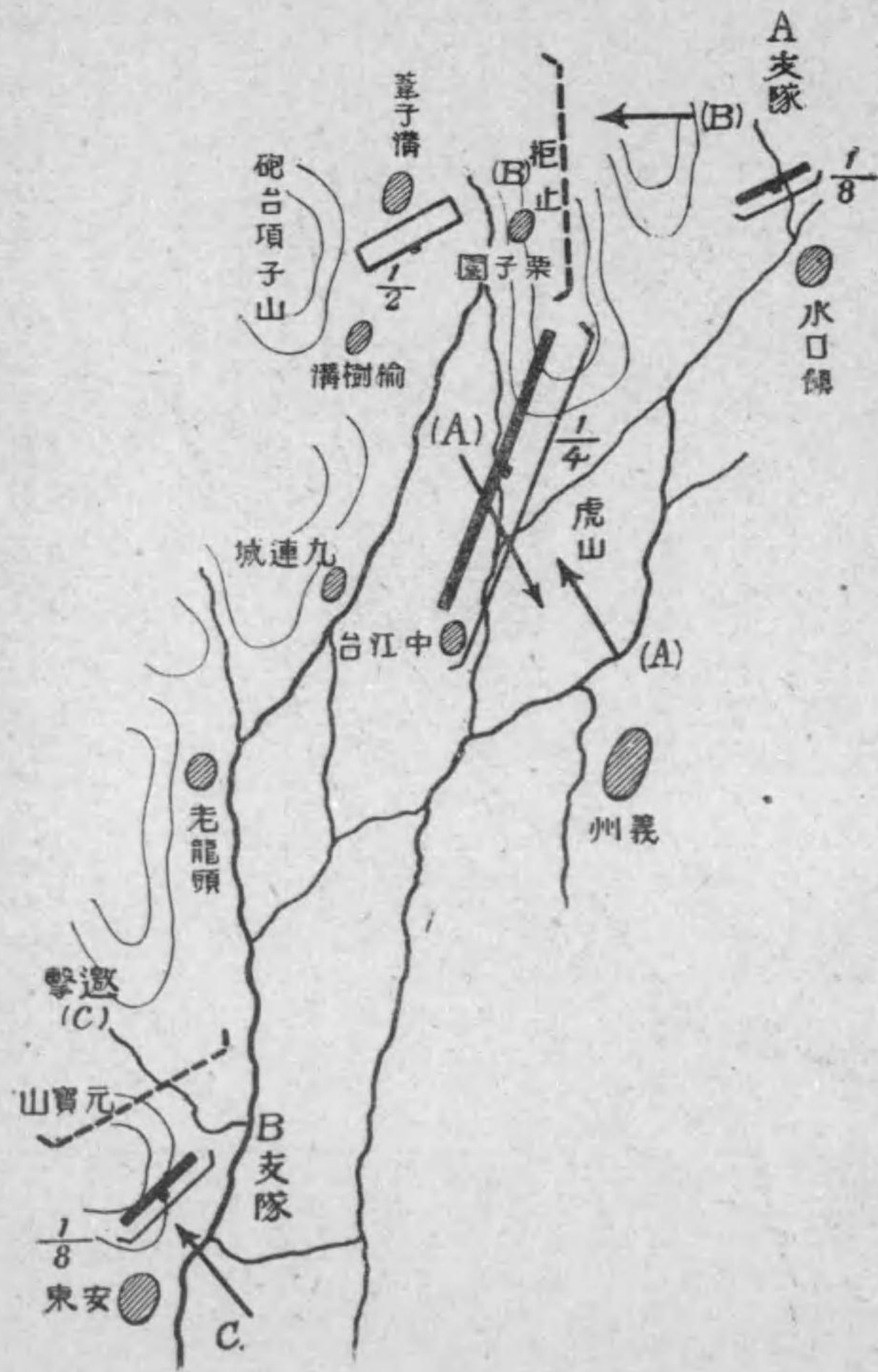
Karlハ渡河ノ爲掩護隊ヲ出サス午前
二時ヨリ架橋ヲ始メ遂ニ佛ノ獵兵ト
射撃戦ヲ開始シ更ニ砲兵ヲ使用シタ
リ之カ爲佛軍主力ハ直ニ前進シ來リ
架橋漸ク終リ渡河ヲ始メントスル頃
ニハ佛軍攻勢ニ轉シ來リ遂ニ右岸ニ
撃退セラレタリ



戦例四
正平十三年大原ノ合戦



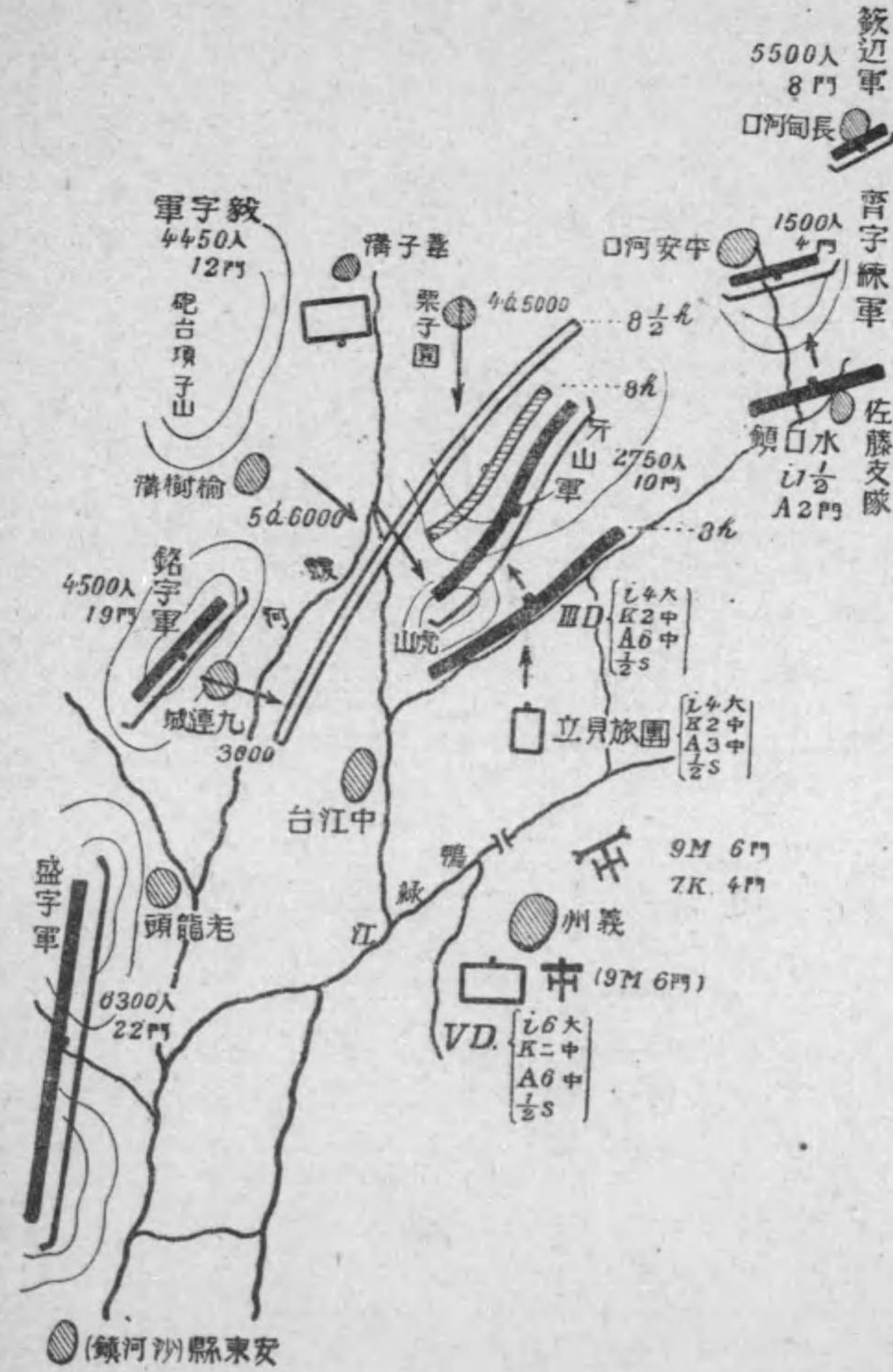
戦例三
千八百九年五月二十一日 Massenaニ對スル Karlノ Aspern 附近 Donauノ防禦戰史畧
一四九頁

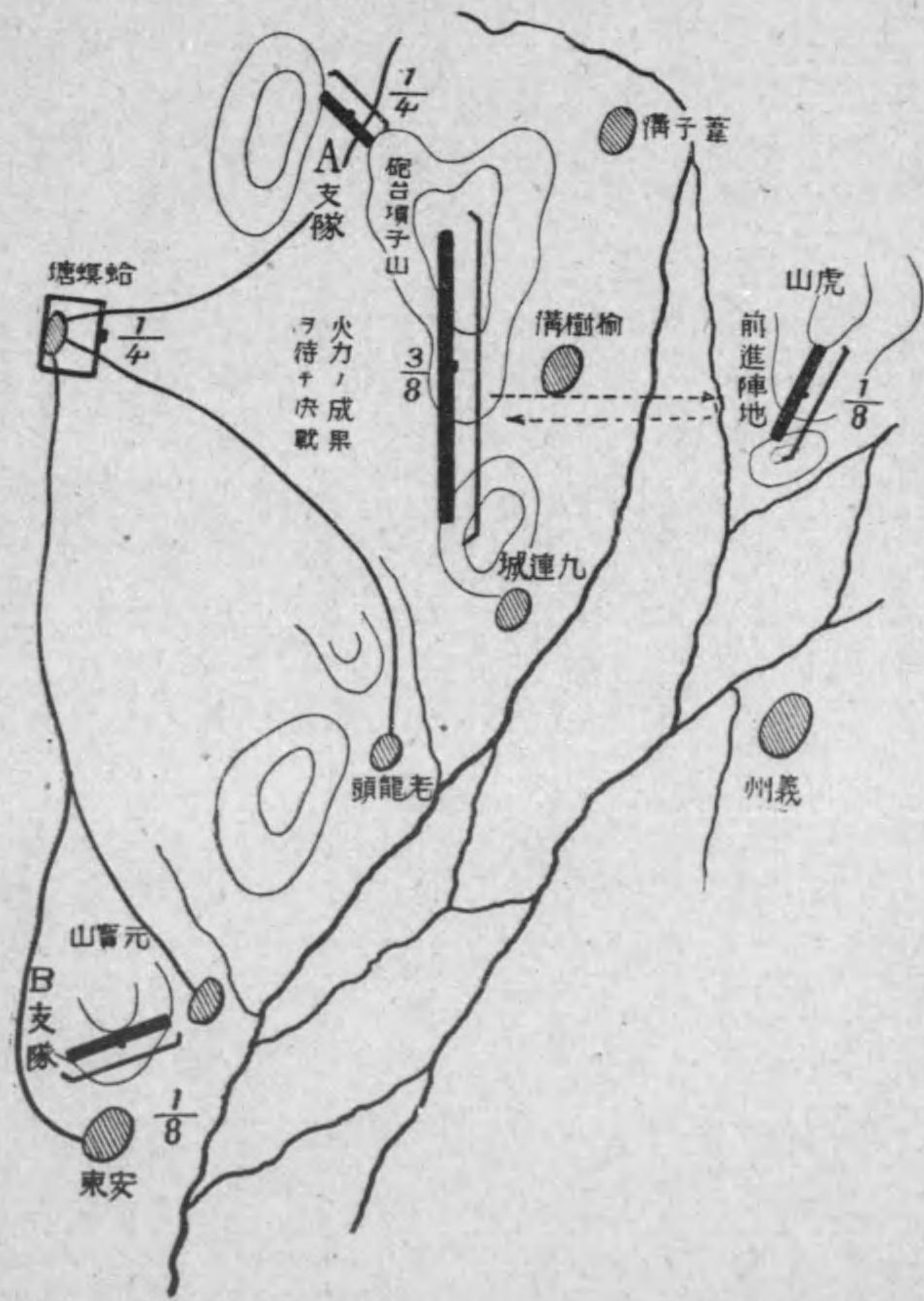


參考

十月二十五日ニ於ケル清軍配備ノ考案
 第一案(兵ノ素質優等ナルトキ)

戰例五
 明治二十七年十月二十五日鴨綠江ノ會戰





戰例六

グロースアスペルンノ戰鬪

一八〇九年二月埃國ハ佛帝拿破崙征西ノ虛ニ乘シテ師ヲ興シ埃公查理之ヲ督シ
 テイーゼル河畔ニ進ミ四月下旬佛帝ト茲ニ戰テ利アラヌ退キテ維也納對岸多腦
 左岸ニ陣ス佛帝之ヲ追フテ維也納ヲ陷レ續テ多腦河ヲ渡河シ埃軍ヲ破ラントス
 グロースアスペルン附近ノ戰鬪即チ之ナリ

當時查理公ノ多腦左岸フイリング北方ニ擁セル總兵力ハ步兵百二三十大隊、騎兵
 約百五十中隊ニシテ之ニ對シ逐次多腦右岸ニ集合中ナル佛ノ總兵力モ亦之ニ伯仲ス
 初メ佛帝維也納附近ニ於テ渡河點ヲ求ム二地ヲ得タリ一ハニユースドルフニシ
 テ他ハエベルスドルフナリ此ニ於テランヌノ軍團ヲ以テ第一地ニ於テマセナノ
 軍團ヲ以テ第二地ニ於テ河ヲ渡ラシム五月十三日ランヌハ先ツ命ヲ奉シニユウ
 スドルフニ於テ渡河ヲ企テタルモ破ル爾來此ノ方面ハ埃軍ノ注意ヲ倍蕞スル所
 トナリ其有力ナル軍ハ遂ニ對岸ビサンベルグニ位置スルニ至ル此ニ於テ佛軍ハ
 此方面ノ渡河ヲ斷念シマセナヲ勵マシテエベルスドルフ附近ノ渡河ヲ督促ス此

渡河點ハ本流我岸ニ在ルノ利アルノミナラス本派兩流ノ間樹木叢生セルロバウ
 エ島アリ據テ以テ渡河ノ據點トナシ得ヘシ然レトモ河水頗ル廣濶ナルヲ以テ豫
 メ周到ノ準備ヲナスニ非サレハ架橋ノ堅固ヲ保シ難シ而モ連勝ニ狂レタル佛將
 マセナハ前記皇帝ノ督促命令ヲ受クルヤ深ク意ヲ其準備ニ用フルコトナク唯時
 日ノ遷延ヲ不可トシ五月十八日ヲ以テ遂ニ其渡河ヲ決行スルニ至ル即チ先ツ第
 一部隊ヲ以テロバウエ島ニアル少數ノ塙兵ヲ驅逐シタル後十九日夕ヲ以テ同島
 西方本流ニ架橋ヲ始メ二十日午後完成ス此ニ於テマセナ軍團先ツ渡橋シテロバ
 ウエ島ニ入り輕騎兵數旅團胸甲騎兵全部近衛ランヌダボーノ諸軍團之ニ後繼ス
 此間一師團ヲメルクチュルンノ間ニ止メテ多腦上流ヲ監視セシム是ヨリ先キ塙
 ノ總督查理公ハ十八日既ニ佛兵ノロバウエ島ヲ經テ渡ラントスルノ企圖ヲ察知
 セリト雖強テ之ヲ妨クルヲ欲セス寧ロ其左岸ニ渡ルヲ待テ一大雌雄ヲ決セント
 欲セリ此ニ於テ公ハ十九日夜單ニ騎兵十六中隊ヲラッスドルフニ遣リ翌二十日歩
 兵ノ大部ヲフイリング、ゲラズドルフノ間ニ進メタルニ過キス而シテ上流ストレ
 スドルフ、ゴルノイブルグノ間ニハ步兵十二大隊ヲ配シテ監視ニ任ス

二十日午後佛ノ本軍始メテロバウエ島ニ入ルヤ先著セル一部隊ハ同島北岸灣入
 部ニ陣シテ同地ニ於ケル最後ノ架橋ヲ掩護ス午後四時頃該橋完成スルニ及ヒ佛
 ノ諸部隊逐次渡テエッスリング附近ノ塙騎ヲ擊退ス

塙公查理之ヲ視テ翌二十二日總戰ヲ交ユルニ決シ夜中其主力三軍團ヲワグラム
 ノ前面ニ進メ豫備騎兵ヲアデルクラ一軍團ヲスタンメルズドルナニ留メテ
 機ノ到ルヲ待チシカ二十一日正午ニ及ヒ遂ニ左ノ部署ヲ以テ總前進ヲ決行ス

第一縱隊(騎歩兵二十九中隊)スタンメルズドルフヨリ多腦ニ沿ヒグロスアスペルンニ向フ

第二縱隊(騎歩兵十六中隊)レオポルドウヲ經テヒルシエステツセンニ向フ

第三縱隊(騎歩兵八中隊)第二縱隊ノ左方ニ接シブライテンレーヲ經テ前進

第四、第五縱隊(合計騎歩兵二十六中隊)第四縱隊ハラッシユドルフヲ經テエッスリング

ニ、第五縱隊ハバウメルズドルフヲ經テグロースエンツエルズドルフヲ

左方ヨリ繞廻シエツスリングニ向フ

擲彈兵十六大隊後繼シテフイリングヨリゲラズドルフニ向フ

騎兵集團(七十八中隊)ブライテンレー、ラツシユドルフ間ヲ進ミ第三、第四縱隊間

會、佛軍ノ大軍橋ハ河水ノ漲溢ト墮軍ノ放流船樹幹、風車、瓦石ヲ積ムトニ因リ屢破損ノ厄ヲ重ネ爲ニ佛軍ノ渡河ハ著大ノ遲緩ヲ招クニ至レリ之ヲ以テ當時左岸ニ進出シ得タル佛兵ハ僅ニ三個師團兵數三萬餘ニ過キス今ヤマセナハ此ノ少數ノ兵力ヲ以テ遙ニ優勢ナル墮軍ノ攻撃ニ對セサルヘカラサルニ至レリ其配備ノ大要次ノ如シ一師團ヲ以テエッスリングヲ他ノ一師團ヲ以テグロースアスペルン及アウエヲ守備セシメ騎兵三十中隊ヲ以テエッスリング、アスペルン兩村間ヲ補綴シ殘餘一師團ヲ豫備トシテ後方ニ控置ス午後四時頃先ツアスペルン方面ニ於テ戰鬪起リ忽チニシテ激戰全正面ニ及フ就中アスペルン、エッスリング兩村ハ戰鬪ノ焦點ヲ成シ彼我ノ騎兵交奮進シテ一勝一敗ス佛帝拿破崙ハ此ノ形勢ヲ洞察シテ既ニ退却スルモ亦危急ノ脱スヘカラサルヲ看破シ斷然令スルニ總攻撃ヲ以テス此ニ於テ戰鬪ハ更ニ一段ノ激烈ヲ加フルニ至ル殊ニアスペルン方面ニ於テハ戰況最モ慘憺ヲ極メ兩軍地ヲ換フルコト七回ニ及ンテ尙決セス佛兵ノ死スルモノ實ニ算ナシエッスリング方面ノ戰況亦之ニ類ス斯ノ如クニシテ夜更クルニ及ヒ全線

漸ク綏シ各武器ヲ手ニシテ夜ヲ徹スルニ到ル佛軍ノ敗退ヲ免レタル寧ロ奇ト謂フヘシ此夜佛軍ハ續々河ヲ渡リ今ヤ其ノ左岸ニ在ルモノ步兵九十六大隊騎兵九十六中隊ニ達シ前日ノ死傷ヲ除クモ猶八萬ノ多キヲ算ス之ニ對シ墮軍モ亦擲彈兵十六大隊ノ未タ戰ニ與ラサルモノアリ猶總計六萬六千ヲ有ス佛帝ハ形勢ヲ達觀シテ必勝ヲ確信シ翌二十二日墮ノ中堅ニ向ヒ一大猛擊ヲ行フニ決ス之カ爲大將マゼナノ二個師團ヲ以テアスペルンヲ他ノ各一師團ヲ以テアウエ及エッスリング兩村ヲ固守セシメ又ランヌヲシテ三個師團ヲエッスリング西方ニ騎兵ノ大部分ヲ其ノ後方ニ控置シテ一大攻撃ヲ準備セシム別ニ一師團ハ此諸兵ノ後方ニ控置セラレ親衛兵ハ更ニ其後方ニ在リテ最後ノ豫備タリ

二十二日拂曉右ノ部署未タ全ク終ラサルニ戰鬪再興シアスペルン、エッスリング兩村ハ再ヒ激戰ノ焦點トナル唯中央方面ニ於テハ墮將ホーヘンゾルレルン自重シテ妄リニ攻メス騎兵團其左翼後ニ在リテ之ヲ護ル拿破崙ハ此日早朝馬ヲ陣頭ニ立テテ戰況ヲ觀察セシカ午前七時ダブー軍團ノ渡河開始ヲ聞クヤ斷然豫定ノ中央攻撃ヲ行フニ決シ大將ランヌニ指スニブライテンレー村ヲ以テス果然ランヌ

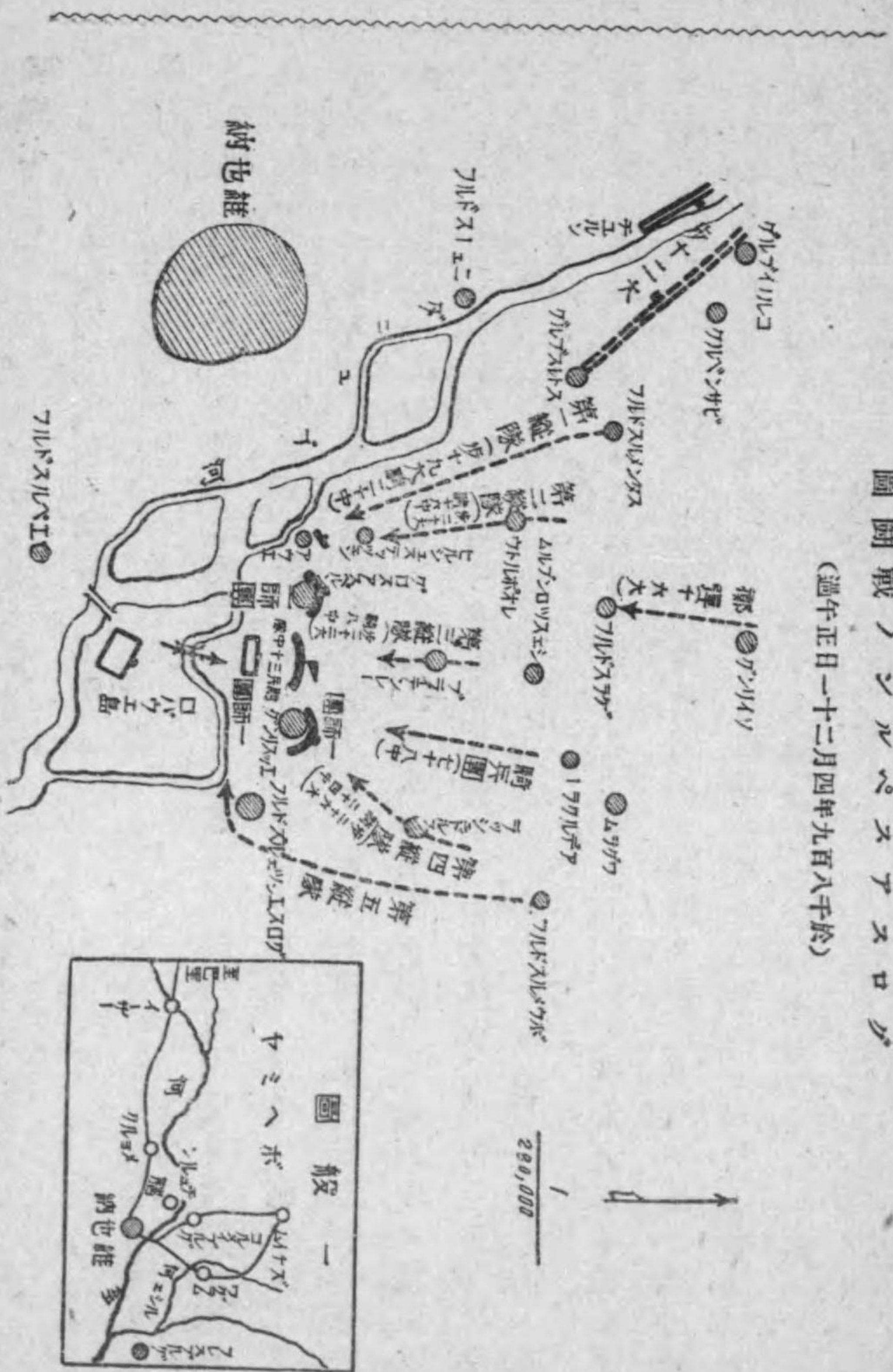
ハ熾盛ナル砲火ヲ以テ十分敵ヲ震動セシメ次テアスベルン、エスリング中間ノ塙軍ニ向ヒ驀進ス之ニ於テ慘憺タル混戦ハ更ニ中央方面ニ突發シ一時塙ノ中央ニ破綻ヲ生セシモ總督奮然身ヲ危地ニ挺シテ範ヲ將卒ニ示シタルカ爲遂ニ額勢ヲ挽回シテランヌノ奮進ヲ水泡ニ歸セシムルニ至ル斯シテ勝敗未タ決セス兩軍ノ疲憊方ニ其ノ極ニ達セリ

此ニ及ンテ總督查理ハ妄リニ攻撃ヲ焦ルノ不可ナルコトヲ悟リ其諸砲ヲ近ク前線ニ進メテ熾盛ナル砲火ヲ佛ノ中央密集團ニ集注セシカハ佛兵ノ殺傷頻出シテ慘狀ヲ極ム此ニ於テ未タ嘗テ破レサル英雄拿破崙破崙モ亦策盡キテ攻撃ヲ斷念シロパウエ島ニ向テ退却ヲ合スルニ至ル即チマセナ、ランヌ能ク之ヲ掩護シ日没後諸兵ニ殿シテロパウニ退ク塙軍亦自重シテ敢テ河ヲ渡ラス爾後兩軍相對シテ専ラ軍容ノ恢復ニ努ム

此戰塙軍ハ將卒二萬ヲ死傷シ捕虜二千ヲ敵ニ致ス而モ佛軍ニ至リテハ遙ニ之ニ優リ死傷四、五萬名將、ランヌ、サンヒルレル、之ニ死シ生還スルモノ四萬ニ過キスト云フ

圖 關 戰 ノ ソ ル ベ ス ア ス ロ グ

(過午正日一十二月四年九百八千於)



戰例七

獨領ワグラムノ戰鬪

佛帝ハグロスアスペルンニ敗レテロバウエ島ニ入ルヤ更ニ嗣後ノ渡河ヲ策シテ
 毫モ屈スルコトナシ則チ徵兵ヲ召致シテ罅隙ヲ填メ籌ヲ運ラシテ伊太利ダ
 シヤ方面ノ諸軍ヲ其旗下ニ輸ス又命シテ我背後本流ノ諸橋ヲ強クシ之ヲ増シ野
 堡ヲ島中ニ繞ラシテ攻城砲百數十門ヲ之ニ備フ其他前敗ニ鑑ミテ上流ニ水柵ヲ
 植ヘ以テ埃軍ノ放流物ヲ防キ又左岸派流ノ架橋ニ供スル爲巨多ノ橋具ヲ島内ニ
 集メテ一時ニ數橋ヲ架スルニ便ス斯ノ如キコト月餘六月下旬ニ至リテ準備略完
 リ兵數約十八萬ヲ超ユ

埃ノ總督查理公モ亦專心其軍ヲ整ヘ之ヲ増シイワンノ伊太利軍ヲ招キテ他日大
 ニ爲ス所アラントシ殊ニ河岸ノ備ヲ固メテ時機ノ到ルヲ待ツ即チ六月下旬其旗
 下ニ在ルモノ約十三萬ヲ下ラス今其配置ノ概要ヲ舉クルニ左ノ如シ

レウス軍 (騎兵八中隊) コルノイスブルグ、フロリスブルグ間多
 腦上流ヲ監視ス

クレナウ軍

(騎兵二十五大隊)

グロスアスペルン、グロース、エンツセル

トドルフ間ニ堅固ナル一連ノ堡壘線ヲ設ケテ之ヲ守備ス

ノルドマン部隊

(騎兵二十三大隊)

右ノ左翼ニ運リウイットウニ至ル

コロラード軍

(騎兵二十二大隊)

ハーゲンブルンニ位置ス

ベルガルド軍

(騎兵二十二大隊)

ワグラムトマルクグラヘンノイジデー

ホーヘンゾレル軍

(騎兵十八大隊)

ルノ線ニ布陣ス

ローゼンベルグ軍

(騎兵二十四大隊)

プレスブルク方面ニ招致ス

イワン軍

(八十中隊)

ブライテシレー、ラツスドルフノ線及其

豫備騎兵

(八十中隊)

以北ニ位置ス

擲彈兵

(十大隊)

グラスドルフ、フイリソグ間ニ位置ス

六月下旬佛帝拿破崙ハ埃軍ノ配備ヲ察シ思ヘラク「前日ノ渡河點方面ヨリ渡ラハ
 グロース、アハペルン、グロース、エンツセル間ニ設ケラレタル堅固ナル敵
 ノ堡壘線ニ向ヒ困難ナル正面攻撃ヲ行ハサルヘカラス故ニ此危ヲ避ケテロバウ

エ島東南端ヨリ渡リ左方ヨリスル廻繞ニ因リ敵ヲシテ自ラ撤退スルニ至ラシムルニ若カス』ト此ニ於テ先ツ二十六日午後四時將官ダボーヲシテ下流プレスブルグ方面ニ陽動セシメテ敵ヲ遠ク牽制シ以テ七月二日更ニ舊渡河點ニ於テ陽動ヲ行ヒ埃軍ノ念慮ヲ此方面ニ牽ク埃公即チ此方面ニ運動シ再ヒ陣地ニ入ル此間佛帝ハ著々本渡河ノ諸準備ヲ完整シ遂ニ七月四日ヲ期シ其本渡河ヲロバウ島東南部ニ決行スルニ至ル即チ午後九時島内諸砲台ハ先ツ一齊ニ砲火ヲ開キウーヂノマセナノ兩軍團ハ各千五百人ヲ相前後シテ左岸ニ渡船シ以テ其背後ニ六橋ヲ架ス此夜會々烈風暴雨襲來セルモ先キニ苦験ヲ嘗メタル佛軍ハ豫メ其作業準備ニ周到ノ戒愼ヲ加ヘタル爲此故障ヲ來スコトナク寧ろ敵ノ注意ヲ殺キテ著々其工ヲ竣リ翌拂曉既ニ三軍團六萬ト騎兵ノ大部トヲ渡橋セシムルヲ得タリ埃將ノルドマンハ豫メ此方面ニ備フル所アリシト雖其兵力分散シテ能ク之ヲ拒クニ足ラス唯僅ニザハセンガング城ニ向ヘルウーヂノ一軍ノ運動ヲ稽緩シ得タルノミ斯シテ午前八時ニ至ル頃佛ノ第一線ハ左方グロース、エンツエルズドルフヨリ右方ザハセンガング城ニ延ヒ幾何ナラスシテ左岸ノ總兵九萬ヲ超ユルニ至ル

當時埃公查理ハ詳カニ佛兵ノ衆寡ヲ知ラスト雖今ヤ遠クワグラム、マルクグラヘンノ線ニ後退セル主力ヲ驅テ敵ヲ渡頭咫尺ノ地ニ縮ムル能ハサルヲ察シ且思ヘラク「徒ラニ兵ヲロバウエ島ノ敵砲台ニ近ケテ之ヲ失ハンヨリモ寧ろ現狀ニ止マリテ暫ク彼カ企謀ヲ施爲セシムルニ若カス」トナシ僅ニ豫備騎兵二十中隊ヲルッセンドルフニ遣リテノルドマン部隊ノ收容ニ任シタルノミ又別ニ一書ヲイワン公ニ馳セテ速ニジューベンブルグニ到ルヘキヲ以テス

正午ヲ過クル後佛軍ハ漸次扇狀ニ擺進シ概ネ左ノ區處ニ就ケリ

- ダボー軍 (步兵五十二中隊計三萬六、七千人) ハキユシメルスドルフニ向ヒ
- ウーヂノ一軍 (步兵五十二中隊計二萬二、三千人) ハダボー軍ノ左ニ連リ
- マセナ軍 (步兵四十五中隊計三萬二、三千人) ハブライテンレー方面ニ向ヒ
- 伊太利副王ノ軍 (步兵三十四中隊計二萬人餘人) ハウーヂノ一、マセナ兩軍間ヲ

整備シ

ベルナツド軍 (步兵二十二中隊計二萬人)) モ亦新ニ來テ右ノ地ニ陣シ

近衛 (步兵十八中隊計一萬一千人))

マルモ軍

(歩兵十五大隊計一萬一千人)

) 稍中央後ニ陣ス

豫備兵

約六七千人

當初埃將ノルドマンハルツユレスドルフヲ固守シ久シク當面ノ佛軍ウーヂノ一軍ノ前進ヲ遲緩セシカ後ダボー軍及ベルナット軍ノ一師團來リテ其兩側面ヲ脅威スルニ及ヒ遂ニマルソグラヘンニ向テ退キ之ヲ收容シタル騎兵モ亦退テ本軍ノ左翼ヲ鞏固ニス此間アスベルン、エツセルズドルフ方面ニ在リシ埃將クレノ一ノ軍モ亦佛ノマセナ軍ノエンツエルズドルフヲ過キテ前進スルニ伴ヒ逐次其堡壘線ヲ棄テテ徐々西北方ニ退キ日没頃スタンメルズドルフノ近傍ニ到ル佛軍ノ諸縱隊ハ以上ノ形勢ノ下ニ漸次敵ヲ壓迫シ午後六時グリーンツェンドルフヨリアデルクラークヲ經テヘルシユスレツセンニ亘ル線上ニ達ス即チ日没頃ニ於テハ彼我既ニワグラム、マルクグラークヘンノ線ニ於テ近ク相接シ決戦ノ機方ニ熟セントスルモノアリ而モ埃軍ハ依然トシテ其約三分ノ一ノ兵力ヲ遠クフライリングゲラズドルフ以西ノ地域ニ留メテ未タ動カス之ニ反シ佛軍ハ僅カニマセナノ一軍ヲ其左方ニ支分スルノミ

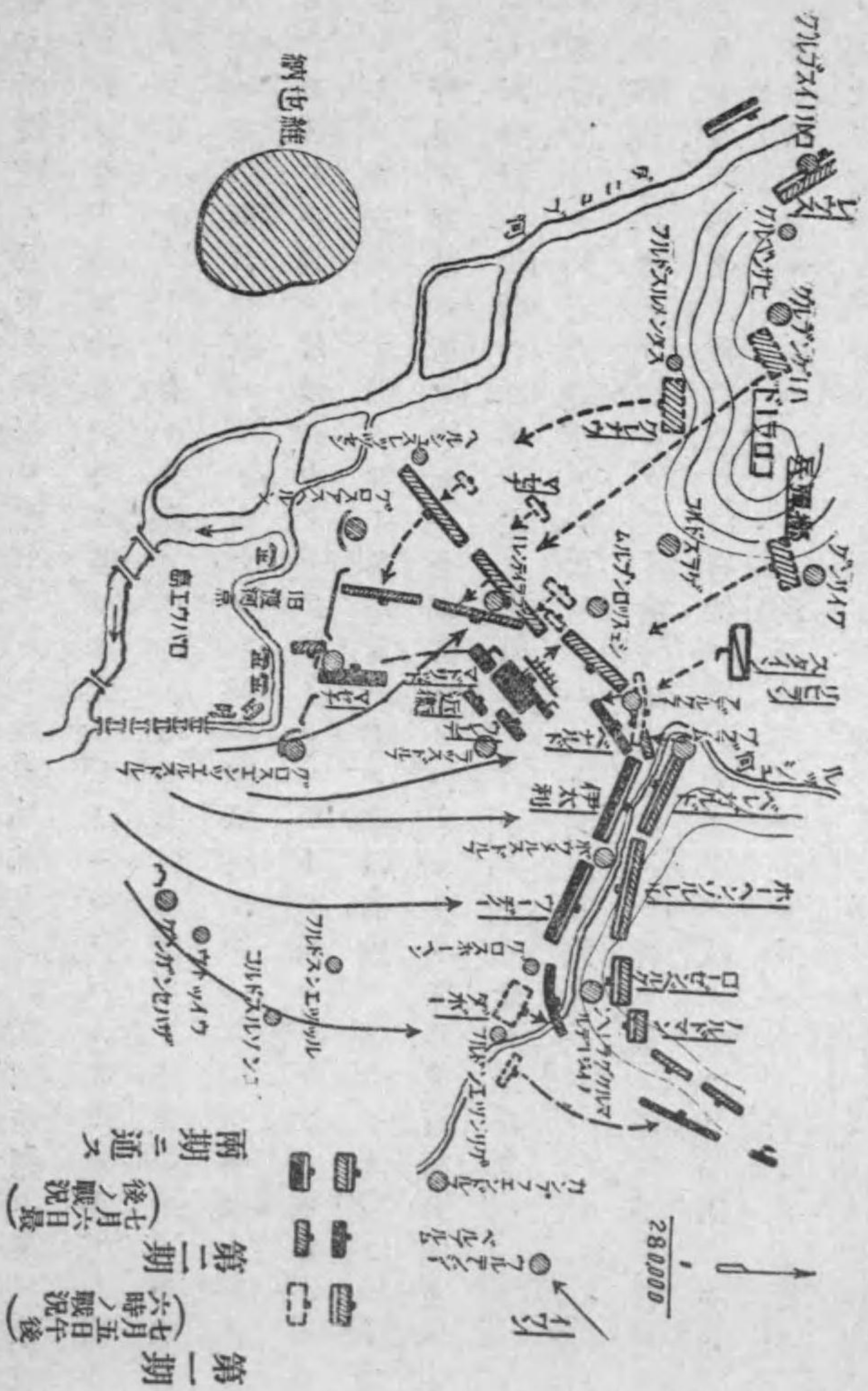
之ヨリ先キ佛帝拿破崙ハワグラム、マルクグラークヘン間ノ埃ノ本陣ヲ奪ヒ勝ヲ一舉ニ制セントシテ竊ニ機ノ到ルヲ待チシカ今ヤ方ニ好機逸スヘカラストナシテ午後七時諸軍ニ令スルニ總攻撃ヲ以テス當時此方面ニ集合セル佛軍ハ歩兵九萬、騎兵七千ヲ算シ若同時ニ正攻ヲ行ハハ勝算正ニ歷々タルモノアリシナリ而モ諸將ハ「一定ノ命令ヲ受ケス」個々攻撃ニ移レルカ故ニ徒ラニ各所獨立ノ戰鬥ト化シ爲ニ空シク埃軍ノ逆撃スル所トナリ辛シテ舊陣地ヲ保持スルニ至ル斯ノ如クシテ勝敗遂ニ決セス日全ク暮レテ交々緩シ兩軍近ク相對シテ露營ス此夜查理公ハ當日ノ戰況ヲ視テ以爲ク今我全力ヲ用ヒ敵ニ先ンシテ之ヲ撃タハ大勝必セリト乃チ夜半ワグラムニ於テ命ヲ傳フル下ノ如シ曰ククレナウノ軍ハ直ニ多腦ノ左岸ニ進ミコロラード軍ハ其左側ニ連テブライテンレーニ向ヒ擲彈兵ハ又其左方ニ在テジュッセンブルヒニ向ヒ前進スヘシト又一書ヲイワシニ送りウルテンジールペンブルグヲ經テ戰場ニ急行ヲ令ス

此ニ於テ之等ノ諸兵ハ翌六日午前一時乃至二時ノ間ニ於テ所命ノ運動ニ就ケリ此間主力方面ニ於テハ午前四時ニ至リベレガルド軍先ツアデルクラークノ攻撃ヲ

始メローゼンベルグ、ホーヘングルレンノ諸軍亦之ニ呼應シテ攻撃ニ轉ス拿破
崙ハ前タノ失敗ヲ見テ深ク心ニ感スルモノアルカ如ク容易ニ攻撃ヲ再行スルヲ
謀ラス大ニ兵ヲ集合シテ不利ノ形勢ヲ挽回セントス此ニ於テダボールハ稍左方ニ
進ミマセナハ一師團ヲアスペンルニ止メテ殘餘ヲアデルクラールニ送ラントス此
日拂曉佛軍ハ新一部隊ノ來リテ合スルモノアリ其兵力十八萬ニ達セリ
拂曉埃ノ左翼軍ローゼンベルグノケロスホーヘングリシツエンドルフ方向ニ進
ムヤ佛將ダボールハ方ニ所命ノ行進ニアリシカ之ヲ見テ埃ノイワソ軍ト策應スル
モノナリト思量シ特ニ其一師團ヲ割テロイベルスドルフニ差遣ス佛帝モ亦甚シ
クイワソ軍ノ未著ヲ軫慮セル結果該方面ニ一發ノ砲聲ヲ聞クヤ直ニ近衛及騎兵
四十中隊ヲ以テ扶援シ更ニ騎兵十六中隊ヲ此方面ニ留ム然ルニ埃ノ總督ハ我カ
右翼部隊ノ戰線加入遲延スヘキヲ料リローゼンベルグニ諭スニ攻撃延緩ヲ以テ
セシカハ彼ハ徒ニ兵ヲ砲火ニ暴露スルノ不利ヲ慮リ遂ニ有利ノ形勢ヲ放棄シテ
再ヒ陣地ニ撤退スルニ至レリ
此間ワグラム方面ノ埃軍ハ敵ノアデルクラールヲ棄ツルヲ逐フテ該村ヲ占領セシ

モ右方諸縱隊ノ猶未タ戰線ニ達セサルカ爲獨リ孤立シテ惡戰苦闘ス果然拿破崙
ハアデルクラール方面掩撃ノ令ヲ發セリ此ニ於テマセナ、ベルナットノ兩軍ハ猛火ヲ
冒シテアデルクラールヲ衝キ一度之ヲ占領セルモ會々諸兵ノ疲憊ハ方ニ極度ニ達
シテ更ニ其結果ヲ發揮スルニ由ナク埃軍ノ擲彈兵ヲ加ヘテ捲土重來スルニ及ヒ
再ヒ之ヲ失フニ到ル幾何モナクシテ埃ノコロラード及クレナウノ兩軍ハブライ
テンレーアスペルンノ間ニ進ミ其右翼ハ佛ノ殘留部隊ヲ逐フテエッスリング及其
附近ノ野堡ヲ奪還ス斯テ埃軍ハ全ク佛軍ヲ包圍セリト雖其正面頗ル過廣ニシテ
中央ノ形勢頗ル薄弱ナリ佛帝之ヲ看破シ一方マセナニ命シ最左翼エッスリング附
近ノ要地ヲ占メテ埃ノ運動ヲ拒止セシムルト共ニ新銳ノ兵(マクドナルドノ三師團)
(三十大隊)ヲ悉クアデルクラール南方地區ニ集メテ再ヒ敵ノ中軍ヲ突破スルノ
策ヲ立ツ之カ爲將ニ砲百門ヲ決勝地ニ布列シテ先ツ敵ノ中陣ヲ猛射セシメ以テ
我攻撃ヲ準備スルト共ニマセナノ側面攻進ヲ掩護セシム此ニ於テ砲兵集團先ツ
其ノ猛火ヲ集中シマドリツドハ其手兵ヲ提ケテシユツセンブルヒ方向ニ驀進ス
之ヨリ先埃ノ左翼軍ローゼンベルグカ其ノ舊陣ニ撤退スルヤ佛將ダボールハ砲火

（ルッテ於ニ日西六五月七年九百八千） 圖 國 戰 ム ラ グ ヲ



1100

ヲ集中シテ進撃ヲ先導シ次テ歩兵ハ二團トナリ一ハ前面ヨリ一ハ側面ヨリ埃ノ左翼ヲ襲ヒ騎兵四師團其ノ背後ニ迫ル埃兵能ク戦ヒ屢出テテ逆撃セシモ諸將相繼テ斃レ加フルニ佛兵九大隊新ニ加ハリ攻ムルニ及ンテ遂ニ陣地ヲ棄テテ走ル此ニ於テ埃ノ全陣逐次東方ヨリ蕭捲サラレ總督查理終ニ退却ヲ令スルニ至ル然レトモ其退却ハ整々トシテ紊レスルツシユ河ニ隊勢ヲ整ヘテズナイムニ陣ス此戦兩軍ノ失フ所亦頗ル多シ埃ノ死傷ハ二萬三千、擒ニ就クモノ七千五百ニ達シ佛モ亦少クモ二萬ヲ死傷セシメタルカ如シ

迂回ニ關スル原則的説明

(一) 意義及性質

迂回トハ敵翼ヲ繞回スルヲ云フ敵翼ヲ繞回ストハ敵翼側ニ於テ敵ノ戦闘距離若ハ戰場タル勢力範圍ニ屬スル地域外ヨリ敵ノ翼側ヲ繞回シテ其後方ニ出ツルヲ云フナリ故ニ迂回ハ敵ノ期待セル戰場外ニ於テ動作スルモノナリ世人往々包圍ノ爲側面ニ指向スル部隊等敵ノ注意ヲ避クル爲迂路ヲ經テ行動スルモノヲ見テ迂回ト稱スルモノナキニアラサルモ之誤解ナリ

迂回ノ目的ハ敵ノ期待セル戰場ニ於テ真面目ニ戦闘ヲ交フルニアラスシテ敵ノ背後ニ出テ其後方ヲ脅威スルニ在リ故ニ攻撃法ニアラスシテ作戰目的ヲ達スル爲一ノ作戰行動ナリ從テ迂回ハ其規模ノ大小ニヨリ多少意義ヲ異ニス

ト雖元來ノ性質ハ戰略ノ範圍ニ屬スルモノナリ
小規模ノ迂回運動ニシテ往々敵ノ察知スル所トナリ敵線擴張ノ結果偶然敵ノ一翼側ニ對スル等ノ事アルモ之迂回本來ノ目的ニアラスシテ迂回變シテ包翼

トナレルモノニシテ迂回トシテハ寧ロ失敗セルモノト云ハサルヘカラス
迂回ハ前述ノ如ク元來一種ノ戰略動作ナリト雖其之ヲ行フ目的ヲ翫味スルトキハ二種トナスコトヲ得

(1) 有利ナル會戰ヲ求ムル爲自己ノ有利ナル方面ニ軍隊ヲ近接又ハ集中セシムルヲ目的トナシ我ト目的地トノ中間ニ存在スル敵ヲ迂回スルモノ(行動大規模ニシテ真ノ戰略的迂回)

(2) 戦闘ヲ有利ナラシメ又ハ敵ヲシテ某地ヲ撤退セシムルヲ目的トナシ當面ノ敵ヲ迂回スルモノ(行動比較的小規模ニシテ戰術的迂回ト稱シ得ヘキモノナリ)

第一項ニ述ヘタル迂回ハ暫ク措キ以下主トシテ第二項ニ述ヘタル迂回ニ就キ研究セントス

(二) 種類及利害

第二項ニ示シタル迂回ニ關スル種類及利害ニ關シテハ陸軍士官學校教程及其他戰術書ニ散見スルヲ以テ多ク説明ノ要ナキモ若干之ヲ敷衍シ諸官ノ注意ヲ

喚起セントス

牒報、搜索及通信勤務ノ發達シタル今日敵ニ對シテ迂回ヲナスノ困難ハ昔日ノ比ニアラス然レトモ一方通信機關ノ發達ト戰鬪ノ韌強性ヲ帶フルニ至リシ結果高級指揮官カ戰備又ハ作戰地域ノ異ナル正面攻撃部隊、迂回部隊ヲ統帥スルコトハ昔日ヨリモ稍、容易ナル趨勢ヲ呈スルニ至レリ

今日ノ戰場ニ於テ諸兵連合ノ大部隊カ全力ヲ以テ迂回スル如キハ全ク特殊ノ事情ノ存セサル限り不成立ノモノト謂ハサルヘカラス全力ヲ以テ攻者他方面ニ行動シツツアル間ニ守者ハ舊陣地ニアリテ攻者ノ狀況ヲ知ラスシテ忙然無爲ニ停止スル如キハ吾人ノ豫想シ得サル所ナレハナリ故ニ此種ノ迂回ハ小部隊ニシテ而モ特別ノ時機例ヘハ夜間等ニ於テ稀ニ小規模ノ實行ヲ見ルコトアルヘシ從テ予ハ吾人カ研究セント欲スル一般戰術ニ於テハ迂回ハ寧ロ左ノ二種ニ分ツヲ適當ト思考ス

- (1) 主力ヲ以テ行フ迂回
- (2) 一部ヲ以テ行フ迂回

主力ヲ以テ行フ迂回ハ其目的守者ヲシテ該陣地ヲ撤退セシメント欲スルカ又ハ他ノ作戰目的ノ爲當面ノ敵ニ相對スルノ不利ナルトキ行フモノニシテ一部ヲ以テ行フ迂回ハ正面ニ於ケル主力ノ戰鬪ヲ有利ナラシムルヲ目的トナスモノナリ

何レノ場合ニ於テモ守者ハ恐ラクハ次ノ如キ行動ヲナスナラン

(A) 斷然陣地ヨリ進出シテ攻撃前進ヲナス

此場合ニ於テ守者ハ攻者主力ヲ以テ迂回セハ正面ノ一部ヲ突破シテ攻者ノ側面又ハ背面ニ向ヒ攻撃シ若ハ後方連絡線ニ向ヒ動作スヘシ攻者一部ヲ以テ迂回スルニ際シ其兵力分離セルニ乘シ攻勢ニ轉シ主力ト決戰ヲ交フルニ至ルモノトス

(B) 迂回部隊ニ向ヒ攻撃ヲナス

守者ハ攻者其主力ヲ以テ迂回セルヲ知ラハ之ニ對シ反擊的ニ攻勢前進ヲナシ陣地外ニ於テ遭遇戰ヲナスコトトナルヘシ此際ハ恰モ陣地ノ攻防ニ代フル陣地ノ側方ニ於テ遭遇戰ヲナスノ狀況トナルヘシ攻者若一部ヲ以テ迂回スルト

迂回ニ關スル原則的説明

キハ守者ハ其大部ヲ以テ此部隊ヲ各個ニ擊破スルナラン

(C) 迂回部隊ヲ妨支ス

攻者主力ヲ以テ迂回セハ守者モ亦主力ヲ用ヒ攻者一部ヲ以テ迂回セハ守者モ亦一部ヲ以テ要地ヲ占領シ攻者ヲ防支ス此ノ如クナルトキハ結局防禦線ノ延長ト化シ長延ナル地域ニ於テ陣地ノ攻防ト變スヘシ

(D) 守者陣地ヲ撤シテ退却ス

此場合ニ於テハ始メ攻者ハ迂回ノ目的ヲ達シタルモノナランモ如斯キハ恐ラクハ守者ハ攻者ノ迂回ニヨリ守者自己モ亦目的ヲ達シ得タル場合ナルヘシ以上ヲ綜合スレハ(A)ハ攻者モ亦連絡線ヲ危殆ナラシムルカ又ハ兵力ヲ分離シテ守者ニ攻勢移轉ノ機ヲ與フヘク(B)ハ豫想外ノ地域ニ於テ交戦スルモノニシテ此際ハ連絡線ノ安全ニシテ敵ニ先ンシテ交戦準備ヲ整ヘタルモノニ勝利ノ公算多ク而モ守者ハ攻者ニ先ンシ諸般ノ準備ヲ完了シ得ルコト屢ナリ(C)ハ防禦線ノ延長ニシテ毫モ迂回ノ目的ヲ達シ得ス守者豫メ此ノ如キ場合ヲ考慮シ準備ヲナシアルトキハ殊ニ然リ(D)ハ攻防兩者共ニ目的ハ達シタルモ攻者ハ守

者ニ損害ヲ與ヘ得サルト後ニ後方連絡線ノ整理ヲ要スルノ煩アルヘシ斯ノ如ク論シ來レハ迂回ハ終ニ一ノ窮策ト云ハサルヲ得ス從テ正面ニ於テ努力セハ所望ノ時日内ニ成効ノ見込アルニ方リ迂回ヲ企圖スルカ如キハ多クハ適當ナラサルモノトス

(三) 用途

迂回ヲナサント欲セハ次ノ如キ場合ナラサルヘカラス

主力ヲ以テ行フ迂回

(1) 兵力十分優勢ニシテ迂回シテ最善ノ好果ヲ收メ得ル見込アルトキ

(2) 我後方連絡線ノ安全ヲ確保シ敵ノ連絡線ヲ脅威シ得ルトキ
一部ヲ以テ行フ迂回

(1) 地形上兵力ノ制限ヲ受ケ迂回ヲナスハ之ヲ行ハサルニ優ル如キ
場合例ヘハ山地戰ノ如キ

一部ヲ以テ行フ迂回部隊ノ兵力ハ小ニ失スレハ奏効困難ニシテ且擊退セラレ

ヘク大ナルトキハ兵力分離ノ害ヲ受ク故ニ此兵力及編組ニハ特ニ注意ヲ要ス

持久戦ニ關スル原則的説明

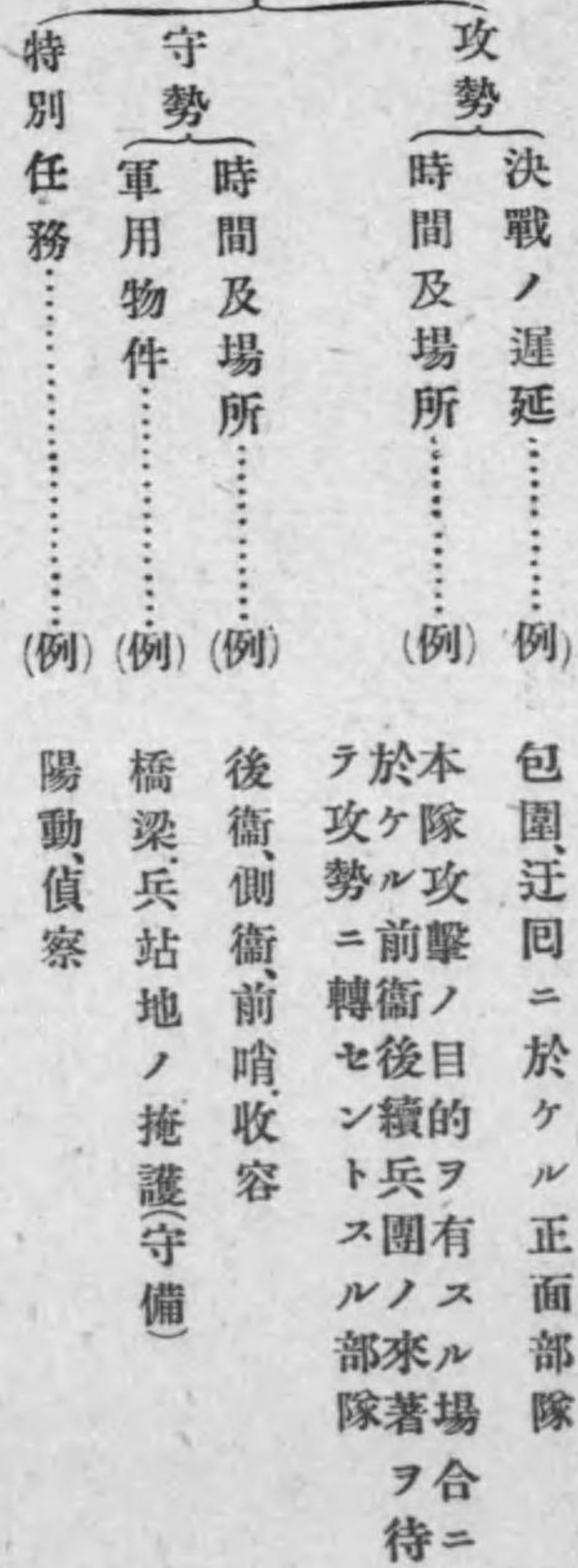
(一) 意義

持久戦トハ一見明瞭ナルカ如キモ其實ハ甚不明瞭否複雑ナル動作ヲ包含スル兵語ナリ持久戦トハ決戦即チ勝利ヲ得ント欲スル戦闘以外ノ戦闘ヲ總稱スルモノナリ持久戦ハ一名之ヲ持續戦ト稱ス元來戦闘ハ目的ニ從ヒ時場所動作ノ三要素ヨリ成立スルモノナルモ之ニノミヨリテ之ヲ區別シ難キ時ハ此戦闘ヲ企圖セル軍隊指揮官ノ意志ニヨリテ區別スルヲ適當トナス故ニ予ハ前述ノ如ク指揮官ノ意志ニヨリ勝利ヲ得ント欲セスシテ交フル戦闘ハ其作戰目的及戦闘法ノ如何ニ拘ハラズ皆之ヲ持久戦ト解スヘキモノト信ス

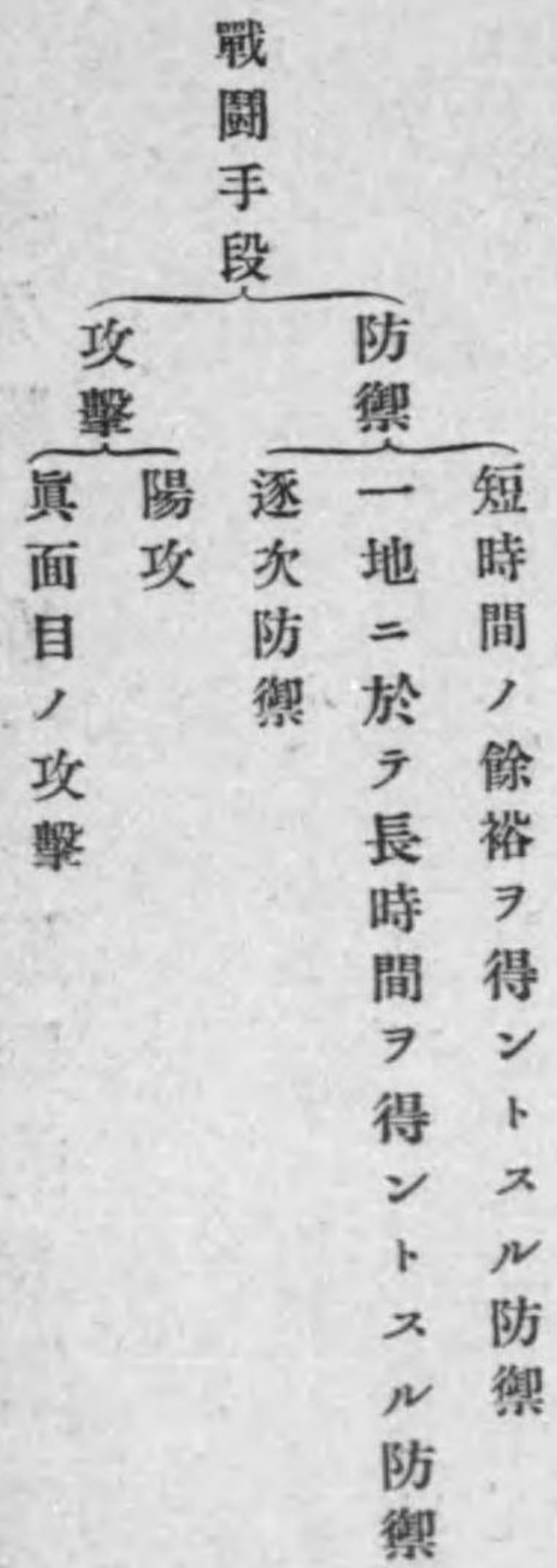
(二) 種類

持久戦ノ分類ハ甚複雑ナルヲ以テ今參考ノ爲其二三ヲ指示セン然レトモ諸官ハ如斯學究的ノ分類等ニ腐心センヨリ戦闘指導ノ要點ヲ捕ヘ活用ノ妙ヲ得ンコトニ努ムルヲ要ス

(イ) 作戰目的ニヨル種類



(ロ) 戦闘手段ニヨル種別



防禦ノ場合ニ關シテ諸官ハ疑義ナカルヘキモ攻撃ノ場合ニ於テハ或ハ疑惑ナ

シトセス歩兵操典第二部第九十三ニ持久戦ニ任スル部隊ハ其目的ヲ達センカ
 爲陽ニ攻撃動作ヲ行フヲ要スルコトアリトアル爲此攻撃ヲ陽攻ノミナリト速
 斷スルモノアルコト之ナリ持久戦ニ於ケル攻撃ハ多クハ陽攻ヲ用ヒ又之ヲ以
 テ目的ヲ達シ得レハ甚可ナリト雖常ニ必スシモ如斯ナル能ハス例ヘハ後衛カ
 犠牲トナリテ敵ニ逆襲スル場合ノ如キハ陽攻タルコト能ハス故ニ持久戦ノ攻
 撃ニ於テハ敵ヲ欺騙スル爲ニ行フモノト敵ニ痛痒又ハ妨害ヲ與フル爲ニ行フ
 モノトノ二種アルコトヲ思ハサルヘカラス(甲)ハ即チ陽攻ニシテ(乙)ハ真面目ノ
 攻撃ナリ而シテ兩者其勝利ヲ得ント欲スル決戦意志ノナキハ相一致セリ之持
 久戦ト認ムル所以ナリ
 此外敵軍ノ素質、性情、季節、天候等ノ關係ヲ顧慮スルノ緊要ナルハ一般戦法ト異
 ル所ナシ

(三) 部署決定上顧慮スヘキ要件

持久戦ニ於ケル部署決定上顧慮スヘキ要件ハ歩兵操典第二部第九十二ニ指示
 シアリ目的、得ント欲スル時間、保持又ハ利用シ得ヘキ地形等ニヨリ差異アルハ

持久戦ニ關スル原則的説明

今茲ニ解説スルノ要ナカルヘシ

指揮官爾後ノ決心ニ基キ更ニ軍隊ヲ區分セントスル場合ニ於テハ刻下ノ戦闘指導以外ニ爾後ノ用途ヲ顧慮シ軍隊ヲ控置シ置クヲ緊要トスルモノニシテ其實ハ單ニ刻下ノ戦闘ノ爲ノ部署ニ非ラスシテ持久戦ノ爲刻下ノ戦闘ト爾後ノ行動トニ基キ二目的ノ爲ノ部署ト見ルヲ得ヘシ但シ爾後ノ決心實行ノ爲部隊ノ控置ヲ要スト雖刻下ノ戦闘ニ支障ナキ程度ニ於テスルハ勿論ナリトス之第一ノ決心ヲ實行シ終ルニアラサレハ第二ノ決心ニ著手スルノ機ナケレハナリ

(四)

各種場合ニ於ケル戦闘指導ノ要領

(A) 攻撃

(イ) 眞面目ノ攻撃

此戦闘ニ關シテハ別ニ説明ノ要ナシ但シ此場合ト雖目的達成ノ曉ニハ早晚退却スルヲ要スルモノニシテ決死的ニ突進スヘシト雖成シ得レハ死地ニ入り更ニ活路ヲ求ムルハ一ニ指揮官ノ手腕ナリトス然レトモ之カ爲如何ニスヘキヤハ原則アルコトナシ

(ロ) 陽攻

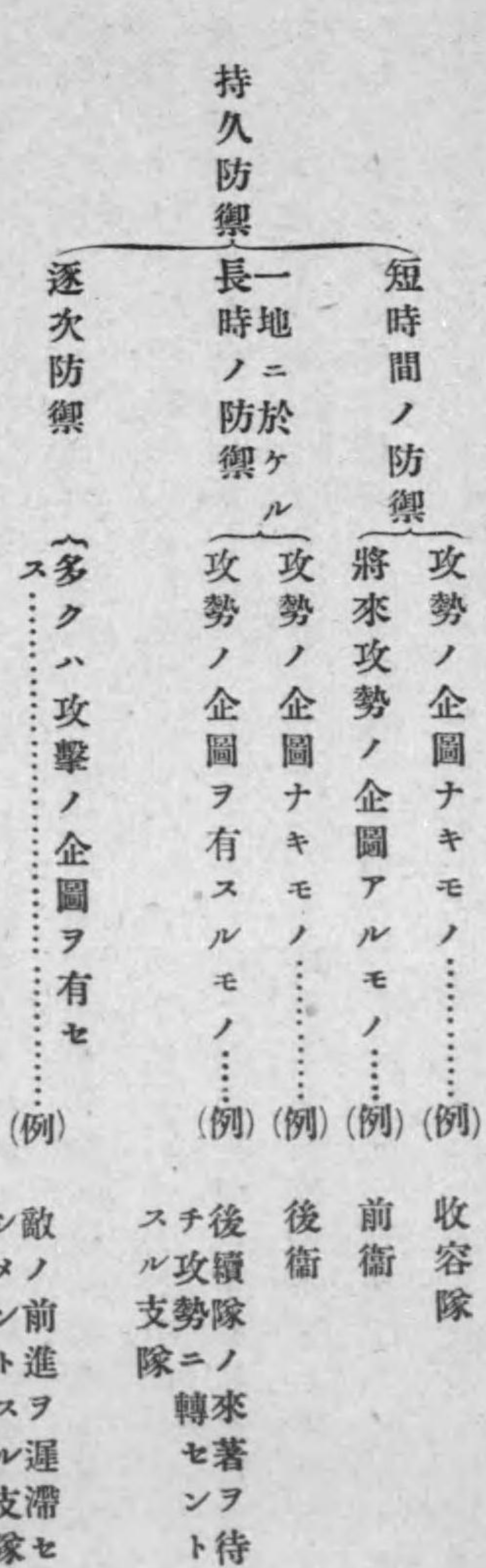
陽攻トハ其目的敵ヲ欺騙スルニアリ之カ爲ニハ敵ヲシテ我兵力ヲ過大視セシムルヲ捷徑ナリトス故ニ地形ノ利ヲ得ルニアラサレハ困難ナリ而シテ歩兵ハ特ニ廣大ナル正面ニ展開シ砲兵ハ遮蔽陣地、射撃速度、射程ノ遠大等ヲ利用シテ之ヲ分割シ更ニ之ヲ適宜移動スル等ノ處置ヲナスヘキモノトス敵ニ目視セラレル部ハ眞面目ノ攻撃ノ部署ニ準シ否ラサル場所ニハ往々小部隊ヲ以テ左右ニ移動セシメ濃密ナル部隊アルカ如ク裝フ等之ナリ又敵トノ近接距離ハ地形ニヨリテ差異アルヘシト雖敵ヨリ十分我真狀ヲ看破セラレサル程度ニ止ムルヲ可トス

此戦闘ニ於テ目的達成後如何ニスヘキヤハ一般ノ狀況ニ關スト雖前進、退却、時トシテハ配置ヲ補修シテ眞面目ノ攻撃又ハ不時ノ事變ニ應スル等ノ必要アルコトアルヲ以テ軍隊指揮官ハ適宜後方部隊ヲ控置シアルヲ緊要トスルコト多シ

(B) 防禦

持久戦ニ關スル原則的説明

持久防禦ハ左ノ如ク種別スルヲ得ヘシ



又攻勢意志ノ有無ニヨリ地形ノ選定法將來ノ準備ニ關シ差異アルハ茲ニ説明スルノ要ナカルヘシ

(イ) 短時間ノ餘裕ヲ得ントスル防禦

攻勢企圖ヲ有スルトキハ刻下ノ戰鬪ノ外攻勢移轉ノ準備ヲナシ否ラサルトキハ退却ノ用意ヲナシアルヘキモノトス此種戰鬪ニ於テハ一小部隊ヲ展開シ或ハ單ニ砲戰ノミニテ目的ヲ達シ得ルカ如キ幸運ナル場合アリ又極端ノ場合ニ

於テハ爾後ノ行動ヲ顧慮スルノ暇ナク刻下ノ戰況上全部ヲ第一線ニ展開シテ戰鬪ヲ交ヘサルヘカラサルコトアルヘシ

(ロ) 一地ニ於テ長時間ノ餘裕ヲ得ントスル防禦

攻勢意志ノ有無ニ拘ハラズ不時ノ事變損害ノ補充等ノ爲多クノ豫備ヲ控置シ第一線ノ兵力ハ諸種ノ設備ト相待テ敵ヲ拒止シ得ル程度ノ最小限ニ止メ所要ニ應シ破綻ヲ補修スル爲逐次後方ノ兵力ヲ増加シ所望ノ時間ヲ得ルヲ一般トス

此場合ニ於テハ將來攻勢ノ意志ヲ有ストスルモ當初先ツ所望ノ時間ヲ得ルヲ以テ第一ノ要件トナスヘキカ故ニ許多ノ場合ニ於テ當初ヨリ攻勢準備ノ部署ヲナシ得サル場合多シ(諸設備又ハ精神上ノ覺悟ハ別トシテ)故ニ此種防禦ハ所望ノ時間ヲ得ル迄ハ持久防禦ニシテ時間ヲ得後續隊ノ來著セル後ハ攻勢防禦又攻撃前進ニ變スヘキモノナリ若從來持久防禦ニ任シアル部隊ヲ以テ守勢地帶守備部隊トナシ新來ノ部隊ヲ以テ攻勢移轉ノ部隊トナシ得ルカ或ハ從來持久防禦ヲナセシ部隊ヲ其配置ノ儘其位置ヨリ新來ノ部隊ト連繫シテ攻撃前進

ヲナシ得レハ最モ妙ナリト雖實際斯ノ如キ好都合ナルコトハ極メテ稀ニシテ多クハ持久防禦ノ部隊ハ攻撃ニ先チ配置ヲ變更シ補修シテ攻勢準備ヲナスヲ要スルモノナリ蓋シ此種ノ防禦ハ極端ナル持久防禦ヨリ一轉シテ攻勢前進ニ移ラントスルモノナルヲ以テ其間特別ノ準備ヲ要スルハ當然ナレハナリ

(ハ) 逐次防禦

逐次防禦ニ於テハ最終ノ陣地ニ至ル迄ニ全時間ヲ確實ニ求メ得ル如ク地形ノ利用ト行動ヲ規正シ且其間敵ヨリ各個ニ擊破セラレサル如ク巧妙ナル指揮ヲナスヲ要ス之カ爲ニハ敵ノ戰場ニ到著スル迄ノ時間、到著後攻撃準備ニ要スル時間、攻撃開始後近接迄ニ要スル時間等ヲ豫察シ之ニヨリテ地形ノ選擇、部署諸設備、行動等ニ關スル標準ヲ得ルモノトス但シ狀況ノ許ス限リ諸種ノ手段、道路ノ破壞、偵察動作ノ妨害、障碍物ノ設置ヲ講シ以テ可成多クノ時間ヲ得ル如ク努カスヘキハ勿論ナリトス

(ニ) 攻勢ノ意志ナキ持久防禦ニ於テ特ニ注意スヘキ事項

防禦陣地ハ所謂要害ノ地ニシテ且堅固ニ敵ノ近接困難ナルノミナラス側面ニ

通過スヘカラサル地區地物ヲ有シ且迂回ヲモ免ルルヲ得ハ最モ妙ナリ故ニ障礙線ヲ前方ニシテ陣地ヲ占ムルコトハ最モ有利ナリ平坦開濶ナル地ハ現今ノ兵器ヲ以テセハ晝間ハ能ク持久ノ目的ヲ達スルニ適スト雖夜間ニ於テハ其價値大ニ減少スヘシ又陣地ノ幅員ハ兵力ニ相等スルヲ可トスト雖此種ノ防禦ニアリテハ決戰防禦ニ比シ正面過廣ナルモ可ナリ否寧口過廣トナササルヘカラスアル場合多キモノトス

豫備隊ヲ控置スルノ多寡ニ關シテハ先ニ述ヘタルカ如シ而シテ其編組ハ建制ヲ保持スルヲ要セス否寧口混成ヲ有利トナスコトモアリ之豫備隊ヲ逐次補綴的ニ使用スルニ際シ第一線部隊ノ建制ヲ保持センカ爲ナリ

豫備隊ノ位置ハ通常危險ナル翼後トシ各方面危險ノ度同一ナルニ方リテハ中央後ニ配置ス又地形其他ノ關係ニヨリ一地ニテハ各方面ノ危險ニ應スルヲ得サルカ如キ場合ニハ之ヲ兩翼或ハ數地ニ分置シ置クコトアリ

學理ハ叙上ノ如シト雖戰鬪ニハ主目的及副目的アリ又狀況ハ千變萬化ニシテ單純ナル理論ヲ以テ推シ難キモノアリ故ニ諸官ハ之カ應用ニ際シテハ能

ク當時ノ狀況ヲ察シ學理原則ノ活用ヲ誤ラサルヲ要ス古語ニ曰ク狀況ハ萬事ヲ決スト味フヘキ哉言ヤ

(附言) 支作戰ニ任スル部隊ノ戰鬪ハ元來戰略的持久ノ性質ヲ有スルモノナリ而シテ戰術的決戰ヲ求ムヘキヤ戰術的持久戰ヲ企圖スヘキヤハ一ニ受ケタル任務本作戰ノ狀態及當面ノ狀況ニ關スルモノナリ

初級戰術講授錄第三卷 終

大正六年六月廿五日印刷
大正六年六月三十日發行

陸軍大學校將校集會所

發行者兼印刷者
東京市四谷區荒木町二番地
前田岩太郎

印刷所
東京市麴町區下六番町十七番地
同 勞 舍

319
380

終